

令和元年度版

平塚市子ども・子育て支援事業計画  
点検・評価

事業評価シート まとめ

～基本施策（市の取組み）～

# 留意事項

## 1 事業評価 総括表

### (1) 点数

評価がAの事業を5点、評価がBの事業を3点、評価がCの事業を1点とし、施策ごとの平均点を記載しています。評価なしは算定から除いています。

### (2) 評価

各事業の検証結果を記載しています。

A・・・成果があがった、 B・・・おおむね成果があがった、  
C・・・十分に成果をあげることができなかった、－・・・評価なし

### (3) 今後の事業展開

①現状の規模で継続、②拡大して継続、③縮小して継続、④廃止、  
⑤休止、⑥終了、⑦他事業と統合、⑧その他

### (4) 評価状況（131事業）

A 101事業、B 27事業、評価なし 3事業

## 2 事業評価シート

### (1) 各年度の主な取組み

過去3か年度の実施状況です。

### (2) 評価

各事業をA、B、Cの3段階で評価しました。

A・・・成果があがった（事業の成果が期待どおり又はそれ以上だった）  
B・・・おおむね成果があがった（事業の成果が期待を若干下回ったものの概ね満足できる）  
C・・・十分に成果をあげることができなかった（事業の成果が期待を下回り、満足できない）  
評価なし・・・事業の廃止等によって、評価できない。

### (3) 今後の課題

事業を進めていく中で、事業を充実させるための課題を挙げています。

### (4) 今後の事業展開とその判断理由

今後の事業展開は上記1（3）のとおりとしています。

判断理由は、「①現状の規模で継続」以外の場合に原則記載しています。

### (5) 子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しに併せて追加した事業

平成30年度から本計画に追加したため、平成29年度における主な取組み等は、省略させていただきます。

基本目標	施策	点数	番号	事業	評価	今後の事業展開	ページ
1 ありがとう！ 自分のいのち みんなのいのち	(1) 子どもの権利の確保	4.3	1	人権擁護意識の普及・啓発事業	B	①	1
			2	子どものための相談機能の充実	A	①	2
			3	保護を必要とする子どもへの対策	A	①	3
	(2) 児童虐待の防止	5	1	児童虐待防止ネットワークの充実	A	①	4
			2	養育支援訪問事業	A	①	5
	(3) 育ちの環境の整備	4.8	1	異年齢児交流事業	A	①	6
			2	世代間交流事業	A	①	7
			3	自然体験等活動	A	①	8
			4	夏休みこども環境教室事業	A	①	9
			5	水辺の楽校プロジェクト推進事業	B	①	10
			6	児童・生徒地域参加事業の推進	A	①	11
			7	自然観察等事業	A	①	12
			9	芸術文化子ども体験事業	A	②	14
	(4) 家庭や地域の教育力の向上	4.6	1	育児講座	A	①	15
			2	家庭教育支援の充実	B	①	16
			3	学習の場の充実	A	①	17
			4	子育て支援地域派遣事業	A	①	18
			5	地域福祉推進事業	B	②	19
			6	保育所のボランティアの受入れ	A	①	20
			7	非行防止活動の推進	A	①	21
			8	こころと命のサポート事業	A	①	22
			9	子ども学習支援委託事業	A	①	23
	2 たのしく！ 子育てを	(1) 様々な子育て支援サービス	4.3	1	一時預かり事業	A	①
2				ファミリー・サポート事業	B	①	25
3				ショートステイ事業 (未実施)	—	①	26
4				特別保育拡充事業	A	①	27
5				私立幼稚園の預かり保育の推進	A	①	28
6				病後児保育	B	②	29
7				学童保育の充実・推進	A	①	30
8				放課後等子どもの居場所づくり推進事業	B	①	31
9				放課後子ども総合プランの推進	B	①	32
10				民間保育所施設整備支援事業	A	①	33
11				公立保育所施設整備事業	A	①	34
12				私設保育施設等交流事業 (廃止)	—	④	35
13				私設保育施設への支援	B	①	36
14				幼保一元化のモデルケース事業	A	⑧	37
15				公立園の在り方の検討	A	⑧	38
16				養育医療費給付	A	①	39
(2) 親・子の交流の場づくり		4.7	1	子育て支援センター事業	A	①	40
			2	つどいの広場事業	A	①	41
			3	開放保育事業	A	①	42
	4		赤ちゃん広場事業	B	①	43	
	5		親子ふれあい体験事業	A	①	44	
	6		ブックスタート事業	A	①	45	
	7		活動場所の確保	A	①	46	

基本目標	施策	点数	番号	事業	評価	今後の事業展開	ページ
2 たのしく！子育てを	(3) 情報提供・相談体制の充実	4.3	1	情報提供の推進	A	①	47
			2	子育て支援総合コーディネート事業	B	①	48
			3	幼稚園・保育所の育児相談	A	①	49
			4	女性のための相談事業	B	①	50
			5	生活困窮者自立支援事業	A	②	51
			6	民生委員運営事業	A	①	52
	(4) 男女共同参画の推進	5	1	男女共同参画意識改革事業	A	①	53
	(5) 職場環境の改善	3.7	1	労働セミナー事業	B	①	54
			2	就労支援制度の普及啓発	B	①	55
			3	就労環境の向上に向けた普及・啓発	A	①	56
	(6) 母子・父子家庭の自立支援	5	1	母子・父子相談の充実	A	①	57
			2	母子・父子自立支援事業	A	①	58
			3	母子生活支援施設の充実 (廃止)	—	④	59
	(7) 経済的支援の充実	5	1	小児医療費の助成	A	①	60
			2	ひとり親家庭等医療費助成事業	A	①	61
			3	保育所保育料の軽減	A	①	62
			4	幼稚園就園奨励事業	A	④	63
			5	児童生徒就学奨励事業	A	①	64
			6	特別支援教育就学奨励奨励事業	A	①	65
7			生業扶助・教育扶助	A	①	66	
8			児童扶養手当	A	①	67	
9			特別児童扶養手当	A	①	68	
10			児童手当	A	①	69	
3 のびのび！学んで	(1) 学校(園)教育の充実	4.8	1	幼児教育指導法の工夫・改善	A	③	70
			2	幼・保・小・中連携の推進事業	A	①	71
			3	幼児教育の支援	A	①	72
			4	生きる力を育む学校づくり推進事業	A	①	73
			5	外国人英語指導者の学校訪問事業	A	①	74
			6	人権教育の推進	A	①	75
			7	日本語指導協力者派遣事業	A	①	76
			8	サポートチームシステム推進事業	A	①	77
			9	中学校部活動指導者派遣事業	A	①	78
			10	学校支援ボランティアの活用	A	①	79
			11	教材・教具等の充実	B	①	80
	(2) 相談活動の推進	5	1	教育相談体制の充実事業	A	②	81
			2	スクールカウンセラー派遣事業	A	②	82
			3	スクールソーシャルワーカー派遣事業	A	①	83
4 ほっと！安心のまちを	(1) 道路交通安全の向上	5	1	交通安全啓発推進事業	A	①	84
			2	歩道設置事業	A	①	85
			3	通学路合同点検事業	A	①	86
	(2) 防犯の強化	4.6	1	地域安全運動の推進	A	①	87
			2	地域安全施設整備事業	A	①	88
			3	学校(園)の安全対策事業	A	①	89
			4	通学路安全対策事業	A	①	90
			5	子どもの安全対策の推進	B	①	91

基本目標	施策	点数	番号	事業	評価	今後の事業展開	ページ
4 ほっと！安心のまちを	(3) あそびの場づくり	4	1	安全対策の推進	A	①	92
			2	公園整備事業	B	①	93
	(4) まちのバリアフリー化	5	1	歩道のバリアフリー化事業	A	①	94
			2	ノンステップバス推進事業	A	⑧	95
	(5) 有害環境の改善	4	1	環境実態調査	A	①	96
			2	違反屋外広告物除去事業	B	①	97
	5 すこやかに！育つて（平塚市母子保健計画）	(1) 切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策 基盤課題A	4	①1	妊婦健康診査	B	①
①2				妊産婦の相談の充実	A	①	99
①3				妊産婦への教育の充実	B	①	100
②1				乳幼児健康診査	B	①	101
②2				乳幼児期の相談の充実	B	①	102
②3				訪問事業	A	①	103
②4				学習の場の提供	B	①	104
②5				感染症対策の推進	A	②	105
②6				5歳児健康診査	A	①	106
②7		保育所における食育の推進	A	①	107		
(2) 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策 基盤課題B		4.7	①1	教育の充実1	A	①	108
			①2	教育の充実2	A	①	109
			①3	学校保健の充実	A	①	110
			①4	スクールカウンセラー派遣事業（再掲）	A	②	111
			②1	思春期の教育の充実	B	①	112
			②2	こころと命のサポート事業（再掲）	A	①	113
(3) 子どもが健やかに育つための地域づくり 基盤課題C		4.3	1	一時預かり事業（再掲）	A	①	114
			2	ファミリー・サポート事業（再掲）	B	①	115
			3	子育て支援センター事業（再掲）	A	①	116
			4	つどいの広場事業（再掲）	A	①	117
			5	開放保育事業（再掲）	A	①	118
			6	赤ちゃん広場事業（再掲）	B	①	119
(4) 育てにくさを感じる親への支援 重点課題①		4.8	①1	育てにくさを感じる親に寄り添う支援	A	①	120
			①2	子育て講座	B	①	121
			①3	ペアレントトレーニング	A	①	122
			②1	こども発達支援室の療育相談	A	①	123
			③1	地域療育システム事業	A	②	124
			③2	福祉サービス費の支給	A	①	125
			③3	障がい児保育	A	①	126
			③4	統合保育	A	①	127
			③5	体験・交流保育事業	A	③	128
	③6		支援教育等の推進・充実事業	A	①	129	
(5) 児童虐待の防止対策 重点課題②	5	①1	ハイリスク者への支援の充実	A	①	130	
		②1	児童虐待防止ネットワークの充実（再掲）	A	①	131	

1 (1) 1	人権擁護意識の普及・啓発事業	担当課	人権・男女共同参画課 教育総務課 教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
「児童の権利に関する条約」や人権について、パンフレット、広報ひらつか等を通して、権利主体としての子どもについて市民の理解促進に努めます。		子どもの権利の尊重について、より市民の理解促進や意識啓発を行うことができるように周知方法等を工夫し、取組みを推進します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権相談を実施 (24回開催) 相談員: 人権擁護委員 原則毎月第1、第3火曜日市庁舎本館会議室</li> <li>・人権擁護委員のパネル展を実施 (人権擁護委員について制度や活動内容等の紹介) 5月27日 (月)～6月7日 (金)</li> <li>・参加型人権啓発事業を実施 ららぼーと湘南平塚 参加者に人権に関するメッセージを記入してもらい、啓発物品を配布 令和元年9月7日 (土) 参加者224人、令和2年1月18日 (土) 参加者303人</li> <li>・人権キャンペーンを実施 (人権週間に伴う街頭キャンペーンを平塚駅周辺にて行い、啓発物品を配布) 12月11日 (水) 793人へ配布</li> <li>・人権メッセージ展を実施 (市内中学校から集まった人権メッセージを展示) 11月25日 (月)～12月6日 (金)</li> <li>・映画「めぐみー引き裂かれた家族の30年」上映と人権講演会を開催 令和元年12月20日 (金) 参加者117人</li> <li>・LGBTパネル展を実施 (実際のLGBTの方の声を展示) 4月10日 (水)～23日 (火)、8月26日 (月)～9月6日 (金)、令和2年2月13日 (木)～28日 (金)</li> </ul>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題	今年度からパネル展の一部をららぼーと湘南平塚にて実施したが、今後はららぼーと湘南平塚での実施回数を増やす等、さらに多くの方の目に触れるよう検討を続ける必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権相談を実施 (23回開催) 相談員: 人権擁護委員 原則毎月第1、第3火曜日市庁舎本館会議室</li> <li>・参加型人権啓発事業を実施 ららぼーと湘南平塚 参加者に人権に関するメッセージを記入してもらい、啓発物品を配布 9月8日 (土) 参加者253人、11月4日 (日) 参加者280人</li> <li>・人権キャンペーンを実施 (人権週間に伴う街頭キャンペーンを平塚駅周辺にて行い、啓発物品を配布) 12月13日 (木) 794人へ配布</li> <li>・人権メッセージ展を実施 (市内中学校から集まった人権メッセージを展示) 11月26日 (月)～12月7日 (金)</li> <li>・人権講演会「インターネットによる人権侵害～ネット被害から子どもを守れ～」を開催 平成31年1月30日 (水) 参加者146人</li> <li>・LGBTパネル展を実施 (実際のLGBTの方の声を展示) 4月9日 (月)～20日 (金)、8月27日 (月)～9月7日 (金)、平成31年2月4日 (月)～15日 (金)</li> </ul>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題	各種展示については、より多くの方の目に触れるよう開催方法を再考する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権相談を実施 (23回開催) 相談員: 人権擁護委員 原則毎月第1、第3火曜日市庁舎本館会議室</li> <li>・参加型人権啓発事業を実施 ららぼーと湘南平塚 参加者に人権に関するメッセージを記入してもらい、啓発物品を配布 7月29日 (土) 参加者297人、11月25日 (土) 参加者246人</li> <li>・人権キャンペーンを実施 (人権週間に伴う街頭キャンペーンを平塚駅周辺にて行い、啓発物品を配布) 12月15日 (金) 825人へ配布</li> <li>・人権メッセージ展を実施 (市内中学校から集まった人権メッセージを展示) 11月27日 (月)～12月8日 (金)</li> <li>・LGBTパネル展を実施 (実際のLGBTの方の声を展示) 4月17日 (月)～28日 (金)、8月28日 (月)～9月7日 (木)、平成30年2月2日 (金)～16日 (金)</li> </ul>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題	参加型の人権啓発事業の参加者が昨年度に比べて人数が減少してしまった。開催方法を再考し、参加者が増えるように工夫する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (1) 2	子どものための相談機能の充実	担当課	青少年課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子ども自身や保護者が相談できる電話・来室相談や学校における相談の機会等、子どものための相談体制を充実します。		子ども自身や保護者の悩みを早期に解決するために相談機能の充実を図ります。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数 青少年相談 (火～土) 214件 ヤングテレホン相談 (火～土) 100件 ヤングメール相談50件</li> <li>相談室の啓発チラシを4月、9月、2月の3回 (各回32,000部)、市内小・中・高校・中等教育学校、大磯高校、二宮高校の全児童・生徒及び教職員宛てと各公民館・図書館へ配布した。</li> <li>相談室の啓発カードを5月に、上記の学校や施設への配布と併せて、近隣の鶴嶺高校、茅ヶ崎高校、茅ヶ崎西浜高校、寒川高校、秦野高校、秦野曾屋高校、秦野総合高校、伊志田高校、伊勢原高校、向上高校、自修館中等教育学校へ保健室配布分として各20部送付した。</li> <li>不登校・ひきこもり対策として、NPO法人が実施する不登校・ひきこもり改善事業を名義後援し、支援した。</li> <li>新たな啓発方法として、12月からツイッターを開設し、青少年相談室に関する情報の配信を開始した。</li> <li>神奈川県主催相談員研修 (8月、2月)、人権研修 (10月)、湘南地域青少年社会環境健全化推進連絡会講演会 (10月)、青少年行政関係職員研修 (2月) に相談員が参加し、資質向上を図った。</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化している。青少年が相談しやすい環境を整備するとともに、様々な相談に対応するために相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実させる必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続 子どものためのセーフティネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数 青少年相談 (火～土) 328件 ヤングテレホン相談 (火～土) 140件 ヤングテレホンメール相談105件</li> <li>相談室の啓発チラシを4月、9月、1月の3回 (各回32,000部)、市内小・中・高校・中等教育学校、大磯高校、二宮高校の全児童・生徒及び教職員宛てと各公民館・図書館へ配布した。</li> <li>相談室の啓発カードを5月に、上記の学校や施設への配布と併せて、近隣の鶴嶺高校、茅ヶ崎高校、茅ヶ崎西浜高校、寒川高校、秦野高校、秦野曾屋高校、秦野総合高校へ保健室配布分として20部送付した。</li> <li>平成28年度から開始したNPO法人との市民提案型協働事業「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」を5月・6月・9月・10月・11月・1月の6回、青少年会館各会合室及び体育館にて開催した。</li> <li>神奈川県主催相談員研修 (5月、7月、1月) 及び自殺対策研修 (9月、12月) に相談員が参加し、資質向上を図った。</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実させる必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数 青少年相談 (月～土) 368件 ヤングテレホン相談 (月～土) 218件 ヤングテレホンメール相談37件</li> <li>相談室の啓発チラシを6月、11月、1月の3回 (各回32,000部)、市内小・中・高校・中等教育学校、大磯高校、二宮高校の全児童・生徒及び教職員宛てと各公民館・図書館へ配布した。</li> <li>相談室の啓発カードを4月に、上記の学校や施設への配布と併せて、近隣の鶴嶺高校、茅ヶ崎高校、茅ヶ崎西浜高校、寒川高校、秦野高校、秦野曾屋高校、秦野総合高校へ保健室配布分として20部送付した。</li> <li>平成28年度から開始したNPO法人との市民提案型協働事業「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」を6月・9月・11月・1月の4回、青少年相談室及び市民センター会議室にて開催した。</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	現在の子どもたちを取りまく社会環境は変化し、子どもや保護者の抱える悩みも複雑・多様化しており、これに応ずる相談員の資質を高めるなど、相談機能をより充実させる必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 子どものためのセーフティネットの一つとして機能するため、現在の相談体制を維持しつつ、相談機能の充実を図ることが必要。	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (1) 3	保護を必要とする子どもへの対策	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども総合相談担当と県児童相談所との連携を密にし、保護を必要とする子どもへの早期対応を図ります。</li> <li>・里親制度の啓発・普及に努めます。</li> </ul>		引続き事業を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会の調整機関となり、関係機関との連携を密にし保護を必要とする子どもへの対策の充実を図った。</li> <li>・里親制度紹介講座及び里親相談（平塚児童相談所主催）について、広報ひらつかへの掲載、関係機関へのチラシの配布などを行い、里親制度の啓発・普及に努めた。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会の調整機関となり、関係機関との連携を密にし保護を必要とする子どもへの対策の充実を図った。</li> <li>・里親制度紹介講座及び里親相談（平塚児童相談所主催）について、広報ひらつかへの掲載、関係機関へのチラシの配布などを行い、里親制度の啓発・普及に努めた。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会の調整機関となり、関係機関との連携を密にし保護を必要とする子どもへの対策の充実を図った。</li> <li>・里親制度紹介講座及び里親相談（平塚児童相談所主催）について、広報ひらつかへの掲載、関係機関へのチラシの配布などを行い、里親制度の啓発・普及に努めた。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			



1 (2) 1	児童虐待防止ネットワークの充実	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
児童虐待は、こども総合相談担当を中心に相談を受け、児童の処遇対応をしていますが、必要に応じて援助活動チームを編成し、関係機関と連携を取り対応します。		平塚市児童虐待防止等ネットワークの構成機関と連携し、子育ての支援、虐待等の早期発見や未然防止及び対策を進めます。また、定期的の実務者会議を開催するとともに、個別ケース検討会議を随時開催します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議 98回</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議110回</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議78回</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (2) 2	養育支援訪問事業	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保護者の疾病等の理由により、児童を養育することに支障が生じた家庭に対して、安定した児童の養育が可能となるように訪問による支援を実施します。		適切な時期に支援が導入できるように関係機関と連携を図り、実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	件数：6件 実施内容： ①訪問44回（保健師訪問23回） ②電話相談85回（保健師電話42回） ③家事援助（ヘルパー）：61回 計100時間 ④所内面接、同行受診等：21回（保健師訪問4回）		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	次年度以降も必要な家庭に対して本事業へつなげていきます。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	件数：4件 実施内容： ①訪問16回（保健師訪問9回） ②電話相談24回（保健師電話19回） ③家事援助（ヘルパー）：36回 計53時間 ④所内面接、同行受診等：4回		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	次年度以降も必要な家庭に対して本事業へつなげていきます。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	件数：4件 実施内容： ①訪問27回（保健師訪問13回） ②電話相談33回（保健師電話21回） ③家事援助（ヘルパー）：34回 計45.5時間 ④所内面接、同行受診等：9回		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	次年度以降も必要な家庭に対して本事業へつなげていきます。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (3) 1	異年齢児交流事業	担当課	保育課 教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
園の行事や地域の行事等を通して、幼稚園や保育所の園児と地域の児童や小学生との交流を図り、幼児及び児童の社会性を養います。〔対象：就学前児童及び小学生〕		園の行事や地域の行事を通して、地域の児童や小学生と交流します。また、乳幼児が小学校を訪問したり、園に小学生を招待して一緒に活動する等の交流を図ります。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	保育課 ・保育施設と小学校の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、園児と小学生の交流を図った。 実施園：41園 ・中高生の職業体験や保育ボランティア等の受け入れを積極的に実施した。 実施園：41園 教育指導課 ・幼稚園児と小中学校生徒の相互訪問、並びに、園行事や地域の行事等様々な活動を通し交流を図った。 実施園：4園		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	保育課 ・保育施設と小学校の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、園児と小学生の交流を図った。 実施園：41園 ・中高生の職業体験や保育ボランティア等の受け入れを積極的に実施した。 実施園：41園 教育指導課 ・幼稚園児と小中学校生との相互訪問、並びに、園行事や地域の行事等様々な活動を通し交流を図った。 実施園：4園		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	保育課 ・保育施設と小学校の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、園児と小学生の交流を図った。 実施園：41園 ・中高生の職業体験や保育ボランティア等の受け入れを積極的に実施した。 実施園：41園 教育指導課 ・幼稚園児と小中学校生との相互訪問、並びに、園行事や地域の行事等様々な活動を通し交流を図った。 実施園：4園		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (3) 2	世代間交流事業	担当課	保育課 教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
高齢者施設の訪問や地域の高齢者を幼稚園や保育所へ招待し、園児や地域の子どもとともに世代間のふれあい活動を行います。〔対象：就学前児童及び高齢者〕		定期的な高齢者施設の訪問や、保育所・幼稚園に園児の祖父母や地域の高齢者を招待し、世代間のふれあい活動を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	保育課 ・保育施設と高齢者施設の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、世代間の交流を図った。 実施園：41園 教育指導課 ・幼稚園の幼児の祖父母や地域の高齢者を幼稚園へ招待し、ふれあい活動（祖父母の集い、地域の高齢者との交流）を行った。 実施園：4園		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	保育課 ・保育施設と高齢者施設の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、世代間の交流を図った。 実施園：41園 教育指導課 ・幼稚園の幼児の祖父母や地域の高齢者を幼稚園へ招待し、ふれあい活動（祖父母の集い、地域の高齢者との交流）を行った。 実施園：4園		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	保育課 ・保育施設と高齢者施設の間で、年中行事等の際に相互訪問することにより、世代間の交流を図った。 実施園：41園 教育指導課 ・幼稚園の幼児の祖父母や地域の高齢者を幼稚園へ招待し、ふれあい活動（祖父母の集い、地域の高齢者との交流）を行った。 実施園：4園		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (3) 3	自然体験等活動	担当課	保育課 教育指導課 青少年課
<b>事業の概要（計画掲載内容）</b> ・保育所、幼稚園の園児や地域の子どもの「生きる力」を培い、また社会性の育成を図るため、自然体験や社会体験活動を行います。〔対象：就学前児童〕 ・自然とふれあう体験活動の機会の充実を図ります。〔対象：小学生等〕		<b>今後の取組み（計画掲載内容）</b> ・地域の自然を活用した自然体験活動や園外保育等において、園では味わえない自然体験や社会体験活動を実施します。 ・概ね月1回程度、自然のものを生かしたクラフトや野外炊事、作物の植付収穫等の体験を実施します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	保育課 ・湘南海岸や湘南平、相模川や花水川、里山など、地域の自然を活用した自然体験活動、季節の野菜や花の栽培を通した自然とのふれあい体験活動等を実施した。 実施園：41園 ・ミニミニ運動会や地域の子育て活動の場において、自然物を利用した工作を実施した。 教育指導課 ・幼稚園各園の地域性を生かした植物・作物の栽培・収穫活動等の自然体験活動を行った。また、園外保育等の社会体験活動を行った。 実施園：4園 青少年課 ・びわ青少年の家で、作物の植付から収穫までの一連の農作業や収穫物の加工などの自然体験・創作活動等を行う「びわっ子クラブ」を開催した。 会員数：32名 開催回数：11回（年間活動計画に定める活動：9回、番外編活動：2回） 参加者数：延べ568人（ボランティアスタッフ含む） ※5月「森の新緑祭」、10月「森の収穫祭」、12月「森の歳末祭」を含む。この3回に関しては、会員家族と会員以外の一般家族も募集した。 ※8月の「びわっ子サマーキャンプ」では、1泊2日の宿泊体験を行った。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	保育課 ・湘南海岸や湘南平、相模川や花水川、里山など、地域の自然を活用した自然体験活動、季節の野菜や花の栽培を通した自然とのふれあい体験活動等を実施した。 実施園：41園 ・ミニミニ運動会や地域の子育て活動の場において、自然物を利用した工作を実施した。 教育指導課 ・幼稚園各園の地域性を生かした植物・作物の栽培・収穫活動等の自然体験活動を行った。また、園外保育等の社会体験活動を行った。 実施園：4園 青少年課 ・びわ青少年の家自主事業 「びわっ子クラブ」 年9回開催（参加者 延べ566人 ボランティアスタッフ含む） ※5月「森の新緑祭」、10月「森の収穫祭」、12月「森の歳末祭」を含む。この3回に関しては、会員家族と会員以外の一般家族も募集した。 ※8月の「びわっ子サマーキャンプ」では、1泊2日の宿泊体験を行った。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	保育課 ・湘南海岸や湘南平、相模川や花水川、里山など、地域の自然を活用した自然体験活動、季節の野菜や花の栽培を通した自然とのふれあい体験活動等を実施した。 実施園：41園 ・ミニミニ運動会や地域の子育て活動の場において、自然物を利用した工作を実施した。 教育指導課 ・幼稚園各園の地域性を生かした植物・作物の栽培・収穫活動等の自然体験活動を行った。また、園外保育等の社会体験活動を行った。 実施園：4園 青少年課 ・びわ青少年の家自主事業 「びわっ子クラブ」 年9回開催（参加者 延べ464人 ボランティアスタッフ含む） ※5月「森の新緑祭」、10月「森の収穫祭」、12月「森の歳末祭」を含む。この3回に関しては、会員家族と会員以外の一般家族も募集した。 ※8月は、「びわっ子サマーキャンプ（1泊2日）」でテント泊を体験した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

1 (3) 4	夏休み子ども環境教室事業	担当課	環境政策課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>環境の保全や創造の重要性に気づき、考え、それぞれの立場に応じて自発的、積極的に行動できる人材の育成を目指すため、里山で自然にふれる体験をしたり、普段見ることのない沖合を、遊漁船に乗って観察する等します。</p>		<p>昆虫探しや小川遊び、自然を生かした遊具体験等を通じて里山の自然とふれあう体験学習と、ビーチコーミング (浜辺の漂着物観察) やビーチクリーン、漁船からの相模湾の観察を行い、海辺の環境を考える体験学習を夏休み期間中にそれぞれ1回ずつ実施することで、次世代を担う子どもたちの環境への関心を高めるように促します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和 元 年 度	<p>夏休み子ども環境教室を実施。海岸編は10月の秋休み期間中に実施。  <b>【里山編】</b> 実施日時：令和元年8月3日 (土) 午前9時00分～12時00分          実施場所：平塚市土屋里山体験フィールド          参加人数：49人 (子ども26人、保護者23人)          実施内容：昆虫探し、里山遊び、工作教室 (竹細工)  <b>【海岸編】</b> 実施日時：令和元年10月15日 (火) (秋休み期間中) 午前10時00分～12時00分          実施場所：なでしこ公民館          参加人数：16人 (子ども9人、保護者7人)          実施内容：「マイクロプラスチックってなんだろう」をメインとして、海岸の漂着物からプラごみの問題について学んだ。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	今年度は、海岸編を秋休みを利用して、社会問題となっている「マイクロプラスチック」を題材とした環境教室が実施できた。海浜植物の観察等を実施するなど通年で開催できるように今後も柔軟に対応していきたい。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成 3 0 年 度	<p>夏休み子ども環境教室を実施。海岸編は6月の土曜日に実施。  <b>【里山編】</b> 実施日時：平成30年8月4日 (土) 午前9時00分～12時00分          実施場所：平塚市土屋里山体験フィールド          参加人数：65人 (子ども36人、保護者29人)          実施内容：昆虫探し、里山遊び、工作教室 (竹細工)  <b>【海岸編】</b> 実施日時：平成30年6月2日 (土) 9時30分～12時00分          実施場所：南部福祉会館          参加人数：27人          実施内容：相模湾の動植物についての講義、海浜植物等の観察、流木・貝殻・シーグラスを使用した工作</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	「夏休み子ども環境教室」としているが、今年度の海岸編のように6月に開催した方が、海浜植物が豊富など、観察対象の適期を考慮すると夏休みにこだわる必要はないと考えるので、より充実した内容となるよう柔軟に検討したい。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成 2 9 年 度	<p>夏休み子ども環境教室を実施。  <b>【里山編】</b> 実施日時：平成29年8月5日 (土) 9時00分～12時00分          実施場所：平塚市土屋里山体験フィールド          参加人数：91人 (子ども50人、保護者41人)          実施内容：昆虫探し、里山遊び、工作教室 (竹細工)  <b>【海岸編】</b> 実施日時：平成29年8月19日 (土) 9時15分～12時00分          実施場所：南部福祉会館          参加人数：11人          実施内容：相模湾の動植物についての講義、海浜植物等の観察、流木・貝殻・シーグラスを使用した工作</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (3) 5	水辺の楽校プロジェクト推進事業	担当課	みどり公園・水辺課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子どもたちが、積極的に自然にふれあいながら「あそび」「学び」「冒険心」「創造性」を育み、自然と接する「作法」や「感性」を養う場として活用します。		市民や子どもたちのあそびや自然体験の場として積極的に活用できるようにするために水辺の楽校の維持管理を行うとともに、活動団体が、イベント等を実施する際に、広報活動等の支援を行います。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>公募イベントの開催16回 (参加者705名)  ※雨および新型コロナウイルスの影響でイベントが3回中止となった。</p>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題	人気のある大規模なイベント(やぎ島探検)が雨で中止になったが、新規イベント(ともしびの夕べ)を開催し参加人数を増やすことができた。イベントの実施主体NPO法人暮らし・つながる森里川海のメンバーが高齢化しているため、後継者不足を憂慮している。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続 昨年度と比較すると、新規イベント(ともしびの夕べ)を開催した影響で参加人数を増やすことができ、よい傾向である。引き続き公募イベントで市内・市外問わず広く募集し、水辺の楽校を多くの人に知ってもらえるよう現状のペースで開催していくよう調整していきたい。	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然探偵団活動の開催8回 (参加者178名)  ※雨でイベントが2回中止となった。</li> <li>公募イベント開催21回 (参加者434名)  ※雨でイベントが3回中止となった。</li> </ul>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題	これまで市民団体である「馬入水辺の楽校の会」が催しの企画から実施まで行っていたが、平成29年度から「馬入水辺の楽校運営協議会」を組織し、水辺の楽校の運営について協議をした上で、実際の催しの実施については、他団体 (NPO法人暮らし・つながる森里川海) へ委託することになった。今後も、活動が維持されることを期待したい。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 昨年度と比較すると、自然探偵団の活動回数が減り、公募イベントの開催回数が増えているが、公募イベントは市内・市外問わず広く募集しているため、水辺の楽校を多くの人に知ってもらうことを考えると、とてもいい傾向だと思う。現状のペースで開催していくよう調整していきたい。	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然探偵団活動の開催21回 (参加者439人)  ※雨でイベントが4回中止になった。</li> <li>公募イベント開催9回 (参加者256人)</li> </ul>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題	これまで市民団体である「馬入水辺の楽校の会」が催しの企画から実施まで行っていたが、「馬入水辺の楽校運営協議会」を組織し、水辺の楽校の運営について協議をした上で、実際の催しの実施については、他団体 (NPO法人暮らし・つながる森里川海) へ委託することになった。今後、これまで以上に活動が活発化されることを期待したい。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (3) 6	児童・生徒地域参加事業の推進	担当課	中央公民館
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
地域における異年齢児との交流活動、野外、体育レクリエーション活動、文化活動等の事業を推進します。		地域団体と協力し、児童・生徒が様々な体験をできる場を提供します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区公民館では、児童・生徒地域参加事業として、卓球教室や陶芸教室、料理教室等を実施した。また、社会福祉協議会や地域教育力ネットワーク協議会等との共催で、デイキャンプや科学教室、かがく縁日等を実施した。</li> <li>・学校の年間予定表の入手及び地域団体との情報交換を行い、他行事の日程等を考慮して事業を企画・実施した。</li> </ul> <p>計91事業 延べ9,216人</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	引き続き、他行事の日程等を考慮して事業を企画・実施する。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区公民館では、児童・生徒地域参加事業として、デイキャンプや卓球教室、陶芸教室、料理教室等を実施した。小学校PTAや社会福祉協議会等の地域団体と協力して、児童・生徒に多様な体験の場を提供した。</li> <li>・地域や学校との交流において、各行事予定の把握に努めた。</li> </ul> <p>計96事業 延べ9,418人</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	学校の年間予定表の入手及び地域団体との情報交換によって、事前に行事予定を把握する。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育レクリエーション、ニューイヤーコンサート、地域密着型の職業体験、防災キャンプ、地域のイベント（盆踊り）など、様々な内容の体験学習を通じ、異年齢児の交流や地域の大人とふれあう機会を創出した。地域各種団体から構成される実行委員会形式の事業など、地域団体と協力して行うことができた。</li> </ul> <p>計95事業 延べ9,656人</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	公民館事業と地域や学校行事が重なる場合があるため、事前に地域や学校行事の予定を把握するとともに、公民館の事業予定について早期に周知を行う。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			



1 (3) 7	自然観察等事業	担当課	博物館
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>児童・生徒が身近な自然に親しみ理解する機会となるように、生物分野では「自然教室」、地質分野では「自然観察入門講座」、天文分野では「星を見る会」をそれぞれ実施します。</p>		<p>アンケート等を活用して保護者や参加者の意見を取入れ、子どもの興味関心を惹きつけられるような事業展開を行います。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>生物分野で「自然教室」、「みんなで調べよう 平塚のカタツムリ」を実施した。地質分野では「自然観察入門講座」に加え、「河原の石ころ図鑑をつくろう」、「サメの歯化石のレプリカを作ろう」、「小さくても偉大なブチ化石実物図鑑づくり」を実施した。天文分野で「星を見る会」を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然教室 5回実施 36人 (うち子ども9人)</li> <li>・みんなで調べよう「平塚のカタツムリ」 2回実施 15人 (うち子ども6人)</li> <li>・自然観察入門講座「貝化石を調べよう」 1回実施 14人 (うち子ども9人)</li> <li>・河原の石ころ図鑑をつくろう 1回実施 28人 (うち子ども16人)</li> <li>・サメの歯化石のレプリカを作ろう 1回実施 105人 (うち子ども60人)</li> <li>・小さいけど偉大なブチ化石実物図鑑づくり 1回実施 143人 (うち子ども80人)</li> <li>・星を見る会 4回実施 245人 (うち子ども100人)</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	申込制の観察行事は年度によって参加者数に大きな変動がある。一方、自由参加の手軽なイベントの参加が多く、この参加者を他の行事に誘導する工夫が求められる。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>生物分野で「野鳥観察会」、「みんなで調べよう セミのぬけがら調べ」を実施した。地質分野では「自然観察入門講座」に加え、「サメの歯化石のレプリカを作ろう」、「小さくても偉大なブチ化石実物図鑑づくり」を実施した。天文分野で「星を見る会」を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野鳥観察会 1回実施 6人 (うち子ども2人)</li> <li>・自然観察入門講座「貝化石を調べよう」 1回実施 5人 (うち子ども3人)</li> <li>・サメの歯化石のレプリカを作ろう 1回実施 63人 (うち子ども23人)</li> <li>・小さいけど偉大なブチ化石実物図鑑づくり 1回実施 87人 (うち子ども45人)</li> <li>・みんなで調べよう「セミのぬけがら調べ」 3回実施 75人 (うち子ども43人)</li> <li>・星を見る会 6回実施 1592人 (うち子ども694人)</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	定例的な観察行事は年度によって参加者数に大きな変動がある一方、火星大接近に合わせた星を見る会では例年にない参加があった。市民のニーズと時宜を勘案した企画が必要になる。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>生物分野で「野鳥観察会」、「みんなで調べよう セミのぬけがら調べ」を実施した。地質分野では「自然観察入門講座」に加え、「おいしく学ぶキッチン火山実験」、「小さくても偉大なブチ化石実物図鑑づくり」を実施した。天文分野で「星を見る会」を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野鳥観察会 1回実施 10人 (うち子ども3人)</li> <li>・自然観察入門講座「貝化石を調べよう」 1回実施 37人 (うち子ども28人)</li> <li>・おいしく学ぶキッチン火山実験 1回実施 77人 (うち子ども43人)</li> <li>・小さいけど偉大なブチ化石実物図鑑づくり 1回実施 111人 (うち子ども75人)</li> <li>・みんなで調べよう「セミのぬけがら調べ」 3回実施 36人 (うち子ども22人)</li> <li>・星を見る会 5回実施 248人 (うち子ども91人)</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	自然科学の分野では野外での観察行事は欠かすことのできないものであるが、天候や状況によって開催の可否や内容が大きく左右されるため、開催時の内容に柔軟性が求められる。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (3) 8	プラネタリウム投影事業	担当課	博物館
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
児童・生徒が宇宙や天文への関心と理解を深める機会となるように、投影を実施します。投影においては一般投影の他、幼稚園及び小・中学校向けの投影プログラムを準備し団体見学を受入れます。		幼稚園及び小・中学校向け投影については各教員の意見を取入れ、一般向け投影についてはアンケート結果を参考にしながら、プログラムを作成し、投影を行います。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児団体・学校団体向け投影を実施した。</li> <li>・ 幼児向けの投影時間を設定して投影した。</li> <li>・ 幼児・学校団体向け投影。 観覧者数4,209人 (うち子ども3,630人)</li> <li>・ 一般・一般団体向け投影。 観覧者数6,826人 (うち子ども1,916人)</li> <li>・ 投影回数 306回</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	1か月余り休演し投影機器を更新したが、天体の研究や投影機器の機能は日々進歩することから、番組制作にあたっての継続的な調査研究が必要になる。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児団体・学校団体向け投影を実施した。</li> <li>・ 幼児向けの投影時間を設定して投影した。</li> <li>・ 幼児・学校団体向け投影。 観覧者数3,305人 (うち子ども2,724人)</li> <li>・ 一般・一般団体向け投影。 観覧者数5,426人 (うち子ども1,931人)</li> <li>・ 投影回数 219回</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	天体の研究や投影機器の機能が日々進歩する一方、投影機器やコントロール機材は日々経年劣化するため、順次更新が必要になる。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 投影回数ならびに観覧者数の減少は、内装モルタル補修工事に伴う臨時休館によるもの。	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児団体・学校団体向け投影を実施した。</li> <li>・ 幼児向けの投影時間を設定して投影した。</li> <li>・ 幼児・学校団体向け投影。 観覧者数4,961人 (うち子ども4,337人)</li> <li>・ 一般・一般団体向け投影。 観覧者数8,492人 (うち子ども2,908人)</li> <li>・ 投影回数 377回</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	天体の研究や投影機器の機能が日々進歩する一方、投影機器やコントロール機材は日々経年劣化するため、順次更新が必要になる。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (3) 9	芸術文化子ども体験事業	担当課	社会教育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子どもたちが、長い歴史と伝統の中から生まれ守り伝えられてきた貴重な財産である芸術文化を体験することで、歴史、伝統、芸術文化に対する関心や理解を深め、豊かな人間性を育む機会を提供します。		小・中学校、平塚市文化連盟、地域教育力ネットワーク協議会及び公民館等と連携し、体験事業の実施を充実します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>【各地区事業 (通年開催)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおすみ地区「生け花」      ・金目地区「奇術」      ・神田地区「生け花」</li> <li>・旭陵地区「生け花」「人形芝居」</li> <li>・土沢地区「生け花」「人形芝居」 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)</li> <li>・中原地区「生け花」「人形芝居」      ・横内地区「琴」「生け花」</li> </ul> <p>【公民館事業 (通年開催)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花水公民館 (新規)「茶道」「生け花」</li> </ul> <p>【学校への講師派遣 (通年開催)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金田小学校 (新規)「琴」      ・真土小学校 (新規)「琴」      ・崇善小学校「琴」</li> <li>・中原小学校「琴」      ・みずほ小学校「琴」</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	未実施の地区や学校への周知をより推進する。また、現在未報酬で事業を実施していただいている文化連盟所属団体等の講師の負担軽減策を考えていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 地区開催事業では現在15地区中8地区が未実施であり、公民館での実施は1館、学校への講師派遣事業では実施校が小学校5校にとどまるため。	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区事業 (通年開催)</li> <li>横内地区: 「生け花」、「琴」      旭陵地区: 「生け花」、「奇術」      金目地区: 「奇術」</li> <li>神田地区: 「生け花」      金旭地区: 「生け花」、「お茶」</li> <li>中原地区: 「生け花」、「お茶」、「人形芝居」      土沢地区: 「生け花」「人形芝居」</li> <li>※おおすみ地区でも「生け花」を予定していたが悪天候により開催日当日中止となった。</li> <li>・学校への講師派遣 (通年開催)</li> <li>みずほ小学校「琴」、中原小学校「琴」、崇善小学校「琴」、なでしこ小学校「琴」</li> <li>年度当初に学校向けの事業照会パンフレットを作成し配布したところ、実施校数が1増となった。</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	未実施の地区や学校への周知をより推進する。また、現在未報酬で事業を実施していただいている文化連盟所属団体等の講師の負担軽減策を考えていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 地区開催事業では現在15地区中7地区が未実施であり、学校への講師派遣事業では実施校が小学校4校にとどまるため。	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体事業 (12月16日開催)</li> <li>市内小学生3～6年生及び中学生を対象に「生け花」、「お茶」、「奇術」の体験教室を実施。</li> <li>・各地区事業 (通年開催)</li> <li>横内地区: 「生け花」、「琴」      旭陵地区: 「生け花」、「人形芝居」      金目地区: 「人形芝居」</li> <li>土沢地区: 「生け花」、「人形芝居」      神田地区: 「生け花」      金旭地区: 「奇術」</li> <li>中原地区: 「生け花」、「お茶」、「人形芝居」      大住地区: 「生け花」</li> <li>・学校への講師派遣 (通年開催)</li> <li>みずほ小学校「琴」、大野小学校「琴」、崇善小学校「琴」</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	事業未実施の地区への働きかけ。また、学校での当事業の認知度が低いので、周知方法を検討する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 現在15地区中7地区が未実施であるため。なお、全体事業は、各地区での事業実施にあたってのモデル事業の側面も兼ね備えており、スタッフがノウハウを学ぶ機会にもなっている。	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (4) 1	育児講座	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育て家庭の不安感、負担感が軽減できるように乳幼児の健全な心身の発達、親・家庭の果たす役割及び親子の関係等について学び、親の育児力の向上を図るため、育児講座を開催します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を開催したり、保護者との懇談会を実施します。</li> <li>民生委員児童委員等の意見を伺い、地域のニーズに合う講座を開催します。</li> </ul>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>保育所等で、親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を実施した。また、保護者との懇談会などを通して、育児不安の解消や育児力の向上に努めた。</p> <p>各種講座：親子ふれあい遊び、簡単クッキング、歯科巡回教室、読み聞かせ、リンパマッサージなど</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<p>保育所等で、親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を実施した。また、保護者との懇談会などを通して、育児不安の解消や育児力の向上に努めた。</p> <p>各種講座：親子ふれあい遊び、簡単クッキング、歯科巡回教室、読み聞かせ、リンパマッサージなど</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>保育所等で、親の育児不安の解消や育児力の向上を目的とした各種講座を実施した。また、保護者との懇談会などを通して、育児不安の解消や育児力の向上に努めた。</p> <p>各種講座：親子ふれあい遊び、簡単クッキング、歯科巡回教室、読み聞かせ、リンパマッサージなど</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

1 (4) 2	家庭教育支援の充実	担当課	中央図書館 中央公民館												
<b>事業の概要 (計画掲載内容)</b> 中央公民館で家庭教育講演会、各地区公民館で家庭教育学級を開催します。		<b>今後の取組み (計画掲載内容)</b> ・子どもの読書活動を啓発するため、イベント等を開催します。 ・受講者アンケート等を基に、子育て世代の学習ニーズを捉えた講座を実施します。 ・平塚市子ども読書活動推進計画 (第三次) を策定中であり、新たな事業展開を予定しています。													
<b>各年度における主な取組み等</b>															
令和元年度	<p>中央図書館 ・平塚市子ども読書活動推進フォーラムを中央図書館で実施。 (全2回 合計154人参加/令和元年8月3日実施 午前参加者数9人・午後参加者数10人、令和元年11月23日実施 午前(第1部)参加者数46人・(第2部)参加者数48人・午後参加者数41人) ・平塚市子ども読書活動推進計画(第三次)にて、家庭に向けた子ども読書活動を重点取組Ⅰとして、その啓発を進めた。 ・中央公民館では、平塚市PTA連絡協議会との共催で、家庭教育講演会「ダンスのプロデューサーにして人間力向上の指導者に関く〜子どもの能力と魅力を輝かせるには〜」を実施した。講師として、夏まゆみ氏を迎えた。(参加者351人) ・各地区公民館では、家庭教育学級として、清掃施設見学やえいごでリトミック、子育てサロン等を実施した。また、アンケート結果を活用して子育て世代のニーズを把握し、新たな事業としてチームラボ探検隊やサイエンス教室等を実施した。 (109事業、延べ3,342人)</p> <table border="1" data-bbox="172 719 1367 936"> <tr> <td data-bbox="172 719 363 750">検証結果</td> <td colspan="3" data-bbox="363 719 1367 750">B: おおむね成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 750 363 846">今後の課題</td> <td colspan="3" data-bbox="363 750 1367 846">中央図書館 令和2年度からはじまる平塚市子ども読書活動推進計画(第4次)の目標達成に向け、「家庭向け講演会の実施」及び「実践型イベントの実施」に取り組む。 中央公民館 引き続き、子育て世代のニーズを把握し、事業を企画・実施する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 846 363 936">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="3" data-bbox="363 846 1367 936">①現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	B: おおむね成果があがった			今後の課題	中央図書館 令和2年度からはじまる平塚市子ども読書活動推進計画(第4次)の目標達成に向け、「家庭向け講演会の実施」及び「実践型イベントの実施」に取り組む。 中央公民館 引き続き、子育て世代のニーズを把握し、事業を企画・実施する。			今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続		
検証結果	B: おおむね成果があがった														
今後の課題	中央図書館 令和2年度からはじまる平塚市子ども読書活動推進計画(第4次)の目標達成に向け、「家庭向け講演会の実施」及び「実践型イベントの実施」に取り組む。 中央公民館 引き続き、子育て世代のニーズを把握し、事業を企画・実施する。														
今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続														
平成30年度	<p>中央図書館 ・平塚市子ども読書活動推進フォーラムを中央図書館で実施。 (全4回 合計142人参加 平成30年7月21日実施 参加者数81人、9月29日午前実施 26人、午後実施5人、11月10日実施 30人) ・平塚市子ども読書活動推進計画(第三次)にて、家庭に向けた子ども読書活動を重点取組Ⅰとして、その啓発を進めた。 中央公民館 ・平塚市PTA連絡協議会との共催で、家庭教育講演会「体操金メダリスト内村航平選手の母に聞く〜内村流子育て「好き」を伸ばすほめて伸ばす〜」を開催した。講師として、内村周子氏を迎えた。(参加者507人) ・中央公民館では、市民アカデミー講座「気張らない子育て」を開催し、乳幼児の子育て世代向けにパートナーとのコミュニケーション、アートセラピーなどについて学ぶ機会を提供した。(延べ42人) ・各地区公民館では、家庭教育学級として、親子の料理教室やクイックマーク講座等を実施した。また、アンケートの実施により、子育て世代のニーズを把握して新たな事業を展開した。(110事業、延べ3,033人)</p> <table border="1" data-bbox="172 1189 1367 1406"> <tr> <td data-bbox="172 1189 363 1220">検証結果</td> <td colspan="3" data-bbox="363 1189 1367 1220">B: おおむね成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 1220 363 1317">今後の課題</td> <td colspan="3" data-bbox="363 1220 1367 1317">中央図書館 ・フォーラム実行委員会への市民参加、小学校高学年から中高生の参加者への働きかけ。 中央公民館 ・引き続き、子育て世代のニーズを把握して、事業を計画・実施する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 1317 363 1406">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="3" data-bbox="363 1317 1367 1406">① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	B: おおむね成果があがった			今後の課題	中央図書館 ・フォーラム実行委員会への市民参加、小学校高学年から中高生の参加者への働きかけ。 中央公民館 ・引き続き、子育て世代のニーズを把握して、事業を計画・実施する。			今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続		
検証結果	B: おおむね成果があがった														
今後の課題	中央図書館 ・フォーラム実行委員会への市民参加、小学校高学年から中高生の参加者への働きかけ。 中央公民館 ・引き続き、子育て世代のニーズを把握して、事業を計画・実施する。														
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続														
平成29年度	<p>中央図書館 ・平塚市子ども読書活動推進フォーラムを中央公民館で実施。 (平成29年8月10日実施 参加者数467人) ・平塚市子ども読書活動推進計画(第三次)にて、家庭に向けた子ども読書活動を重点取組Ⅰとして、その啓発を進めた。 中央公民館 ・12月14日(木)小林 さやか氏(ピリギヤル本人)を迎え、「「ゼツタイ無理」に挑んだピリギヤルが語る〜あきらめない心を持たせる人のかかわり〜」をテーマに平塚市PTA連絡協議会と共催で家庭教育講演会を開催した。参加者延べ566人 ・中央公民館では、ちゅうおうフェスタと同時開催で家庭教育公開講座「子育て応援フェスタ」を開催し、乳幼児の子育て世代を対象に、子どもたちと一緒にコンサートや映画を楽しみながら子育てのコツ聴く機会を創出した。参加者延べ200人 ・各地区公民館では、子育てを楽しむことをテーマにした講座や、子どもの感染症をテーマにした講座など、子育て世代のニーズに沿った内容で家庭教育学級を実施した。 101事業 延3,126人</p> <table border="1" data-bbox="172 1659 1367 1877"> <tr> <td data-bbox="172 1659 363 1691">検証結果</td> <td colspan="3" data-bbox="363 1659 1367 1691">B: おおむね成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 1691 363 1787">今後の課題</td> <td colspan="3" data-bbox="363 1691 1367 1787">子育て世代が抱える課題や要望が多様化しているため、ニーズを把握し、時代に即した講座を検討する必要がある。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 1787 363 1877">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="3" data-bbox="363 1787 1367 1877">③ 縮小して継続 子ども読書活動推進フォーラムについて、より細やかに市民のニーズに応えるため、中央公民館での大規模開催を取りやめて、中央図書館で計3回の参加型啓発事業を開催。</td> </tr> </table>			検証結果	B: おおむね成果があがった			今後の課題	子育て世代が抱える課題や要望が多様化しているため、ニーズを把握し、時代に即した講座を検討する必要がある。			今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 子ども読書活動推進フォーラムについて、より細やかに市民のニーズに応えるため、中央公民館での大規模開催を取りやめて、中央図書館で計3回の参加型啓発事業を開催。		
検証結果	B: おおむね成果があがった														
今後の課題	子育て世代が抱える課題や要望が多様化しているため、ニーズを把握し、時代に即した講座を検討する必要がある。														
今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 子ども読書活動推進フォーラムについて、より細やかに市民のニーズに応えるため、中央公民館での大規模開催を取りやめて、中央図書館で計3回の参加型啓発事業を開催。														
<b>備考 (その他)</b>															

1 (4) 3	学習の場の充実	担当課	中央公民館
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
男女がともに子育てに取り組むことができるように、男性のための事業等を推進するとともに、仕事を持つ親等も参加しやすい日時の開催に努めます。		公民館事業を通して家族のふれあいが生まれるように親子を対象とした事業を今後も実施します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区公民館では、家庭教育学級として、「パパとふれあいストレッチ」や「パパとミニ遠足」を実施した。また、木工教室や運動遊び会、凧作り講座等の男性が参加しやすい内容の事業を実施した。</li> <li>上記の事業を土日祝の午前中に実施した。</li> <li>土日祝に開催した親子対象の事業 87事業 延べ4,087人</li> <li>男性を対象とした料理教室、工作等 10事業 延べ228人</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	引き続き、開催日時や内容を考慮して事業を企画・実施する。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区公民館では、男性の料理教室や親子のテニス教室、凧作り教室等、男性が参加しやすい事業を実施することによって、子育てに参加する機会を提供した。また、親子を対象とした事業を土日祝に実施した。</li> <li>土日祝に開催した親子対象の事業 84事業 延べ3,828人</li> <li>男性を対象とした料理教室、スキンケア教室 8事業 延べ246人</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	開催日時を考慮したり、内容を充実させたりしながら、男性が参加しやすい講座を企画・実施する。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区公民館では「親子でB. LEAGUEを見にいこう!」や「相模貨物駅見学～貨物線・貨物駅の役割ってなんだろう?～」等、男性保護者が参加しやすい内容で事業を開催し、男性保護者が子育てへ参加する機会を創出した。また、仕事を持つ親が参加しやすい環境を整備するため、親子を対象とした事業を土・日・祝日に開催した。</li> <li>45事業 2,208人</li> <li>男性を対象とした料理教室を実施した。 6事業 89人</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	全体的には女性の参加が多いので、男性が参加しやすい事業を企画する必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (4) 4	子育て支援地域派遣事業	担当課	保育課 健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
地域の子育てサークルや子育て支援活動等に保育士や保健師等を派遣し、育児に関する相談・支援を行います		地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士や保健師等を派遣し、育児情報の提供や育児相談、あそびの紹介等を実施します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	保育課 ・公立保育所において、地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士を積極的に派遣している。 子育てサークル派遣：6回、子育て支援活動：135回 健康課 ・地域の子育てサークルや子育て支援活動に保健師・管理栄養士・歯科衛生士が従事し、育児情報の提供や育児相談などを実施。 1 子育てサークル 派遣回数：保健師 1回、栄養 1回、歯科 1回 2 地区子育て広場 派遣回数：保健師 15回、栄養 9回、歯科 7回 保育園、幼稚園での育児講座 派遣回数： 栄養 1回、歯科 5回 3 子育て支援センター 派遣回数：保健師 1回、栄養 1回、歯科 2回 ・地区の要望に沿って対応している。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	保育課 ・公立保育所において、地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士を積極的に派遣している。 子育てサークル派遣：5回、子育て支援活動：144回 健康課 ・地域の子育てサークルや子育て支援活動に保健師・管理栄養士・歯科衛生士が従事し、育児情報の提供や育児相談などを実施。 1 子育てサークル 派遣回数：保健師 1回、栄養 1回、歯科 1回 2 地区子育て広場 派遣回数：保健師 18回、栄養 10回、歯科 7回 保育園、幼稚園での育児講座 派遣回数： 栄養 3回、歯科 6回 3 子育て支援センター 派遣回数：保健師 1回、栄養 3回、歯科 3回 ・地区の要望に沿って対応している。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	保育課 ・公立保育所において、地域の子育てサークルや子育て支援活動に保育士を積極的に派遣している。 子育てサークル派遣 5回、子育て支援活動 147回 健康課 ・地域の子育てサークルや子育て支援活動に保健師・管理栄養士・歯科衛生士が従事し、育児情報の提供や育児相談などを実施。 1 子育てサークル 派遣回数： 栄養 2回、歯科 1回 2 地区子育て広場 派遣回数：保健師 20回、栄養 13回、歯科 13回 保育園、幼稚園での育児講座 派遣回数：保健師 1回、栄養 2回、歯科 13回 3 子育て支援センター 派遣回数：保健師 1回、栄養 2回、歯科 2回 ・地区の要望に沿って対応している。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (4) 5	地域福祉推進事業	担当課	福祉総務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
地域福祉を推進するため、市民と行政との協働により、地域の子どもから高齢者までがお互いに助け合い、支え合う仕組みとしての町内福祉村の新設及び既設福祉村等の環境整備を支援します。		既存福祉村について活動の支援を行う他、福祉村未設置地区に出向き、本事業の説明やワークショップを実施していく中で、町内福祉村の普及啓発活動を行います。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	既設18地区の町内福祉村の活動に対する支援を通じて、住民主体の身近な生活支援やふれあい交流活動が活発に行われ、地域福祉が推進されました。また、各福祉村を対象とした調査で特徴的な活動を抽出して福祉村会長会議等で伝達することにより、好事例を水平展開できるよう支援しました。		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	福祉村の運営にかかる会計処理の適正化を推進するとともに、参加ボランティアの拡大や地域全体の課題に目を向けた活動の展開、他地区における好事例の水平展開などについて検討する必要があります。	
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 町内福祉村を設置していくことは、地域における住民間の支え合いの仕組みを構築する有効な手段であるため。		
平成30年度	既存の町内福祉村に対する運営支援については、年4回の福祉村会長会議、諸課題を検討するための部会を5回開催して意見交換と情報提供を行い、他の福祉村の好事例等を参考に各福祉村の活動が活性化するように努めた。また、町内福祉村の認知度を高めるため、各福祉村と連携して啓発チラシを作成するなど、地域福祉の推進のための後方支援をした。町内福祉村未開設地区に対しては、数地区に対して町内福祉村の設置を促し、説明会を開催したが、本年度中の開設には至らず、継続的に協議を進めていくこととなった。町内福祉村のコーディネーター育成のため、県・市・諸団体が主催する研修会への参加を求め、地域力の充実を図った。		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	町内福祉村の新設やボランティア数の増加などには、地域福祉の推進を地域住民が主体となって進めていく風土の醸成が必要である。	
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 市内地区公民館区（25地区）に、町内福祉村の設置を進めている。		
平成29年度	既存の町内福祉村に対する運営支援については、年4回の福祉村会長会議、諸課題を検討するための部会を5回開催して意見交換と情報提供を行った。また、各町内福祉村の活動内容に関するアンケート調査を行い活動一覧を作成することにより、好事例を多くの町内福祉村に水平展開しやすいよう努めた。町内福祉村未開設地区に対しては、開設の希望のあった豊田地区において設立支援をした結果、新たに町内福祉村が設立された。町内福祉村のコーディネーター育成のため、県・市・諸団体が主催する研修会への参加を求め、地域力の充実を図った。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	町内福祉村の新設やボランティア数の増加などには、地域福祉の推進を地域住民が主体となって進めていく風土の醸成が必要である。	
今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 市内地区公民館区（25地区）に、町内福祉村の設置を進めている。		
<b>備考 (その他)</b>			



1 (4) 6	保育所のボランティアの受入れ	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
園児とのふれあいを通して、保育の基礎的な知識や技術を習得してもらい、地域への社会奉仕活動への参加を図るため、小・中学生、高校生の保育実習及び地域の保育ボランティアの受入れを行います。		小・中学生・高校生の社会（職業）体験学習や保育実習の場を提供したり、地域のボランティアや絵本の読み聞かせボランティア等の受入れをします。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みに高校生の保育実習を受入れた。 45人 38園で実施</li> <li>・小・中・高生の社会（職業）体験学習や保育実習、地域の高齢者のボランティアや絵本の読み聞かせボランティアなどの受入れを随時行っている。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みに高校生の保育実習を受入れた。 63人 38園で実施</li> <li>・小・中・高生の社会（職業）体験学習や保育実習、地域の高齢者のボランティアや絵本の読み聞かせボランティアなどの受入れを随時行っている。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みに高校生の保育実習を受入れた。 57人 38園で実施</li> <li>・小・中・高生の社会（職業）体験学習や保育実習、地域の高齢者のボランティアや絵本の読み聞かせボランティアなどの受入れを随時行っている。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (4) 7	非行防止活動の推進	担当課	青少年課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>心豊かで、規範意識・遵法精神・社会性が向上した青少年を一人でも多く育成するため、社会を明るくする運動を通して、講演会や街頭啓発キャンペーン等を行います。</li> <li>愛護指導活動、相談活動を行います。</li> <li>青少年指導員による環境浄化活動を行います。</li> </ul>		青少年の非行を防止するため、学校及び地域と協力し、パトロールを実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常愛護指導を火～土曜日の毎日に、特別愛護指導を七夕まつり、花火大会、年末に実施。中学校区強化愛護指導を全15校区のうち12校区は各1回、2校区は2回、1校区は3回実施 (指導件数1,348件)</li> <li>社会を明るくする運動を各地区において開催 (22地区で実施、延べ5,166人参加)</li> <li>社会を明るくする運動啓発キャンペーンを実施 (135人参加)</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	指導件数は、近年減少傾向にあるが、市内のたまり場の移動など青少年の問題行動等が年々変化しているため、学校・地域関係団体と常に情報を共有しつつ、協力して取り組む必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続 青少年の非行・問題行動等を防止するためには、学校・地域関係団体との現在の協力体制を維持しつつ、継続的に取り組む必要がある。	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>火～土曜日に通常愛護指導を毎日実施 (指導件数1,122件)</li> <li>七夕、花火大会、年末愛護指導や夜間特別愛護指導を実施 (指導件数233件)</li> <li>中学校区強化愛護指導を実施 (全15校区のうち12校区は各1回、1校区は2回、1校区は3回実施。指導件数は51件)</li> <li>社会を明るくする運動を各地区において開催 (23地区で実施、延べ6,690人参加)</li> <li>社会を明るくする運動街頭啓発キャンペーンを実施 (170人参加)</li> <li>青少年指導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールの実施 (指導件数12件)</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	指導件数は、近年減少傾向にあるが、市内のたまり場の移動など青少年の問題行動等が年々変化しているため、学校・地域関係団体と常に情報を共有しつつ、協力して取り組む必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 青少年の非行・問題行動等を防止するためには、学校・地域関係団体との現在の協力体制を維持しつつ、継続的に取り組む必要がある。	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>月～金曜日に通常愛護指導を毎日実施 (指導件数1140件)</li> <li>七夕、花火大会、年末愛護指導や夜間特別愛護指導を実施 (指導件数291件)</li> <li>中学校区強化愛護指導を実施 (全15校区のうち11校区は各1回、4校区2回実施。指導件数は75件)</li> <li>社会を明るくする運動を各地区において開催 (23地区で実施、延べ7,231人参加)</li> <li>社会を明るくする運動街頭啓発キャンペーンを実施 (176人参加)</li> <li>青少年指導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールの実施 (1回、指導件数7件)</li> <li>神奈川県平塚警察署少年補導員、青少年補導員の合同による街頭パトロールを実施 (1回、指導件数2件)</li> </ul>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	指導件数は、近年減少傾向にあるが、市内のたまり場の移動など青少年の問題行動等が年々変化しているため、学校・地域関係団体と常に情報を共有しつつ、協力して取り組む必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 青少年の非行・問題行動等を防止するためには、学校・地域関係団体との現在の協力体制を維持しつつ、継続的に取り組む必要がある。	
備考 (その他)			

1 (4) 8	こころと命のサポート事業	担当課	福祉総務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
地域において実施しているおはなし会や読み聞かせ、読み語り等の中で、「命の大切さ、尊さ」をテーマに取り上げてもらうことで、命の大切さ、尊さを普及・啓発し、自殺対策を推進します。		地域で活動している団体等に、本事業についての理解を深めてもらい、おはなし会、読み聞かせ、読み語りの中で「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうように働きかけを行い、命の大切さ、尊さの普及啓発を推進します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況 ①花水小学校 255回延べ8,766人    ②平塚工科高等学校 2回延べ43人    ③花水公民館 17回延べ179人 ④花水さくら保育園 54回延べ1,466人    ⑤黒部丘幼稚園 43回延べ940人    ⑥なでしこ小学校 126回延べ3,890人 ⑦しらさぎ保育園 3回延べ15人    ⑧相模小学校 1回364人    ⑨江陽中学校 2回延べ784人 ⑩南原小学校 1回242人    ⑪大原小学校 1回40人    ⑫南原保育園 3回延べ59人 ⑬富士見公民館 2回延べ52人    ⑭吉沢保育園 4回延べ70人    ⑮大住中学校 1回50人 ⑯港こども園 4回延べ80人    ⑰夕陽ヶ丘保育園 3回延べ27人    ⑱港小学校 1回20人 合計 8地区 実施回数523回 延べ17,087人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	現在、すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況 ①花水小学校 284回延べ9,167人    ②平塚工科高等学校 2回43人 ③花水公民館 20回延べ348人    ④花水台保育園 184回延べ3,724人 ⑤黒部丘幼稚園 64回延べ1,012人    ⑥なでしこ小学校 124回延べ4,000人 ⑦港小学校 1回20人    ⑧八幡山洋館 2回15人 ⑨江陽中学校 2回延べ578人    ⑩中原中学校 6回延べ200人 ⑪大原小学校 3回延べ101人    ⑫横内中学校 1回61人 合計 7地区 実施回数693回 延べ19,269人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	現在、すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況 ①花水小学校 282回延べ9,176人    ②平塚工科高等学校 2回延べ55人    ③花水公民館 22回延べ628人 ④花水台保育園 197回延べ3,901人    ⑤黒部丘幼稚園 66回延べ1,120人    ⑥なでしこ小学校 125回延べ4,290人 ⑦浜岳中学校 6回延べ1,585人    ⑧松原小学校 1回延べ557人    ⑨夕陽ヶ丘保育園 10回延べ205人    ⑩ 港小学校 1回延べ120人    ⑪松が丘小学校 4回延べ422人    ⑫大原小学校 9回延べ458人 ⑬神田中学校 3回延べ417人    ⑭松延小学校 4回延べ114人    ⑮南原保育園 3回延べ57人 ⑯南原小学校 2回延べ261人    ⑰中原中学校 2回延べ535人    ⑱山城中学校 3回延べ1,054人 ⑲八幡小学校 3回延べ86人    ⑳横内小学校 10回550人    ㉑横内中学校 1回延べ59人 ㉒旭陵中学校 2回延べ424人    合計 11地区 実施回数758回 延べ26,074人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	今後も取組が他地区へも広がっていくことが望まれるため、協議会をはじめ保育園等とも協力・連携し、命の大切さや尊さを伝える普及啓発を推進する。すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

1 (4) 9	子ども学習支援委託事業	担当課	生活福祉課
事業の概要 (中間年見直し掲載内容)		今後の取組み (中間年見直し掲載内容)	
将来の自立に向けた高等学校進学のため、生活保護世帯及び生活困窮世帯の中学2、3年生に学習の支援をします。		対象学年を中学1年生まで拡大と実施場所の増設を検討します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	参加実績 中学1年生 17名 中学2年生 23名 中学3年生 29名  実施場所 1か所 開催日数 118日		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	今後、参加生徒が増加した場合には実施場所の増設と学習指導員の確保が課題	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	参加実績 中学1年生 17名 中学2年生 23名 中学3年生 30名  実施場所 1か所 開催日数 102日		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	今後、参加生徒が増加した場合には実施場所の増設と学習指導員の確保が課題	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成29年度	平成29年度に実施した中間年の見直しに併せて、本計画に追加した事業のため、掲載は省略します。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
備考 (その他)			

2 (1) 1	一時預かり事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保護者の断続的な就労、病気や育児疲れの解消等の理由で、子どもの保育ができないときの緊急・一時的な保育を行います。 [対象：就学前児童]		施設型給付の幼稚園や民間保育所でも一時預かりを実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	・民間保育所20園で実施 (延べ利用児童数13,296人)		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	・民間保育所19園で実施 (延べ利用児童数15,412人)		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	・民間保育所19園で実施 (延べ利用児童数17,036人)		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (1) 2	ファミリー・サポート事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>子育ての援助を受けたい方 (依頼会員) と子育ての援助を行いたい方 (支援会員) を組織化し、幼稚園・保育所等への送迎及びその前後の預かり等の育児の援助活動の橋渡しを行います。 〔依頼会員：0歳からおおむね9歳までの児童の保護者〕</p>		<p>支援会員に対する講習時間を段階的に増やし、支援サービスの向上を図ります。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会員入会説明会を2回開催。</li> <li>・支援会員の講習会を2回開催。</li> <li>・支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。</li> <li>・支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。</li> <li>・支援会員サポートを5回開催。</li> </ul> <p>会員数：支援会員291人、依頼会員1,455人、内両方会員30人 活動件数：2,834件 前年度の課題への取組状況：平成30年度の取組を継続して実施することで周知を図り、支援会員の増加に向けた取組を行った。</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	引き続き支援会員の増加を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>①現状の規模で継続</p> <p>令和2年4月1日から支援会員の処遇向上を目的に、依頼会員が支援会員に支払う報酬(基準)のうち、1時間あたり700円の時間帯を「午前6時～午後10時」から「午前7時～午後7時」に変更。</p>	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会員入会説明会を2回開催。</li> <li>・支援会員の講習会を2回開催。</li> <li>・支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。</li> <li>・支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。</li> <li>・支援会員サポートを4回開催。</li> </ul> <p>会員数：支援会員283人、依頼会員1,371人、内両方会員30人 活動件数：2,252件 前年度の課題への取組状況：広報ひらつかやホームページ等での周知に加え、元気応援ポイント説明会や福祉村会議で本事業の周知や、以前依頼会員として登録していた方へ支援会員への移行をご案内するなど、支援会員の増加に向けた取組を行った。</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	引き続き支援会員の増加を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>②拡大して継続</p> <p>対象年齢について、平成31年4月から依頼会員のお子さんの対象年齢を小学校6年生まで拡大。(従来はおおむね9歳まで)</p>	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会員入会説明会を2回開催。</li> <li>・支援会員の講習会を2回開催。</li> <li>・支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。</li> <li>・支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。</li> </ul> <p>会員数：支援会員326人、依頼会員1,331人、内両方会員42人 活動件数：2,798件</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	支援会員の増加を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (1) 3	ショートステイ事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>保護者の病気等により家庭において養育を受けることができない児童について、児童養護施設等での必要な保護を行います。 〔対象：就学前児童及び小学生〕</p>		<p>今後のニーズや地域の実情を踏まえて、事業の実施について研究、検討します。</p>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	現在、本市では事業を実施していない。		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題	ニーズや地域の実情などを踏まえた事業のあり方を検討していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続 ショートステイに関する問い合わせはほとんどなく、ニーズを見いだせない状況にあり、事業化は難しいと考えている。	
平成30年度	現在、本市では事業を実施していない。		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題	ニーズや地域の実情などを踏まえた事業のあり方を検討していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 現時点では、ショートステイに関する問い合わせはほとんどなく、ニーズを見いだせない状況にあり、事業化は難しいと考えている。	
平成29年度	平成25年12月に実施した「子育て支援に関するアンケート調査」の結果を集計・分析し、ショートステイ事業についてのニーズ量を算出した結果、ニーズ量は5年間で0人となっている。現在、本市では事業を実施していない。		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題	ニーズや地域の実情などを踏まえた事業のあり方を検討していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 現時点では、ショートステイに関する問い合わせはほとんどなく、ニーズを見いだせない状況にあり、事業化は難しいと考えている。	
備考 (その他)			

2 (1) 4	特別保育拡充事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保育所において、延長保育、障がい児保育、休日保育を行います。〔対象：就学前児童〕		引続き、延長保育、障がい児保育、休日保育を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延長保育 (全園で実施)</li> <li>・障がい児保育 (全園で受入れ可)</li> <li>・休日保育 (1園で実施)</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延長保育 (全園で実施)</li> <li>・障がい児保育 (全園で受入れ可)</li> <li>・休日保育 (1園で実施)</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延長保育 (全園で実施)</li> <li>・障がい児保育 (全園で受入れ可)</li> <li>・休日保育 (1園で実施)</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			



2 (1) 5	私立幼稚園の預かり保育の推進	担当課	学務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
県と連携を取りながら、地域の保育需要に対応した、私立幼稚園における預かり保育の充実を図ります。 [対象：3歳から就学前児童]		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	新制度未移行の市内私立幼稚園全てで実施いただいた。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	子ども・子育て支援新制度へ移行予定の園に対して、長時間預かり保育支援事業を周知し、制度の活用を検討いただく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	市内私立幼稚園全てで実施いただいた。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	子ども・子育て支援新制度へ移行予定の園に対して、長時間預かり保育支援事業を周知し、制度の活用を検討いただく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	市内私立幼稚園全てで実施いただいた。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	子ども・子育て支援新制度へ移行予定の園に対して、長時間預かり保育支援事業を周知し、制度の活用を検討いただく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (1) 6	病後児保育	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子どもが病気の回復期にあるときに、保護者が仕事や病気等により自宅で看病ができない場合に対応するため、病後児保育を行います。		利用者の声や地域のニーズを把握し、利用しやすくなるように工夫しながら事業を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	市内1か所で実施。 延べ利用児童数 270人		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続 時期により定員を超える申込みがあることなどから、事業の拡充に向け取り組んでいく。	
平成30年度	市内1か所で実施。 延べ利用児童数 239人		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続 時期により定員を超える申込みがあることなどから、事業の拡充に向け取り組んでいく。	
平成29年度	市内1か所で実施。 延べ利用児童数 262人		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続 時期により定員を超える申込みがあることなどから、事業の拡充に向け取り組んでいく。	
備考 (その他)			

2 (1) 7	学童保育の充実・推進	担当課	青少年課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
学童保育の充実を図るため、学童保育指導員を対象とした市主催の研修を推進します。また、近年、県等主催の研修が充実してきたため、より多くの研修機会が持てるように、情報提供し、参加を促進します。〔対象：小学生〕		県や、外部機関等の研修について情報提供するとともに、市主催の研修については、外部機関の研修内容を踏まえ、実践的な研修を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	学童保育指導員を対象に放課後児童健全育成事業研修会を実施した。 7月 普通救命講習 2日間 参加者63人 2月 子どもの人権を守るために～学童保育で大切にしたいこと～ 1日 参加者56人 3月 発達障がい児の理解等について 1日 新型コロナウイルス感染症の影響のため中止		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	学童保育指導員を対象に放課後児童健全育成事業研修会を実施した。 7月 普通救命講習 2日間 参加者77人 2月 子どもの関わり方について 1日 参加者61人 3月 発達障がい児の理解等について 1日 参加者73人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	学童保育指導員を対象に放課後児童健全育成事業研修会を実施した。 7月 普通救命講習 2日間 参加者82人 9月 水害について 1日 59人 2月 放課後児童クラブにおける安全を考える 1日 51人 3月 発達障がいのお子さんの理解 1日 52人 3月 スクールソーシャルワーカーとは 1日 45人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (1) 8	放課後等子どもの居場所づくり推進事業	担当課	社会教育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
放課後や土曜日等に、地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、子どもたちが学習や文化活動、地域住民との交流活動などを継続的に体験できる取組みを推進します。		放課後や土曜日等に、子どもたちが文化・スポーツ、自然体験など様々な活動をする機会を増やします。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室 八幡地区「やわた子ども村」実施 港地区「港放課後子ども教室」実施</li> <li>・土曜日の教育支援体制等構築事業 横内地区「横内マイタウンスクール」実施</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	地域で受け皿となる組織の確立や活動を牽引する指導者の確保等の課題があり、他地域への拡大は難しい状況だが、事業の拡充・充実に向けて、庁内関係課と連携し、地域や学校に働きかけていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室 八幡地区「やわた子ども村」実施 港地区「港放課後子ども教室」実施</li> <li>・土曜日の教育支援体制等構築事業 横内地区「横内マイタウンスクール」実施</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	地域で受け皿となる組織の確立や活動を牽引する指導者の確保等の課題があり、他地域への拡大は難しい状況だが、地域の力による子どもの居場所づくりを目指し、庁内関係課と連携し、事業未実施の地区や学校に働きかけていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 「放課後子ども教室」の他地域への拡大や、「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」の実施を推進し、放課後等の子どもの居場所づくりを充実するため。	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室 八幡地区「やわた子ども村」実施 港地区「港放課後子ども教室」実施</li> <li>・土曜日の教育支援体制等構築事業 横内地区「横内マイタウンスクール」実施</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	地域で受け皿となる組織の確立や活動を牽引する指導者の確保等の課題があり、他地域への拡大は難しい状況だが、庁内関係課と連携し、事業未実施の地区や学校に働きかけていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 「放課後子ども教室」の他地域への拡大や、「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」の実施を推進し、放課後等の子どもの居場所づくりを充実するため。	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (1) 9	放課後子ども総合プランの推進	担当課	青少年課 教育総務課 社会教育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>厚生労働省と文部科学省が策定した「放課後子ども総合プラン」の趣旨にのっとり、全ての子どもたちが放課後等を安全、安心に過ごし、多様な体験、活動を行うことができるよう、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的あるいは連携した取組みを推進します。</p>		<p>放課後児童クラブと放課後子ども教室との一体的あるいは連携した取組みを、地域の団体や学校等と連携して検討していきます。</p> <p>【検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室について、その実施主体の検討を行うとともに、設置が必要と判断される場合には、平成31年度までの間を目途にその整備計画について検討します。</li> <li>・放課後子ども教室を設置する場合には、放課後児童健全育成事業と一体的又は連携して実施するように検討します。</li> <li>・小学校の余裕教室等の利用状況を定期的に調査し、放課後児童健全育成事業及び放課後子ども教室への活用の可能性について検討していきます。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」との一体的または連携した取組みに向けて、関係三課が協議した。また、行政関係者及び関係団体の代表で組織する平塚市放課後等子どもの居場所づくり運営委員会を令和2年3月11日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため、書面開催とした。</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の一体的または連携した取組みを推進するため、放課後子ども教室実施地区の拡大を働きかけるとともに学校の余裕教室活用の調整等を行う必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」との一体的または連携した取組みに向けて、関係三課が協議した。また、行政関係者及び関係団体の代表で組織する平塚市放課後等子どもの居場所づくり運営委員会を平成31年3月13日に開催した。</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の一体的または連携した取組みを推進するため、放課後子ども教室実施地区の拡大を働きかけるとともに学校の余裕教室活用の調整等を行う必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 学校施設を活用した「放課後児童クラブ」の整備及び一体的または連携した「放課後子ども教室」の他地域への拡大を図ることで、放課後子ども総合プランを推進するため。	
平成29年度	<p>「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」との一体的または連携した取組みに向けて、関係三課が協議した。また、行政関係者及び関係団体の団体で組織する平塚市放課後等子どもの居場所づくり運営委員会を平成30年3月22日に開催した。</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の一体的または連携した取組み推進のためには、放課後子ども教室の未実施地区へ事業実施を働きかけるとともに学校の余裕教室活用の調整等を行っていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 学校施設を活用した「放課後児童クラブ」の整備及び一体的または連携した「放課後子ども教室」の他地域への拡大を図ることで、放課後子ども総合プランを推進するため。	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (1) 10	民間保育所施設整備支援事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保育所待機児童の解消や保育サービスの充実を図るため、社会福祉法人立保育所の施設整備に対して助成を行います。		入所児童の安全性や生活環境の改善を図るために民間保育所を対象に引続き助成します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人立保育所5園の施設の小規模な修繕に対して助成</li> <li>・社会福祉法人立保育所1園の施設の増築工事に対して助成</li> <li>・社会福祉法人立保育所1園の新園整備工事に対して助成</li> <li>・小規模保育事業所1か所の新規開設に伴う施設改修工事に対して助成</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人立保育所5園の施設の小規模な修繕に対して助成</li> <li>・社会福祉法人立保育所1園の施設の増改築工事に対して助成</li> <li>・社会福祉法人立保育所1園の新園整備工事に対して助成</li> <li>・小規模保育事業所2か所の新規開設に伴う施設改修工事に対して助成</li> <li>・私立認定こども園1園のブロック塀の修繕に対して助成</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人立保育所5園の施設の小規模な修繕に対して助成</li> <li>・認定こども園1園の防犯対策整備に対して助成</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (1) 11	公立保育所施設整備事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
安心・安全・快適な保育環境の向上や地域への子育て支援の充実に を図るため、老朽化した公立保育所の施設整備を行います。		公立保育所において修繕を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	公立保育所7園及び認定こども園1園について、施設・設備等の小規模な修繕を実施した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	公立保育所8園及び認定こども園1園について、施設・設備等の小規模な修繕を実施した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	公立保育所8園及び認定こども園1園について、施設・設備等の小規模な修繕を実施した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (1) 12	私設保育施設等交流事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
私設保育施設の保育士や児童を公立保育所に招き、また、保育士が私設保育施設に訪問して、保育に関する支援や児童の交流を図ります。		市内私設保育施設のニーズを踏まえ、事業を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	平成27年度をもって廃止		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	④廃止	
平成30年度	平成27年度をもって廃止		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	④ 廃止	
平成29年度	平成27年度をもって廃止		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	④ 廃止	
備考 (その他)			



2 (1) 13	私設保育施設への支援	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
児童の健康診断、職員の保菌検査、施設賠償責任保険の諸経費に対して助成を行います。		新たな子ども・子育て支援制度の状況を見極めながら、補助の内容を見直します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	私設保育施設 6 施設に助成した。		
	検証結果	B : おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	私設保育施設 6 施設に助成した。		
	検証結果	B : おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	私設保育施設5施設に助成した。		
	検証結果	B : おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (1) 14	幼保一元化のモデルケース事業	担当課	保育課 教育総務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
港幼稚園と須賀保育園を統合する「幼保連携型認定こども園」として(仮称)港地区認定こども園を開設します。		平成27年度中の整備着工、28年度の整備完了、29年度の供用開始を目指します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>・平成29年4月1日に幼保連携型認定こども園として供用開始した「港こども園」において、実際にこども園を運営していく中で出てくる課題について検討・対処し、モデルケースとしての知見の蓄積を図った。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	⑧その他 供用開始により当初設定の「今後の取組み」は達成した。	
平成30年度	<p>・平成29年4月1日に幼保連携型認定こども園として供用開始した「港こども園」において、実際にこども園を運営していく中で出てくる課題について検討・対処し、モデルケースとしての知見の蓄積を図った。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	⑧その他 供用開始により当初設定の「今後の取組み」は達成した。	
平成29年度	<p>・平成29年4月1日に幼保連携型認定こども園として「港こども園」を開設し、同日付で供用開始</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	⑧その他 供用開始により当初設定の「今後の取組み」は達成した。	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (1) 15	公立園の在り方の検討	担当課	保育課 教育総務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
公立幼稚園5園、公立保育所10園については、その在り方について庁内検討会で検討し、協議してきましたが、平成24年度にまとめた「平塚市幼保一元化に関する検討会中間報告」を基に協議を進めています。		新たな子ども・子育て支援制度の状況を見極めながら、公立園の在り方を検討します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度当初から、民間事業者による新園（花水さくら保育園）が仮設園舎にて開設、園運営を開始した。</li> <li>新園舎が9月下旬に竣工し、10月上旬から新園舎における保育を開始した。</li> <li>平成30年度までは公立園として、その後、令和元年10月上旬までは民間園として使用していた仮設園舎を解体した。</li> <li>平成29年2月にまとめた「平塚市幼保一元化に関する公立園の見直しについて」に基づき、令和元年度末で、さくら幼稚園及び金目幼稚園を廃園した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	⑧その他 令和2年度上半期までにひばり幼稚園の存続の方向性について判断する。	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度から民営化される花水台保育園について、新園舎を整備・運営する事業者と園運営の引継ぎ等について協議した。</li> <li>民営化される花水台保育園の新園舎整備に向け、仮設園舎での園運営を行った。</li> <li>花水台保育園の旧園舎を解体し、その後、民間事業者による新園建設工事を進めている。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>港幼稚園と須賀保育園を統合した港こども園が平成29年4月1日に開所した。</li> <li>民営化が予定されている花水台保育園については、新園舎を整備・運営する事業者が決定した。</li> <li>民営化される花水台保育園の新園舎整備に向け、仮設園舎の整備・移転を行い、現園舎の解体に着手した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (1) 16	養育医療費給付	担当課	こども家庭課
事業の概要 (中間年見直し掲載内容)		今後の取組み (中間年見直し掲載内容)	
<p>子どもが未熟児で生まれ、指定養育医療機関の医師が入院治療の必要を認めたとときの医療費を公費で助成します。</p>		<p>引続き事業を継続します。</p>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>未熟児の入院治療にかかる医療費の助成をおこなった。 申請件数 42件</p>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>未熟児の入院治療にかかる医療費の助成をおこなった。 申請件数 49件</p>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>平成29年度に実施した中間年の見直しに併せて、本計画に追加した事業のため、掲載は省略します。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
備考 (その他)			

2 (2) 1	子育て支援センター事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>子育て家庭に対する育児不安等についての相談支援、各種子育てに係る情報提供、親子の気軽な交流の場としての子育てサロンの運営、子育てサークルや子育て支援活動への支援を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕</p>		<p>安心して子育てができるように引き続き子育て支援センター事業を推進します。</p>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>・1か所を実施。 利用者数：大人 8,788人、子ども 10,821人、合計 19,609人 相談件数：面接 2,919件、電話 23件、その他 367件</p> <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（ミニコンサート、人形劇、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年3月2日から臨時休所。ただし、電話での相談は受け付けた。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>・1か所を実施。 利用者数：大人10,729人、子ども 12,805人、合計23,534人 相談件数：面接3,568件、電話28件、その他389件</p> <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（ミニコンサート、人形劇、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>・1か所を実施。 利用者数：大人11,093人、子ども13,953人、合計25,046人 相談件数：面接3,760件、電話32件、その他423件</p> <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（ミニコンサート、人形劇、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (2) 2	つどいの広場事業	担当課	保育課															
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)																
主に乳幼児を持つ親と子どもが気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で語り合うことで、精神的な安心感をもち、問題解決への糸口となる機会(場)を提供します。〔対象：おおむね0～3歳児及び保護者〕		<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年4月から新たなつどいの広場1か所を開設できるように準備を進めます。</li> <li>安心して子育てができるように引続きつどいの広場事業を推進します。</li> </ul>																
<b>各年度における主な取組み等</b>																		
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>5か所で実施。</li> <li>月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座（七夕飾り、ひな人形等）、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>「つどいの広場 もこもこ」</td> <td>利用者数：大人 3,623人、子ども 3,806人、合計 7,429人、</td> <td>相談件数： 411件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 きりんのおうち」</td> <td>利用者数：大人 5,819人、子ども 6,298人、合計 12,117人、</td> <td>相談件数： 800件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 どれみ」</td> <td>利用者数：大人 2,989人、子ども 3,733人、合計 6,722人、</td> <td>相談件数： 178件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 ぼけっと」</td> <td>利用者数：大人 2,011人、子ども 2,158人、合計 4,169人、</td> <td>相談件数： 38件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 ここにくらす」</td> <td>利用者数：大人 1,171人、子ども 1,305人、合計 2,476人、</td> <td>相談件数： 20件</td> </tr> </table> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年2月29日から臨時休所。</p>			「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人 3,623人、子ども 3,806人、合計 7,429人、	相談件数： 411件	「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人 5,819人、子ども 6,298人、合計 12,117人、	相談件数： 800件	「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人 2,989人、子ども 3,733人、合計 6,722人、	相談件数： 178件	「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人 2,011人、子ども 2,158人、合計 4,169人、	相談件数： 38件	「つどいの広場 ここにくらす」	利用者数：大人 1,171人、子ども 1,305人、合計 2,476人、	相談件数： 20件
	「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人 3,623人、子ども 3,806人、合計 7,429人、	相談件数： 411件															
	「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人 5,819人、子ども 6,298人、合計 12,117人、	相談件数： 800件															
	「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人 2,989人、子ども 3,733人、合計 6,722人、	相談件数： 178件															
「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人 2,011人、子ども 2,158人、合計 4,169人、	相談件数： 38件																
「つどいの広場 ここにくらす」	利用者数：大人 1,171人、子ども 1,305人、合計 2,476人、	相談件数： 20件																
検証結果	A：成果があがった																	
今後の課題																		
今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続																	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>5か所で実施。</li> <li>月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座（七夕飾り、ひな人形等）、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>「つどいの広場 もこもこ」</td> <td>利用者数：大人4,262人、子ども4,585人、合計 8,847人、</td> <td>相談件数： 532件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 きりんのおうち」</td> <td>利用者数：大人7,237人、子ども7,724人、合計14,961人、</td> <td>相談件数： 920件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 どれみ」</td> <td>利用者数：大人3,731人、子ども4,382人、合計 8,113人</td> <td>相談件数： 211件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 ぼけっと」</td> <td>利用者数：大人2,498人、子ども2,618人、合計 5,116人、</td> <td>相談件数： 42件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 ここにくらす」※</td> <td>利用者数：大人 303人、子ども 349人、合計 652人、</td> <td>相談件数： 15件</td> </tr> </table> <p>※平成30年11月開所</p>			「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人4,262人、子ども4,585人、合計 8,847人、	相談件数： 532件	「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人7,237人、子ども7,724人、合計14,961人、	相談件数： 920件	「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人3,731人、子ども4,382人、合計 8,113人	相談件数： 211件	「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人2,498人、子ども2,618人、合計 5,116人、	相談件数： 42件	「つどいの広場 ここにくらす」※	利用者数：大人 303人、子ども 349人、合計 652人、	相談件数： 15件
	「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人4,262人、子ども4,585人、合計 8,847人、	相談件数： 532件															
	「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人7,237人、子ども7,724人、合計14,961人、	相談件数： 920件															
	「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人3,731人、子ども4,382人、合計 8,113人	相談件数： 211件															
「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人2,498人、子ども2,618人、合計 5,116人、	相談件数： 42件																
「つどいの広場 ここにくらす」※	利用者数：大人 303人、子ども 349人、合計 652人、	相談件数： 15件																
検証結果	A：成果があがった																	
今後の課題																		
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続																	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>4か所で実施。</li> <li>月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座（七夕飾り、ひな人形等）、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>「つどいの広場 もこもこ」</td> <td>利用者数：大人3,798人、子ども3,996人、合計 7,794人、</td> <td>相談件数： 702件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 きりんのおうち」</td> <td>利用者数：大人7,666人、子ども8,279人、合計15,945人、</td> <td>相談件数： 907件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 どれみ」</td> <td>利用者数：大人3,980人、子ども4,488人、合計 8,468人、</td> <td>相談件数： 244件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 ぼけっと」</td> <td>利用者数：大人2,650人、子ども2,777人、合計 5,427人、</td> <td>相談件数： 41件</td> </tr> </table>			「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人3,798人、子ども3,996人、合計 7,794人、	相談件数： 702件	「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人7,666人、子ども8,279人、合計15,945人、	相談件数： 907件	「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人3,980人、子ども4,488人、合計 8,468人、	相談件数： 244件	「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人2,650人、子ども2,777人、合計 5,427人、	相談件数： 41件			
	「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人3,798人、子ども3,996人、合計 7,794人、	相談件数： 702件															
	「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人7,666人、子ども8,279人、合計15,945人、	相談件数： 907件															
	「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人3,980人、子ども4,488人、合計 8,468人、	相談件数： 244件															
「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人2,650人、子ども2,777人、合計 5,427人、	相談件数： 41件																
検証結果	A：成果があがった																	
今後の課題																		
今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続 子育て支援施設の市内の配置状況や地域の人口などを勘案し、平成30年度、つどいの広場1か所を新たに開設する準備を進める。																	
<b>備考 (その他)</b>																		

2 (2) 3	開放保育事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
地域の未就園児とその保護者に保育所の園庭や施設を開放し、園児との交流や保護者同士の交流を図り、保育士による育児相談や情報提供を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕		保育所29園で概ね週1回程度、保育所を開放し、育児情報の提供や育児相談等を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所33園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所33園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所33園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (2) 4	赤ちゃん広場事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保育所が、1歳未満の乳児を育てる親を対象に、育児不安等についての相談、子育てに係る情報の提供、親子の気軽な交流の場の提供を行います。〔対象：1歳未満の乳児及び保護者〕		公立保育所5園で、育児不安等についての相談を受けたり、子育てに係る情報の提供を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育所7園及び認定こども園1園で実施</li> <li>神田保育園・・・参加 5組      南原保育園・・・参加79組</li> <li>吉沢保育園・・・参加 1組      しらさぎ保育園・参加23組</li> <li>夕陽ヶ丘保育園・参加11組      若草保育園・・・参加 8組</li> <li>大神保育園・・・参加 2組      港こども園・・・参加 7組</li> </ul> <p>合 計・・・ 実施70回、参加136組</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 今年度から公立園全園で実施	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育所3園で実施 (月2回)</li> <li>花水台保育園・・・実施23回、参加 8組</li> <li>夕陽ヶ丘保育園・実施24回、参加 6組</li> <li>若草保育園・・・実施24回、参加 8組</li> <li>合 計・・・ 実施71回、参加22組</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 花水台保育園の民営化に伴い規模を縮小して実施する。	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育所3園で実施 (月2回)</li> <li>花水台保育園・・・実施23回、参加20組</li> <li>夕陽ヶ丘保育園・実施23回、参加14組</li> <li>若草保育園・・・実施24回、参加 8組</li> <li>合 計・・・ 実施70回、参加42組</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 花水台保育園の民営化に伴い規模を縮小して実施する。	
備考 (その他)			



2 (2) 5	親子ふれあい体験事業	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育て中の親子が楽しく遊び、共通の体験活動を通して親子のふれあいが実感できる場を提供します。〔対象：就学前児童〕		子育て中の親子が参加できるミニミニ運動会を市内公民館等で実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	地域の子育て中の親子が参加するミニミニ運動会を実施 5月15日 (水) 神田公民館・・・・・・37人 6月11日 (火) なぎさふれあいセンター・・・・38人 10月23日 (水) 金田公民館・・・・・・33人 11月13日 (水) びわ青少年の家・・・・・・22人 参加児童数合計：130人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	地域の子育て中の親子が参加するミニミニ運動会を実施 5月16日 (水) 神田公民館・・・・・・27人 6月12日 (火) なぎさふれあいセンター・・・・49人 10月17日 (水) 金田公民館・・・・・・23人 11月14日 (水) びわ青少年の家・・・・・・30人 参加児童数合計：129人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	地域の子育て中の親子が参加するミニミニ運動会を実施 5月17日 (水) 神田公民館・・・・・・18人 6月13日 (火) なぎさふれあいセンター・・・・57人 10月18日 (水) 金田公民館・・・・・・32人 11月15日 (水) びわ青少年の家・・・・・・36人 参加児童数合計：143人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (2) 6	ブックスタート事業	担当課	中央図書館 保育課 健康課
<b>事業の概要 (計画掲載内容)</b> 0歳から、全ての乳児とその保護者が絵本を通して楽しい時間を過ごすとともに、豊かな子どもの心を育て、親子の絆を養ってもらえるように子育てを支援します。		<b>今後の取組み (計画掲載内容)</b> ・スタッフが丁寧にブックスタート事業の趣旨を伝えることで参加者の高い満足度を維持するとともに、参加しにくい方への広報と参加機会の拡充に努め、参加率向上を図ります。 ・公立保育所において、地域のボランティアによる読み聞かせを実施します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	中央図書館 ・実施回数 会場開催47回（健康課「7か月児相談」に合わせた実施22回、つどいの広場「きりんのおうち」2回）、個別対応3組 ・施設数 7か所 ・参加者数 2,048人（参加組数860組、乳児857人、保護者1,056人、兄弟等135人） ・市民ボランティア57人（登録者数） ・配布絵本 860冊 内訳『じゃあじゃあびりびり』（偕成社）263冊、『びょーん』（ポプラ社）322冊、『もこもここ』（文研出版）216冊、『おつきさまこんばんは』（福音館書店）10冊、『くだもの』（福音館書店）17冊、『いないいないばあ』（童心社）3冊、『がたんごとんがたんごとんがたんごとん』（福音館書店）9冊、『だっだぁー』（主婦の友社）20冊 保育課 ・公立保育所7園及び認定こども園1園において、地域のボランティアによる読み聞かせを随時実施		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	引き続き参加者の高い満足度を維持するとともに、参加率の向上をはかる。ブックスタートを受けた効果のPRにつながるアンケートの実施について、関係機関と調整の上、検討を進める。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	中央図書館 ・実施回数 会場開催54回（健康課「7か月児相談」に合わせた実施24回、つどいの広場「きりんのおうち」2回）、個別対応21組 ・施設数 7か所 ・参加者数 2,515人（参加組数1,013組、乳児1,010人、保護者1,312人、兄弟等193人） ・市民ボランティア57人（登録者数） ・配布絵本 1,013冊 内訳『じゃあじゃあびりびり』（偕成社）331冊、『びょーん』（ポプラ社）410冊、『もこもここ』（文研出版）233冊、『おつきさまこんばんは』（福音館書店）10冊、『くだもの』（福音館書店）9冊、『いないいないばあ』（童心社）3冊、『がたんごとんがたんごとんがたんごとん』（福音館書店）6冊、『だっだぁー』（主婦の友社）11冊 保育課 ・公立保育所8園及び認定こども園1園において、地域のボランティアによる読み聞かせを随時実施		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	ボランティアが丁寧に事業の趣旨を伝えながら絵本を手渡しすることで参加者の高い満足度を維持するとともに、参加率の向上をはかる必要がある。ブックスタートを受けた効果のPRにつながるアンケートを実施する。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	中央図書館 ・実施回数 会場開催65回（健康課「7か月児相談」に合わせた実施36回、つどいの広場「きりんのおうち」1回）、個別対応15組 ・施設数 7か所 ・参加者数 2,642人（参加組数1,061組、乳児1,057人、保護者1,361人、兄弟等224人） ・市民ボランティア59人（登録者数） ・配布絵本 1,061冊 内訳『じゃあじゃあびりびり』（偕成社）330冊、『びょーん』（ポプラ社）442冊、『もこもここ』（文研出版）276冊、『おつきさまこんばんは』（福音館書店）6冊、『くだもの』（福音館書店）7冊 保育課 ・公立保育所8園及び認定こども園1園において、地域のボランティアによる読み聞かせを随時実施		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	参加率の向上と、ブックスタートを受けた効果を図るためのアンケートの実施	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (2) 7	活動場所の確保	担当課	青少年課 中央公民館
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育てサークル等の活動場所として、子どもの家や青少年会館等を活用します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年団体、青少年育成団体が活動場所の確保が容易になるように上記団体への優先的な施設予約を継続します。</li> <li>・仲間づくりの場、地域交流の場として公民館が活用されるよう努めます。</li> </ul>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	青少年課 ・青少年会館では、子育てサークル等の青少年（育成）団体が優先的に予約できる環境を継続している。 中央公民館 ・授乳やおむつ替えの場所としてみんなのトイレや保育室を案内した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	特になし	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続 青少年会館は、公共施設の再編に伴い、勤労会館及び教育会館と集会機能を統合することが決定したため、最も早い場合、令和7年3月に閉館する予定。	
平成30年度	青少年課 ・青少年会館では、子育てサークル等の青少年（育成）団体が優先的に予約できる環境を継続している。 中央公民館 ・授乳やおむつ替えの要望があった場合は、多目的トイレや保育室を利用していただくなど柔軟に対応した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	青少年課 ・青少年会館では、子育てサークル等の青少年（育成）団体が優先的に予約できる環境を継続している。 中央公民館 ・子育てサークル等の活動で、定期的な公民館の利用がある。 ・各地区の社会福祉協議会や民生委員児童委員が実施する「子育てサロン」や親子遊びの会場確保、公民館だよりへの掲載など、地域の子育て支援活動の協力も行っている。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	既存の公民館ではおむつ替えシートの設置は構造上の問題もあり難しいが、授乳やおむつ替えの要望があった時に対応できるよう配慮していく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (3) 1	情報提供の推進	担当課	保育課 こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育て家庭に向け、情報誌・インターネット等により子育てに関する情報を分かりやすく発信します。		広報紙やインターネット等、様々な方法で子育てに関する情報をより広く、分かりやすく提供します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	保育課・こども家庭課 ・ホームページを利用して、各種手当、保育所・認定こども園、子育て支援事業、旬の情報等を発信。 保育課 ・子育てガイド「くすくす」を発行(3,930部)し、市内保育施設や子育て支援施設に配布。ホームページにも掲載し、電子媒体でも提供。 ・FM湘南ナバサでの保育所入所、公立保育所での園児の様子や行事、子どもとの関わり方や絵本の与え方等子育てに関する情報を提供。(毎月1回(6月除く):計11回) ・民間の子育て情報誌に子育て支援センターや病後児保育等の情報を掲載。 こども家庭課 ・子育て応援メールで乳幼児情報を発信。(発信回数17件)		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	保育課・こども家庭課 ・ホームページを利用して、各種手当、保育所・認定こども園、子育て支援事業、旬の情報等を発信。 保育課 ・子育てガイド「くすくす」を発行(3,700部)し、市内保育施設や子育て支援施設に配布。ホームページにも掲載し、電子媒体でも提供。 ・FM湘南ナバサでの保育所入所、公立保育所での園児の様子や行事、子どもとの関わり方や手づくりおもちゃ等子育てに関する情報を提供。(毎月1回(6月除く):計11回) こども家庭課 ・子育て応援メールで乳幼児情報を発信。(発信回数16件)		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	保育課・こども家庭課 ・ホームページを利用して、各種手当、保育所・認定こども園、子育て支援事業、旬の情報等を発信。 保育課 ・子育てガイド「くすくす」を発行(4,300部)し、市内保育施設や子育て支援施設に配布。ホームページにも掲載し、電子媒体でも提供。 ・FM湘南ナバサでの保育所入所、公立保育所での園児の様子や行事、子どもとの関わり方や手づくりおもちゃ等子育てに関する情報を提供。(毎月1回:計12回) ・平成29年9月刊行の平塚Walkerに地域子育て支援拠点施設、広報ひらつか12月第3金曜日号・1月第1金曜日号に子育てに関する特集記事を掲載。 こども家庭課 ・子育て応援メールで乳幼児情報を発信。(発信回数10件)		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (3) 2	子育て支援総合コーディネート事業	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>既存の社会資源を有効に活用するため、県児童相談所や関係機関等と連携し、地域における多様な子育て支援サービス情報を一元的に把握して、ネットワーク化を図り、利用者への情報提供、ケースマネジメント及び利用援助等の支援を行うとともに、子育て家庭や保育所からの専門的な相談に対応します。</p>		引続き事業を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども総合相談窓口において、子育て支援サービス情報を一元的に収集・提供。</li> <li>・公共施設を活用し、相談対応・情報提供を実施。</li> <li>・市内子どもの家4か所にて、1か月に1回親子広場を開催(30回)。312人の親子が参加、63件の相談に対応。</li> <li>・なお、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、3月に2か所中止。</li> <li>・家庭児童相談員を配置し、県児童相談所等と連携して児童相談等に対応。</li> </ul> <p>相談・虐待通告件数 1,451件</p>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども総合相談窓口において、子育て支援サービス情報を一元的に収集・提供。</li> <li>・公共施設を活用し、相談対応・情報提供を実施。</li> <li>・市内子どもの家4か所にて、1か月に1回親子広場を開催(32回)。424人の親子が参加、10件の相談に対応。</li> <li>・家庭児童相談員を配置し、県児童相談所等と連携して児童相談等に対応。</li> </ul> <p>相談・虐待通告件数 1,306件</p>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども総合相談窓口において、子育て支援サービス情報を一元的に収集・提供。</li> <li>・公共施設を活用し、相談対応・情報提供を実施。</li> <li>・市内子どもの家4か所にて、1か月に1回親子広場を開催(31回)。390人の親子が参加、48件の相談に対応。</li> <li>・家庭児童相談員を配置し、県児童相談所等と連携して児童相談等に対応。</li> </ul> <p>相談・虐待通告件数 1,304件</p> <p>※平成29年度から、保健センター3階「子育て世代包括支援センター ひらつかネウボラールーム はぐくみ」に母子手帳交付窓口を1本化した。</p>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (3) 3	幼稚園・保育所の育児相談	担当課	保育課 教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
幼稚園や保育所を利用している保護者や地域の子育て家庭を対象に、電話や面接により、子育てについての不安や悩みの相談を行います。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全保育所で実施し、相談の内容によっては関係機関と連携を図ります。</li> <li>・幼稚園の在園児の保護者や入園を希望する保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行います。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>保育課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全保育所で実施し、相談の内容に沿い、関係機関と連携を図った。</li> </ul> <p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の在園児の保護者や入園希望者の保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行った。</li> </ul> <p>実施園：4園</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>保育課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全保育所で実施し、相談の内容に沿い、関係機関と連携を図った。</li> </ul> <p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の在園児の保護者や入園希望者の保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行った。</li> </ul> <p>実施園：4園</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>保育課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全保育所で実施し、相談の内容に沿い、関係機関と連携を図った。</li> </ul> <p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の在園児の保護者や入園希望者の保護者に対し、電話や面接による子育てについての相談を行った。</li> </ul> <p>実施園：4園</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (3) 4	女性のための相談事業	担当課	人権・男女共同参画課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
女性が日常生活の中で直面する様々な悩みの解消や配偶者等の暴力から女性とその子どもを守るため、女性のための相談窓口を設けます。		女性やその子どものための支援等について、相談体制や関係機関との連携を強化します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数823件 相談件数のうち、こども家庭課・保育課へ連絡調整39件</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	事業の特性上、関係機関との連携は不可欠であり、今後もさらに連携を深めていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数 778件 相談件数のうち、こども家庭課・保育課へ連絡調整 73件</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	事業の特性上、関係機関との連携は不可欠であり、今後もさらに連携を深めていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数 713件 相談件数のうち、こども家庭課・保育課へ連絡調整 55件</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	事業の特性上、関係機関との連携は不可欠であり、今後もさらに連携を深めていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (3) 5	生活困窮者自立支援事業	担当課	福祉総務課
事業の概要 (中間年見直し掲載内容)		今後の取組み (中間年見直し掲載内容)	
生活保護に至る前の段階の自立支援策の強化を図るため、生活困窮者に対し、自立相談支援事業の実施、住居確保給付金の支給その他包括的な支援を実施します。		自立相談支援事業の実施及び住居確保給付金の支給を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>くらしサポート相談において、自立支援計画の作成等により就労等の意欲や他者との関係性などの面で改善を図り、継続的な支援により自立に向けたステップアップを目指すための支援を行っています。また、離職後2年以内で就職活動を実施している人に当面の住まいを確保するため「住居確保給付金」を支給しています。なお、今年度から、一定の居宅を持たない生活困窮者に対して、原則3カ月の間、宿泊場所、食事等を提供する「一時生活支援事業」を実施しています。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	周知を継続的にしていくこと。他機関との連携を強化すること。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 今後も関係機関との連携を深めできるだけ早く「くらしサポート相談」につないで制度を活用できるようにする。また、新たに「就労準備支援事業」、「家計改善支援事業」を実施する。	
平成30年度	<p>くらしサポート相談において、自立支援計画の作成等により就労等の意欲や他者との関係性などの面で改善を図り、継続的な支援により自立に向けたステップアップを目指すための支援を行っています。また、離職後2年以内で就職活動を実施している人に当面の住まいを確保するため「住居確保給付金」を支給しています。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	広く制度の周知が必要です。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 制度を広く周知することにより、離職等による経済的困窮が生じた際、できるだけ早くくらしサポート相談につながるような関係機関の連携を促進します。	
平成29年度	<p>平成29年度に実施した中間年の見直しに併せて、本計画に追加した事業のため、掲載は省略します。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
<b>備考 (その他)</b>			



2 (3) 6	民生委員運営事業	担当課	福祉総務課
事業の概要 (中間年見直し掲載内容)		今後の取組み (中間年見直し掲載内容)	
地域福祉の推進のため、地域と行政とのパイプ役としての役割を果たす民生委員・児童委員を積極的に支援します。		定例会や研修等で、民生委員・児童委員の情報共有や資質向上の支援を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	地域福祉の推進を図るため、地区会長会議等を通じて行政情報の提供及び情報交換を進めるとともに、研修会を開催することにより民生委員の識見向上に努めました。また、5月の街頭PRやパネル展示をはじめとして、民生委員児童委員活動への理解を促進するための啓発活動を実施しました。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	令和元年度は一斉改選期だったため、新任委員を中心として、民生委員児童委員としてふさわしい見識を持つ人材の育成が必要です。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続 市民が住み慣れた地域で安心して暮らすための支え合いの地域基盤づくりに不可欠なため。	
平成30年度	地域福祉の推進を図るため、毎月の地区会長会議や主任児童委員会会議等を通じて行政情報の提供及び情報交換を進めるとともに、6つの部会を中心に研修会を開催し、民生委員の識見向上に努めました。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	民生委員児童委員としてふさわしい見識を持つ人材の確保を図ることで。また、市民が安心して暮らすための支え合いの地域基盤を強化するため、民生委員児童委員制度を一層普及させていく必要があります。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 委員の識見を高めるため、社会情勢や委員の学習要求に応じた研修を企画します。	
平成29年度	平成29年度に実施した中間年の見直しに併せて、本計画に追加した事業のため、掲載は省略します。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
<b>備考 (その他)</b>			

2 (4) 1	男女共同参画意識改革事業	担当課	人権・男女共同参画課						
<b>事業の概要（計画掲載内容）</b> 男女がともに担う子育てを促進するには、働き方を見直すとともに、男女共同参画社会の実現が必要です。そのために、性別による固定的な役割分担意識の是正や女性の人権に関する情報提供、啓発事業を実施し、社会的機運の醸成や働く場における子育て支援への意識を醸成します。		<b>今後の取組み（計画掲載内容）</b> 附属機関委員等の意見を踏まえながら、時代や社会のニーズに合った内容で事業を実施します。							
<b>各年度における主な取組み等</b>									
<b>令和元年度</b>	<p>「ひらつか男女共同参画プラン2017」（平成29年度から令和5年度までの7年間）に沿って実施。          プランにおいて、性別による固定的な役割分担意識の改革のために、全ての施策に必要な視点として位置付けており、プランの全ての事業をこの視点をもって実施している。意識啓発を目的とする事業は次のとおり。また、女性の人権に関しては、施策の方向7「DVの根絶」（DV防止計画を兼ねる）を位置付け、施策16「DV防止のための啓発」としてDV防止啓発事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「男女共同参画推進登録団体と協働で行う意識啓発」（3件）10月20日（日）、10月27日（日）、11月14日（木）</li> <li>・「事業所向けイクボス認定制度の創設」において、令和元年度平塚市イクボスプロジェクトを開催 11月13日（水）参加者数48人</li> <li>・「学校でのデートDV防止講座の開催」（5回）高校生：11月11日（月）参加者数389人、中学生：6月11日（火）参加者数 227人、7月17日（水）128人、令和2年2月25日（火）556人</li> </ul> <table border="1" data-bbox="172 719 1364 936"> <tr> <td data-bbox="172 719 363 752">検証結果</td> <td data-bbox="363 719 1364 752">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 752 363 846">今後の課題</td> <td data-bbox="363 752 1364 846">意識啓発が主な事業となるので、これらの事業の結果として意識改革が進んだかどうかを計ることが難しいこと。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 846 363 936">今後の事業展開とその判断理由</td> <td data-bbox="363 846 1364 936">① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった	今後の課題	意識啓発が主な事業となるので、これらの事業の結果として意識改革が進んだかどうかを計ることが難しいこと。	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
検証結果	A：成果があがった								
今後の課題	意識啓発が主な事業となるので、これらの事業の結果として意識改革が進んだかどうかを計ることが難しいこと。								
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続								
<b>平成30年度</b>	<p>「ひらつか男女共同参画プラン2017」（平成29年度から平成35年度までの7年間）に沿って実施。          プランにおいて、性別による固定的な役割分担意識の改革のために、全ての施策に必要な視点として位置付けており、プランの全ての事業をこの視点をもって実施している。意識啓発を目的とする事業は次のとおり。また、女性の人権に関しては、施策の方向7「DVの根絶」（DV防止計画を兼ねる）を位置付け、施策16「DV防止のための啓発」としてDV防止啓発事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「男女共同参画推進登録団体と協働で行う意識啓発」（2件）10月20日（土）～11月17日（土）、11月15日（木）</li> <li>・「事業所向けイクボス認定制度の創設」において、平成30年度平塚市イクボスシンポジウム「こんな会社で働きたい！～人材が集まり定着する会社とは～」を開催 11月14日（水）参加者数54人</li> <li>・平成30年度の単年度事業として、神奈川県地域女性活躍推進交付金を受け、未就学児を持つ父親対象の「ひらつかババスクール」を開講。キックオフ講演会9月30日（日）48人（夫婦19組、男性6人、女性4人）、ババスクール12月9日（日）13人、12月22日（土）25人、平成31年1月26日（土）21人（夫婦9組、男性3人）</li> <li>・「学校でのデートDV防止講座の開催」（4回）高校生：6月25日（月）参加者数180人、中学生：4月17日（火）参加者数 109人、11月16日（金）92人、平成31年2月26日（火）158人</li> </ul> <table border="1" data-bbox="172 1189 1364 1406"> <tr> <td data-bbox="172 1189 363 1223">検証結果</td> <td data-bbox="363 1189 1364 1223">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 1223 363 1317">今後の課題</td> <td data-bbox="363 1223 1364 1317">意識啓発が主な事業となるので、これらの事業の結果として意識改革が進んだかどうかを計ることが難しいこと。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 1317 363 1406">今後の事業展開とその判断理由</td> <td data-bbox="363 1317 1364 1406">① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった	今後の課題	意識啓発が主な事業となるので、これらの事業の結果として意識改革が進んだかどうかを計ることが難しいこと。	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
検証結果	A：成果があがった								
今後の課題	意識啓発が主な事業となるので、これらの事業の結果として意識改革が進んだかどうかを計ることが難しいこと。								
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続								
<b>平成29年度</b>	<p>「ひらつか男女共同参画プラン2017」（平成29年度から平成35年度までの7年間）に沿って実施。          プランにおいて、性別による固定的な役割分担意識の改革のために、全ての施策に必要な視点として位置付けており、プランの全ての事業をこの視点をもって実施している。意識啓発を目的とする事業は次のとおり。また、女性の人権に関しては、施策の方向7「DVの根絶」（DV防止計画を兼ねる）を位置付け、施策16「DV防止のための啓発」としてDV防止啓発事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「男女共同参画推進登録団体と協力したパネル展示の実施」（1回）男女共同参画週間において啓発をした6月23日（金）～6月29日（木）</li> <li>・「新成人への男女共同参画啓発リーフレットの送付」</li> <li>・「男女共同参画推進登録団体と協働で行う意識啓発」（3件）11月12日（日）、11月16日（木）、3月8日（木）</li> <li>・「地域への意識啓発」として、当課作成の男女共同参画のチラシを当課及び市内各課が実施する事業等で、市民へ配付</li> <li>・「イクボス養成と拡大」として、市役所においてイクボスの推進をした。新任課長研修 5月30日（火）出席者25人、担当長級職研修 10月24日（火）、27日（金）両日合わせて出席者179人</li> <li>・「事業所向けイクボス認定制度の創設」において、平成29年度女性活躍シンポジウム「平塚市イクボスプロジェクト～働きやすいまち Hiratsuka～」を開催 平成30年1月19日（金）参加者数88人</li> <li>・「学校でのデートDV防止講座の開催」（2回）高校生：7月10日（月）参加者数183人、中学生：平成30年1月18日（木）参加者数 352人</li> <li>・『「女性に対する暴力をなくす運動」期間における周知、啓発』パネル展示にて啓発をした11月10日（金）～11月24日（金）</li> </ul> <table border="1" data-bbox="172 1659 1364 1877"> <tr> <td data-bbox="172 1659 363 1693">検証結果</td> <td data-bbox="363 1659 1364 1693">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 1693 363 1787">今後の課題</td> <td data-bbox="363 1693 1364 1787">意識啓発が主な事業となるので、これらの事業の結果として意識改革が進んだかどうかを計ることが難しいこと。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="172 1787 363 1877">今後の事業展開とその判断理由</td> <td data-bbox="363 1787 1364 1877">① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった	今後の課題	意識啓発が主な事業となるので、これらの事業の結果として意識改革が進んだかどうかを計ることが難しいこと。	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
検証結果	A：成果があがった								
今後の課題	意識啓発が主な事業となるので、これらの事業の結果として意識改革が進んだかどうかを計ることが難しいこと。								
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続								
<b>備考（その他）</b>									

2 (5) 1	労働セミナー事業	担当課	産業振興課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
労働諸問題に対する理解と教養を深めるため、勤労者、事業主、一般市民を対象に労働セミナーを開催し、労働問題の自主的解決能力の向上を図るとともに、生活安定向上を目指します。		県かながわ労働センター湘南支所との共催により、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を開催します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>神奈川県かながわ労働センター湘南支所との共催により、経済動向等にあった講座内容を検討のうえ、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を次のとおり開催した。(各定員50人・受講料無料)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年11月22日 (金) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて 参加者数：17人</li> <li>・令和元年11月28日 (木) メンタルヘルス不調の現状と対策 参加者数：29人</li> <li>・令和元年12月3日 (火) 職場におけるハラスメントの防止 参加者数：45人</li> <li>・令和元年12月6日 (金) 雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保 参加者数：42人</li> </ul> <p>開催時間は18時30分～20時30分。ただし、令和元年11月28日 (木) の回のみ14:00～16:00で開催。</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	参加者を増やすため、今後も神奈川県かながわ労働センター湘南支所と連携し、労働者や雇用のニーズ及び経済動向にあった講座内容や時期を検討し事業を進め、効果的な事業周知を行うことが必要。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>神奈川県かながわ労働センター湘南支所との共催により、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を次のとおり開催した。(各定員50人・受講料無料)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年11月14日 (水) 企業にダイバーシティで恩恵を 参加者数：19人</li> <li>・平成30年11月16日 (金) 同一労働同一賃金の導入について 参加者数：33人</li> <li>・平成30年11月22日 (木) 長時間労働の是正について 参加者数：25人</li> <li>・平成30年11月27日 (火) 有期労働契約の無期転換における実務からの考察について 参加者数：26人</li> </ul> <p>いずれも18時30分～20時30分</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	参加者を増やすため、今後も神奈川県かながわ労働センター湘南支所と連携し、労働者や雇用のニーズ及び経済動向にあった講座内容や時期を検討し事業を進め、効果的な事業周知を行うことが必要。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 例年、社会情勢を鑑み講座内容を検討し開催しており、受講者のアンケート結果でも、概ね好評をいただいていることから、今後も同様に開催する。	
平成29年度	<p>神奈川県かながわ労働センター湘南支所との共催により、事業主及び勤労者等を対象とした労働講座を次のとおり開催した。(各定員50人・受講料無料)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年 9月27日 (水) 職場のセクハラ防止について 参加者数：24人</li> <li>・平成29年 9月29日 (金) 非正規雇用の法制度 参加者数：31人</li> <li>・平成29年10月 4日 (水) 非正規雇用はこう変わる 参加者数：28人</li> <li>・平成29年10月 6日 (金) 労働時間規制の今後 参加者数：24人</li> <li>・平成29年10月11日 (水) 女性の活躍推進 参加者数：19人</li> </ul> <p>いずれも18時30分～20時30分</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	参加者数を増やすため、事業周知を効果的に行い、労働者と雇用のニーズ及び経済動向にあったテーマを捉えて事業を進めることが必要。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (5) 2	就労支援制度の普及・啓発	担当課	産業振興課
<b>事業の概要（計画掲載内容）</b> 勤労ひらつか(毎月1回、市内の労働組合や企業、市の施設に配付)で支援制度の普及啓発に努めるとともに、厚生労働省や都道府県労働局から送付されるリーフレット、冊子等を掲出し、閲覧に供し啓発に努めます。		<b>今後の取組み（計画掲載内容）</b> ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に関する情報を広く発信します。また、国・県の関係機関等から送付されたリーフレットや冊子等を掲示・配架し、啓発を図ります。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	情報紙「勤労ひらつか」に、ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に係る記事を計5回掲載し、市のホームページでも公開した。 ・平成31年4月号 テレワーク相談センターについて ・令和元年5月号 働き方・休み方改善ポータルサイトについて ・令和元年6月号 男女共同参画週間について ・令和元年8月号 神奈川働き方改革推進支援センター御案内、パートタイム・有期雇用労働法施行について ・令和元年9月号 働き方改革アドバイザーについて ・令和元年10月号 平塚イクボスプロジェクト 国・県の関係機関等から送付されたリーフレット・冊子等を掲示・配架し、啓発に努めた。(掲示・配架場所：本庁舎・勤労会館・産業振興課等)		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	情報紙「勤労ひらつか」に、ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に係る記事を計5回掲載し、市のホームページでも公開した。 ・平成30年5月号 テレワーク相談センターについて ・平成30年6月号 男女共同参画週間について ・平成30年8月号 神奈川働き方改革推進支援センター開設の御案内「仕事休もつ化計画」の御案内 ・平成30年9月号 働き方改革関連法の施行について 国・県の関係機関等から送付されたリーフレット・冊子等を掲示・配架し、啓発に努めた。(掲示・配架場所：本庁舎・勤労会館・産業振興課等)		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 「勤労ひらつか」を毎月発行しており、毎号約237件配布しているほか、関連する窓口で配架することにより、一定の効果が得られていると捉えているため。	
平成29年度	情報紙「勤労ひらつか」に、ワーク・ライフ・バランス及び男女雇用機会均等に係る記事を計5回掲載し、市のホームページでも公開した。 ・平成29年5月号 働き方・休み方改善ポータルサイトのご案内 働き方・休み方改善コンサルタントについて テレワーク相談センターについて ・平成29年6月号 男女共同参画週間について ・平成29年8月号 仕事休もつ化計画のご案内 国・県の関係機関等から送付されたリーフレット・冊子等を掲示・配架し、啓発に努めた。(掲示・配架場所：本庁舎・勤労会館・産業振興課等)		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

2 (5) 3	就労環境の向上に向けた普及・啓発	担当課	人権・男女共同参画課									
<b>事業の概要（計画掲載内容）</b> 企業や市民に向けて、男女雇用機会均等法を普及・啓発し、男女が共に能力を発揮できる職場づくりを進めます。		<b>今後の取組み（計画掲載内容）</b> 市民ニーズを取入れるため、アンケート等を踏まえて事業を実施します。また、関係課と連携しながら、企業への啓発を実施します。										
<b>各年度における主な取組み等</b>												
令和元年度	<p>「ひらつか男女共同参画プラン2017」の計画期間である、平成29年度から令和5年度までの7年間に於いて、施策の方向6「事業所の実施する働き方改革への支援」（女性活躍推進計画を兼ねる）を位置付け、施策12「事業所におけるイクボスの推進」として「事業所向けイクボス認定制度の創設」に関連して、次の2つの取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度平塚市イクボスプロジェクトを開催 11月13日（水）参加者数48人</li> <li>・平塚市イクボス宣言企業登録制度の登録事業所数（累計40事業所）</li> </ul> <p>また、施策13「女性活躍推進のための協議」として「女性活躍推進協議会による事業所の取組促進のありかた協議」に関連して、次の取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらつか男女共同参画推進協議会（女性活躍推進協議会）の開催 第1回7月19日（金）、第2回11月29日（金）、第3回令和2年2月14日（金）</li> </ul> <table border="1" data-bbox="169 719 1367 938"> <tr> <td data-bbox="169 719 360 752">検証結果</td> <td colspan="2" data-bbox="360 719 1367 752">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 752 360 846">今後の課題</td> <td colspan="2" data-bbox="360 752 1367 846">企業の協力を得られるような働きかけ。男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような風土、土壌を作っていくこと。更に登録企業を増やすこと。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 846 360 938">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="2" data-bbox="360 846 1367 938">① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった		今後の課題	企業の協力を得られるような働きかけ。男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような風土、土壌を作っていくこと。更に登録企業を増やすこと。		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
検証結果	A：成果があがった											
今後の課題	企業の協力を得られるような働きかけ。男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような風土、土壌を作っていくこと。更に登録企業を増やすこと。											
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続											
平成30年度	<p>「ひらつか男女共同参画プラン2017」の計画期間である、平成29年度から平成35年度までの7年間に於いて、施策の方向6「事業所の実施する働き方改革への支援」（女性活躍推進計画を兼ねる）を位置付け、施策12「事業所におけるイクボスの推進」として「事業所向けイクボス認定制度の創設」に関連して、次の2つの取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度平塚市イクボスシンポジウム「こんな会社で働きたい！～人材が集まり定着する会社とは～」を開催 11月14日（水）参加者数54人</li> <li>・平塚市イクボス宣言企業登録制度の登録事業所数（累計33事業所）</li> </ul> <p>また、施策13「女性活躍推進のための協議」として「女性活躍推進協議会による事業所の取組促進のありかた協議」に関連して、次の取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらつか男女共同参画推進協議会（女性活躍推進協議会）の開催 第5回5月21日（月）、第6回6月7日（木）、第7回10月10日（水）、第8回平成31年2月7日（木）</li> </ul> <table border="1" data-bbox="169 1189 1367 1408"> <tr> <td data-bbox="169 1189 360 1223">検証結果</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1189 1367 1223">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 1223 360 1317">今後の課題</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1223 1367 1317">企業の協力が得られるよう、関係性を築き、男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような、風土、土壌を作っていくこと。登録企業を増やすこと。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 1317 360 1408">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1317 1367 1408">① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった		今後の課題	企業の協力が得られるよう、関係性を築き、男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような、風土、土壌を作っていくこと。登録企業を増やすこと。		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
検証結果	A：成果があがった											
今後の課題	企業の協力が得られるよう、関係性を築き、男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような、風土、土壌を作っていくこと。登録企業を増やすこと。											
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続											
平成29年度	<p>「ひらつか男女共同参画プラン2017」の計画期間である、平成29年度から平成35年度までの7年間に於いて、施策の方向6「事業所の実施する働き方改革への支援」（女性活躍推進計画を兼ねる）を位置付け、施策12「事業所におけるイクボスの推進」として「事業所向けイクボス認定制度の創設」に関連して、次の2つの取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度女性活躍シンポジウム 「平塚市イクボスプロジェクト～働きやすいまちHiratsuka～」を開催 平成30年1月19日（金）参加者88人、無料保育付</li> <li>・平塚市イクボス宣言企業登録制度の登録事業所数（累計16事業所）</li> </ul> <p>また、施策13「女性活躍推進のための協議」として「女性活躍推進協議会による事業所の取組促進のありかた協議」に関連して、次の取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらつか男女共同参画推進協議会（女性活躍推進協議会）の開催 第1回平成29年7月31日、第2回平成29年9月25日、第3回平成30年1月22日、第4回平成30年3月23日</li> </ul> <table border="1" data-bbox="169 1664 1367 1881"> <tr> <td data-bbox="169 1664 360 1697">検証結果</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1664 1367 1697">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 1697 360 1792">今後の課題</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1697 1367 1792">企業の協力が得られるよう、関係性を築き、男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような、風土、土壌を作っていくこと。登録企業を増やすこと。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 1792 360 1881">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1792 1367 1881">① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった		今後の課題	企業の協力が得られるよう、関係性を築き、男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような、風土、土壌を作っていくこと。登録企業を増やすこと。		今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
検証結果	A：成果があがった											
今後の課題	企業の協力が得られるよう、関係性を築き、男女が共に能力を発揮できる職場づくりに積極的に取り組んでいただけるような、風土、土壌を作っていくこと。登録企業を増やすこと。											
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続											
<b>備考（その他）</b>												

2 (6) 1	母子・父子相談の充実	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
母子・父子家庭の自立促進のため、就労支援、母子・父子福祉資金の貸付け、母子・父子保護等を含むあらゆる相談に対応します。		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子相談等の多様な相談に対応した。</li> <li>母子・父子自立支援員1人配置</li> <li>相談件数：587件 (新規ケース)</li> <li>相談回数：1,145件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子相談等の多様な相談に対応した。</li> <li>母子・父子自立支援員1人配置</li> <li>相談件数：656件 (新規ケース)</li> <li>相談回数：1,335件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子相談等の多様な相談に対応した。</li> <li>母子・父子自立支援員1人配置 (平成29年9月までは2人体制)</li> <li>相談件数：532件 (新規ケース)</li> <li>相談回数：1,444件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (6) 2	母子・父子自立支援事業	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
母子・父子家庭への支援対策として、自立支援給付金事業や日常生活支援事業を実施します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>母子・父子自立支援給付金事業を実施します。</li> <li>母子・父子家庭日常生活支援員を派遣します。</li> </ul>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子自立支援給付金制度の実施 自立支援教育訓練給付金 11件 (431,684円) 高等職業訓練促進給付金等 8件 (11,084,000円) ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格給付金 申請0件</li> <li>母子家庭日常生活支援員の派遣 0件</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子自立支援給付金制度の実施 自立支援教育訓練給付金 5件 (245,544円) 高等職業訓練促進給付金等 10件 (10,871,000円) ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格給付金 申請1件</li> <li>母子家庭日常生活支援員の派遣 1件</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子自立支援給付金制度の実施 自立支援教育訓練給付金 7件 (344,778円) 高等職業訓練促進給付金等 10件 (9,335,000円) ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格給付金の制度化</li> <li>母子家庭日常生活支援員の派遣 3件</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (6) 3	母子生活支援施設の充実	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
生活、就労の支援、指導を行い、自立の促進を図ります。		入所者に対し、生活・就労の支援、指導を行い、自立の促進を図ります。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	なし		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	④ 廃止 平成28年度末で母子生活支援施設平塚市花水台ハイムを施設廃止したため実績なし。	
平成30年度	なし		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	④ 廃止 平成28年度末で母子生活支援施設平塚市花水台ハイムを施設廃止したため実績なし。	
平成29年度	なし		
	検証結果	評価なし	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	④ 廃止 平成28年度末で母子生活支援施設平塚市花水台ハイムを施設廃止したため実績なし。	
備考 (その他)			



2 (7) 1	小児医療費の助成	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
小児医療費の助成を行います。 (平成24年4月から) 通院対象年齢…0歳児から小学校6年生まで 入院対象年齢…0歳児から中学校卒業まで		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	小児医療費の助成を行った。 令和2年1月1日から小学生以上に設けていた所得制限を撤廃した。 通院・入院対象年齢…0歳児から中学校卒業まで 医療証の発行数 29,951人 医療費及び件数(養育医療給付分も含む) 医療費+手数料 764,615,969円 件数 377,798件		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	小児医療費の助成を行った。 ただし、小学生以上には所得制限を設けている。 通院・入院対象年齢…0歳児から中学校卒業まで 医療証の発行数 26,925人 医療費及び件数(養育医療給付分も含む) 医療費+手数料 763,792,537円 件数 380,621件		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	小児医療費の助成を行った。 ただし、小学生以上には所得制限を設けている。 通院・入院対象年齢…0歳児から中学校卒業まで 医療証の発行数 27,278人 医療費及び件数 医療費+手数料 792,775,002円 件数 389,854件		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	今年度も引き続き、制度改正について検証し、医療費抑制や健康管理の啓発等を行うとともに、システムの効率的な運用を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (7) 2	ひとり親家庭等医療費助成事業	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
ひとり親家庭等の経済的負担を軽減するために医療費の一部を助成します。		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	ひとり親家庭等の経済的負担を軽減するため、医療費の助成を行った。 医療証の発行数 1,921世帯 4,777人 助成費及び件数 医療費+手数料 172,476,817円 件数 61,915件		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	ひとり親家庭等の経済的負担を軽減するため、医療費の助成を行った。 医療証の発行数 2,023世帯 5,047人 助成費及び件数 医療費+手数料 182,354,674円 件数 65,211件		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	ひとり親家庭等の経済的負担を軽減するため、医療費の助成を行った。 医療証の発行数 2,109世帯 5,258人 助成費及び件数 医療費+手数料 178,191,313円 件数 65,573件		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	事業の安定的な継続のため、扶助費の増加抑制として、医療費抑制や健康管理の啓発等を行うとともに、システムの効率的な運用を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (7) 3	保育所保育料の軽減	担当課	保育課
<b>事業の概要（計画掲載内容）</b> 子どもの数や世帯の所得に応じた保育所保育料の軽減を維持します。		<b>今後の取組み（計画掲載内容）</b> 家庭の状況に応じた保育所保育料の軽減を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	保育所保育料の軽減に向けた取組について ①現行の軽減措置の継続 ・世帯の所得に応じて21階層に分けて設定。 ・同一世帯から2人以上が同時に保育所、幼稚園等を利用している場合、2人目を半額、3人目以降は無料。 ・市民税額が一定額以下の世帯に対しては、子の年齢や保育所等の利用に関わらず、第2子の保育料を半額、第3子以降を無料。 ・寡婦控除のみなし適用制度を適用し、未婚の保護者については本来の市民税額よりも低い金額で保育料を算定。 ・市民税額が一定以下かつひとり親等の世帯に対しては、第1子の保育料を最低基準の保育料額として、第2子以降を無料。 ②幼児教育・保育の無償化実施 ・3歳から5歳児までの子ども及び0歳から2歳児までで住民税非課税世帯の子ども（保育の必要性があるもの）に対し、保育料が無償。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	保育所保育料の軽減に向けた取組については、平成29年度と同様の軽減措置を継続して実施した。 ・世帯の所得に応じて21階層に分けて設定。 ・同一世帯から2人以上が同時に保育所、幼稚園等を利用している場合、2人目を半額、3人目以降は無料。 ・市民税額が一定額以下の世帯に対しては、子の年齢や保育所等の利用に関わらず、第2子の保育料を半額、第3子以降を無料。 ・寡婦控除のみなし適用制度を適用し、未婚の保護者については本来の市民税額よりも低い金額で保育料を算定。 ・市民税額が一定以下かつひとり親等の世帯に対しては、第1子の保育料を最低基準の保育料額として、第2子以降を無料。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	幼児教育・保育の無償化	
	今後の事業展開とその判断理由	⑧ その他 令和元年10月から幼児教育・保育の無償化を実施するため。	
平成29年度	保育所の保育料については、世帯の所得に応じて21階層に分けて設定している。さらに、同一世帯から2人以上が同時に保育所、幼稚園等を利用している場合には、2人目を半額、3人目以降は無料とし、兄弟姉妹のいる家庭の保育料負担の軽減措置を継続している。 平成28年4月より、市民税額が一定額以下の世帯に対しては子の年齢や保育所等の利用に関わらず、第2子の保育料を半額、第3子以降を無料としている。 平成28年9月からは、寡婦控除のみなし適用制度を適用し、未婚の保護者については本来の市民税額よりも低い金額で保育料を計算している。 平成29年4月から、市民税額が一定額以下かつひとり親等の世帯に対しては、第1子の保育料を最低基準の保育料額とし、第2子以降を無料としている。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

2 (7) 4	幼稚園就園奨励事業	担当課	学務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
幼稚園等に就園する園児の保護者の経済的負担を軽減するとともに、幼児教育の振興に役立てるために市民税額に応じて幼稚園保育料等を軽減します。		子ども・子育て支援新制度による利用者負担額が適用されない幼稚園等に就園する園児の保護者の経済的負担を軽減するために市民税額に応じて保育料等を軽減します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	私立幼稚園に就園する園児の保護者1,800人に対し、4~9月分として、127,508,200円の補助金を交付した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	④廃止 令和元年10月から幼児教育無償化が実施され、必要なくなったため。	
平成30年度	私立幼稚園に就園する園児の保護者2,170人に対して265,610,700円の補助金を交付した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	幼児教育・保育の無償化実施に伴う制度廃止の周知	
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 令和元年10月から幼児教育・保育の無償化を実施するため。	
平成29年度	私立幼稚園に就園する園児の保護者2,240人に対して276,328,300円の補助金を交付した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	子ども・子育て支援新制度の開始により新制度へ移行した園とのバランスが保たれるか。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

2 (7) 5	児童生徒就学援助事業	担当課	学務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
経済的な理由により就学が困難な小・中学校に就学する児童、生徒の保護者に対して、就学に要する費用の一部を助成します。		引続き、経済的な理由により就学が困難な小・中学校に就学する児童、生徒の保護者に対して、就学に要する費用の一部を助成します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>経済的な理由により就学が困難と認めた児童生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学用品費、給食費などを援助している。</p> <p>【学用品費】小学生11,520円、中学生22,510円(4月1日認定者)、【通学用品費】2,250円(4月1日認定者)</p> <p>【新入学用品費】小学生40,600円、中学生47,400円、【入学準備金】次年度小学1年生50,600円、小学6年生57,400円</p> <p>【校外活動費】(日帰り)小学生1,580円、中学生2,290円(宿泊)小学生3,650円以内、中学生6,150円以内</p> <p>【修学旅行費】実費(60,300円以内)</p> <p>【通学費】小学生39,620円以内、中学生80,070円以内、【体育実技用具費】柔道7,570円以内、剣道52,380円以内</p> <p>【給食費】学校徴収額、【卒業時諸費用代】中学3年生8,000円</p> <p>【医療費・眼鏡購入費】現物給付</p>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>経済的な理由により就学が困難と認めた児童生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学用品費、給食費などを援助している。</p> <p>【学用品費】小学生11,420円、中学生22,320円(4月1日認定者)、【通学用品費】2,230円(4月1日認定者)</p> <p>【新入学用品費】小学生40,600円、中学生47,400円、【入学準備金】次年度小学1年生40,600円、小学6年生47,400円</p> <p>【校外活動費】(日帰り)小学生1,570円、中学生2,270円(宿泊)小学生3,620円以内、中学生6,100円以内</p> <p>【修学旅行費】実費(57,590円以内)</p> <p>【通学費】小学生39,290円以内、中学生79,410円以内、【体育実技用具費】柔道7,510円以内、剣道51,940円以内</p> <p>【給食費】学校徴収額、【卒業時諸費用代】中学3年生8,000円</p> <p>【医療費・眼鏡購入費】現物給付</p> <p>前年度に課題として挙げていた新入学用品費の前倒し支給について、今年度から入学前の支給を開始した。</p>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>経済的な理由により就学が困難と認めた児童生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学用品費、給食費などを援助している。</p> <p>【学用品費】小学生11,420円、中学生22,320円(4月1日認定者)</p> <p>【通学用品費】2,230円(4月1日認定者)</p> <p>【新入学用品費】小学生40,600円、中学生47,400円</p> <p>【入学準備金】39,400円(小学6年生)</p> <p>【校外活動費】(日帰り)小学生1,570円、中学生2,270円(宿泊)小学生3,620円以内、中学生6,100円以内</p> <p>【修学旅行費】実費</p> <p>【通学費】小学生39,290円以内、中学生79,410円以内</p> <p>【体育実技用具費】柔道7,510円以内、剣道51,940円以内</p> <p>【給食費】学校徴収額</p> <p>【卒業時諸費用代】8,000円(小学6年生、中学3年生対象)</p> <p>【医療費・眼鏡購入費】現物給付</p>		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	援助費目である、新入学用品費(小学1年生対象)の前払い支給の実施のために、課題の解決に向け検討すること。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

2 (7) 6	特別支援教育就学奨励援助事業	担当課	学務課
事業の概要 (中間年見直し掲載内容)		今後の取組み (中間年見直し掲載内容)	
特別支援教育を円滑に受けることができるようにするため、特別支援学級に就学する児童・生徒等の保護者に対して、就学に要する費用の一部を助成します。		引続き、特別支援学級に就学する児童・生徒等の保護者に対して、就学に要する費用の一部を助成します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>特別支援学級に就学する児童・生徒等の保護者に対して、就学に要する費用の一部を助成している。</p> <p>【学用品・通学用品費】(小学1年生と中学1年生は新入学用品費を含む)  実費の半額(上限額:小学1年生31,060円、小学2~6年生5,760円、  中学1年生39,955円、中学2~3年生11,255円)</p> <p>【校外活動費】(日帰り)実費の半額(上限額:小学生2,500円、中学生3,500円)  (宿泊)実費の半額(上限額:小学生4,000円、中学生3,500円)</p> <p>【修学旅行費】実費の半額(上限額:28,570円)</p> <p>【通学費】実費  【交流及び共同学習交通費】実費  【給食費】学校徴収額の2分の1</p>		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>特別支援学級に就学する児童・生徒等の保護者に対して、就学に要する費用の一部を助成している。</p> <p>【学用品・通学用品費】実費の半額(上限額:小学生5,710円、中学生11,160円)  【新入学用品費】実費の半額(上限額:小学生20,300円、中学生23,700円)  【校外活動費】(日帰り)実費の半額(上限額:小学生2,500円、中学生3,500円)  (宿泊)実費の半額(上限額:小学生4,000円、中学生3,500円)</p> <p>【修学旅行費】実費の半額(上限額:28,335円)</p> <p>【通学費】実費  【交流及び共同学習交通費】実費  【給食費】学校徴収額の2分の1</p>		
		A:成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成29年度	平成29年度に実施した中間年の見直しに併せて、本計画に追加した事業のため、掲載は省略します。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
<b>備考 (その他)</b>			

2 (7) 7	生業扶助・教育扶助	担当課	生活福祉課
事業の概要 (中間年見直し掲載内容)		今後の取組み (中間年見直し掲載内容)	
対象となる児童・生徒がいる生活保護世帯に対し、高等学校等就学費や教育扶助費として学習支援費や教材代等を援助します。		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	教育扶助 小学生 119人 中学生 73人 扶助額 16,539,210円  生業扶助 高校生 63人 扶助額 9,771,338円		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	教育扶助 小学生 136人 中学生 76人 扶助額 20,420,289円  生業扶助 高校生 65人 扶助額 9,323,617円		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成29年度	平成29年度に実施した中間年の見直しに併せて、本計画に追加した事業のため、掲載は省略します。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
備考 (その他)			

2 (7) 8	児童扶養手当	担当課	こども家庭課
事業の概要 (中間年見直し掲載内容)		今後の取組み (中間年見直し掲載内容)	
ひとり親世帯等の生活の安定と自立の促進に寄与し、児童の福祉の増進を図るため、父母の離婚、父または母の死亡などにより、父親又は母親と生計を同じくしていない児童について、手当を支給します。		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	児童扶養手当の支給をおこなった。 受給者数 1,765人 (令和2年3月31日時点) 支給金額 1,162,337,240円		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	児童扶養手当の支給をおこなった。 受給者数 1,839人 支給金額 943,395,400円		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	平成29年度に実施した中間年の見直しに併せて、本計画に追加した事業のため、掲載は省略します。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
備考 (その他)			



2 (7) 9	特別児童扶養手当	担当課	こども家庭課
事業の概要 (中間年見直し掲載内容)		今後の取組み (中間年見直し掲載内容)	
児童の福祉の増進を図るため、精神、知的または身体障害等 (内部障害を含む) で、政令に定める程度以上の障害にある2 0歳未満の児童について、手当を支給します。		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	特別児童扶養手当を支給するための事務をおこなった。(認定事務は神奈川県、支給事務は厚生労働省) 受給権者数 404人		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	特別児童扶養手当を支給するための事務をおこなった。(認定事務は神奈川県、支給事務は厚生労働省) 受給権者数 411人		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	平成29年度に実施した中間年の見直しに併せて、本計画に追加した事業のため、掲載は省略します。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
備考 (その他)			

2 (7) 10	児童手当	担当課	こども家庭課
事業の概要 (中間年見直し掲載内容)		今後の取組み (中間年見直し掲載内容)	
<p>次代の社会を担う児童の健やかな成長に資するため、0歳から1.5歳到達後最初の3月31日までの児童について、手当を支給します。</p>		<p>引続き事業を継続します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>児童手当の支給をおこなった。</p> <p>支給児童数          児童手当 延べ人数 210,567人          特例給付 延べ人数 20,789人          施設入所 延べ人数 814人          支給金額          3,714,205,000円</p>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>児童手当の支給をおこなった。</p> <p>支給児童数          児童手当 延べ人数 325,857人          特例給付 延べ人数 31,204人          施設入所 延べ人数 1,112人          支給金額          3,828,550,000円</p>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>平成29年度に実施した中間年の見直しに併せて、本計画に追加した事業のため、掲載は省略します。</p>		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
<b>備考 (その他)</b>			
<p>特例給付とは、児童を養育している方の所得が基準額以上の場合、法律の附則に基づいて支給すること。          施設入所とは、児童が施設に入所している場合や里親などに委託されている場合に、原則として、その施設の設置者や里親などに支給すること。</p>			

3 (1) 1	幼児教育指導法の工夫・改善	担当課	教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
より豊かな幼児教育を実現するために幼稚園の運営や指導法等を研究します。		幼稚園の運営及び指導法の研究のために園長会及び主任・担任研究会を実施し、幼児教育の充実を図ります。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営及び指導法の研究会として、園長会を4回、主任・担任研究会を10回開催した。</li> <li>・令和2年度に公立幼稚園が2園になるため、本事業の趣旨を重視した上でその内容を吟味し、必要な回数について検討した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	公立幼稚園が減少する中、今後もこども園の特性、幼稚園の特性を踏まえた有意義な研修の場となるよう、配慮していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	③縮小して継続 令和2年度から公立幼稚園が2園のみとなるため、園長会を3回、主任・担任研究会を8回開催とする。	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営及び指導法の研究会として、園長会を4回、主任・担任研究会を11回開催した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園の特性、幼稚園の特性を踏まえた研修の場になるように配慮する。</li> <li>・今後の公立園の方向性についての情報を早めにつかみ、同時に園長会、主任・担任研究会の持ち方について考える必要がある。</li> </ul>	
	今後の事業展開とその判断理由	③縮小して継続 類似事業があるため、主任・担任研究会を1回減。	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営及び指導法の研究会として、園長会を4回、主任・担任研究会を11回開催した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

3 (1) 2	幼・保・小・中連携の推進事業	担当課	教育指導課 教育研究所
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
幼・保・小・中の指導の一貫性を図るために連携学習研究会や連携教育講演会を開催します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼・保・小・中の連携学習研究会等を通して指導の在り方や指導上の問題点について研究協議し、相互に理解を深め、連携や交流を推進します。</li> <li>・幼・保・小・中連携を推進するために、夏季研究教室の講座として「幼保小中連携教育講演会」を開催します。</li> </ul>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	教育指導課 ・「就学前と小学校の連携」、「小学校と中学校の連携」をテーマに、幼・保・小・中連携学習研究会を、港こども園と神田中学校を会場に開催した。 教育研究所 ・7月25日に幼保小中連携教育講演会として、上智大学総合人間科学部教育学科の酒井朗教授を招き、「幼保小のなめらかな接続のために～幼・保・小連携をどう進めるか～」というテーマで御講演をいただいた。前半は酒井教授より幼稚園教育要領、小学校学習指導要領のそれぞれの視点を踏まえたお話や連携することのねらいや意義、他の自治体での具体的な実践事例を紹介していただいた。後半は異校種の先生方でグループを組み、情報交換を行った。市内教職員にとって大変有意義な講演会であった。(参加者 44人)		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	幼保小中連携教育講演会については、より多くの教職員に参加してもらえるよう、今後も学校への呼びかけが必要である。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	教育指導課 ・「就学前と小学校の連携」、「小学校と中学校の連携」をテーマに、幼・保・小・中連携学習研究会を、土屋小学校と横内小学校を会場に開催した。 教育研究所 ・7月27日に幼保小中連携教育講演会として、国立教育政策研究所幼児教育センター統括研究員の掘越紀香氏を招き、「子供の育ちと学びをつなぐ：学校段階等間の接続と進め方」というテーマで御講演をいただいた。前半は掘越氏より幼稚園教育要領、小学校学習指導要領のそれぞれの視点を踏まえたお話や具体的な実践事例を紹介していただき、後半は異校種の先生方でグループを組み、情報交換を行った。市内教職員にとって大変有意義な講演会であった。(参加者 35人)		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	幼保小中連携教育講演会については、より多くの教職員に参加してもらえるよう、学校への呼びかけが必要である。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	教育指導課 ・「就学前と小学校の連携」、「小学校と中学校の連携」をテーマに、幼・保・小・中連携学習研究会を、ひばり幼稚園と大野中学校を会場に開催した。 教育研究所 ・8月に幼・保・小・中連携教育講演会として、國學院大學人間開発学部 神長美津子教授を招き、幼児教育と学校教育のなめらかな接続について御講演をいただいた。次期幼稚園教育要領の解説と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10項目)、また小学校教育を見直し、円滑な接続を図ることが大切との話であり、市内教職員にとって大変有意義な講演会となった。(参加者 38人)		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

3 (1) 3	幼児教育の支援	担当課	教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>保護者の育児不安の解消と幼児の心身の健全な発達のために、幼稚園が幼児教育センター的機能として保護者の交流や教育相談等を実施します。</p>		<p>各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を実施します。また、各幼稚園が、地域の公民館と連携し、家庭教育学級を実施します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を行った。 実施園：4園</li> <li>・各幼稚園が地域の公民館と連携する中で、家庭教育学級を実施した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を行った。 実施園：4園</li> <li>・各幼稚園が地域の公民館と連携する中で、家庭教育学級を実施した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各幼稚園で、子育て支援の視点を持って、幼稚園教育についての研究会を行った。 実施園：4園</li> <li>・各幼稚園が地域の公民館と連携する中で、家庭教育学級を実施した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

3 (1) 4	生きる力を育む学校づくり推進事業	担当課	教育指導課 学校給食課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>生きる力を育む教育を展開するために、ふれあい教育、総合的な学習の時間・芸術鑑賞教室・食に関する指導等により特色ある学校づくりを推進します。</p>		<p>・子どもたちの「生きる力」を育むために学校ごとに創意工夫をこらした特色ある教育活動を推進します。 ・全小・中学校において作成された食に関する指導の年間計画に基づいて、給食時間、教科、委員会活動等で食に関する指導を実施します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>教育指導課 ・ふれあい教育を推進した。 実施園：幼稚園4園・認定こども園1園 ・「総合的な学習の時間」を推進した。実施校：小中学校45校 ・小学校の校外学習を推進した。 ・中学校の芸術鑑賞を推進した。 ・中学校の部活動の各種大会への参加を支援した。</p> <p>学校給食課 ・食育担当者会議を1回開催 ・食に関する指導回数については、小学校1,793回、中学校265回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>教育指導課 ・ふれあい教育を推進した。 実施園：幼稚園4園・認定こども園1園 ・「総合的な学習の時間」を推進した。実施校：小中学校45校 ・小学校の校外学習を推進した。 ・中学校の芸術鑑賞を推進した。 ・中学校の部活動の各種大会への参加を支援した。</p> <p>学校給食課 ・食育担当者会議を1回開催 ・平成30年度の食に関する指導回数は、小学校1,818回、中学校308回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>教育指導課 ・ふれあい教育を推進した。 実施園：幼稚園4園・認定こども園1園 ・「総合的な学習の時間」を推進した。実施校：小中学校45校 ・小学校の校外学習を推進した。 ・中学校の芸術鑑賞を推進した。 ・中学校の部活動の各種大会への参加を支援した。</p> <p>学校給食課 ・食育担当者会議を1回開催 ・平成29年度の食に関する指導回数は、小学校1970回、中学校254回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

3 (1) 5	外国人英語指導者の学校訪問事業	担当課	教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>幼児・児童・生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語や外国の生活・文化に親しむ心を養うために外国人英語指導者が幼稚園、小・中学校を訪問します。</p>		<p>子どもたちの英語に対する興味・関心をさらに高め、英語や外国の生活・文化に親しむ心を養うために外国人英語指導者の増員を目指します。</p>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>・外国人英語指導者12人が小学校・中学校・幼稚園・認定こども園へ訪問した。 実施校(園)：小中学校43校・幼稚園4園・認定こども園1園</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	外国人英語指導者と教員とのTTによるより効果的な授業の展開。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>・外国人英語指導者11人が小学校・中学校・幼稚園・認定こども園へ訪問した。 実施校(園)：小中学校43校・幼稚園4園・認定こども園1園</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	外国人英語指導者と教員とのTTによる効果的な授業の展開。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>・外国人英語指導者9人が小学校・中学校・幼稚園・認定こども園へ訪問した。 実施校(園)：小中学校43校・幼稚園4園・認定こども園1園</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

3 (1) 6	人権教育の推進	担当課	教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
人権教育を推進するため教職員の研修を充実します。		人権を尊重した学校教育を確立するために人権教育担当者を開催し、学校教育における人権教育の具体的な在り方を研究します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育担当者を3回開催した。</li> <li>・人権教育実践集を作成し、5月に小中学校45校へ配付した。</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育担当者を3回開催した。</li> <li>・人権教育実践集を作成し、4月に小中学校45校へ配付した。</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育担当者を3回開催した。</li> <li>・人権教育実践集を作成し、4月に小中学校45校へ配付した。</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			



3 (1) 7	日本語指導協力者派遣事業	担当課	教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
日本語の指導が必要な児童・生徒に対して、学校における日本語指導、母国語指導、生活適応指導等を支援するため要請に応じて、日本語指導協力者を小・中学校に派遣します。		学校の要請に応じて適宜日本語指導協力者を派遣します。また、国際教室等連絡協議会を開催し、日本語指導の内容や方法について情報交換等を行います。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際教室等連絡協議会を3回開催した。</li> <li>・小中学校45校中28校に、日本語指導協力者19人を派遣した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際教室等連絡協議会を3回開催した。</li> <li>・小中学校45校中35校、認定こども園1園に、日本語指導協力者19人を派遣した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際教室等連絡協議会を3回開催した。</li> <li>・小中学校45校中29校、認定こども園1園に、日本語指導協力者23人を派遣した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

3 (1) 8	サポートチームシステム推進事業	担当課	教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
小・中学生の問題行動への対策を話し合い、地域や関係機関と連携し、具体的な指導・支援を行います。		市サポート連絡会を開催するとともに、中学校区サポート委員会を各中学校区で実施します。また、個別サポートチームを必要に応じて編成し、児童・生徒への効果的な指導、支援を行います。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市サポート連絡会を3回開催した。</li> <li>・中学校区サポート委員会を各中学校区で実施した。</li> <li>・個別サポートチームの編成を必要に応じて検討した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市サポート連絡会を3回開催した。</li> <li>・中学校区サポート委員会を各中学校区で実施した。</li> <li>・個別サポートチームの編成を必要に応じて検討した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市サポート連絡会を3回開催した。</li> <li>・中学校区サポート委員会を各中学校区で実施した。</li> <li>・個別サポートチームの編成を必要に応じて検討した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

3 (1) 9	中学校部活動指導者派遣事業	担当課	教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>中学校における部活動育成及び活性化のため、各学校の要請に応じ、専門的資質を有する部活動指導者を顧問の指導協力者として派遣します。</p>		<p>中学校の要請に応じ、専門的資質を有する部活動指導者を顧問の指導協力者として派遣します。</p>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>・中学校の要請に応じ、部活動の地域指導者延べ95人を派遣した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>・中学校の要請に応じ、部活動の地域指導者延べ98人を派遣した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>・中学校の要請に応じ、部活動の地域指導者延べ109人を派遣した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

3 (1) 10	学校支援ボランティアの活用	担当課	教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>学校の教育活動の充実と開かれた学校づくりのために学校支援ボランティア等地域の人々の教育力を活用します。</p>		<p>各学校の実情に合わせ、ボランティアの活用を図るための必要な支援を行います。</p>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>・各学校で、それぞれの実情に応じて、授業や行事等に関わる支援、読み聞かせや図書室整理に関わる支援、校舎内外の環境整備に関わる支援等について、学校支援ボランティア等地域の方々の教育力を活用した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>・各学校で、それぞれの実情に応じて、授業や行事等に関わる支援、読み聞かせや図書室整理に関わる支援、校舎内外の環境整備に関わる支援等について、学校支援ボランティア等地域の方々の教育力を活用した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>・各学校の実情に合わせ、ボランティアの活用を図るための支援を行った。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

3 (1) 11	教材・教具等の充実	担当課	教育総務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
学習環境の向上のため、教材・教具、学校図書等を整備します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>理科教材の充実のために各小・中学校に予算を配当する他、理科教育設備整備費補助金を活用し、理科教育設備基準に対する整備率を向上させます。</li> <li>学校図書館図書の充実のために各小・中学校に予算を配当し、学校図書館図書標準に基づき蔵書数を増やします。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館図書整備率の充足に向け、小学校1校あたり平均31万円4千円、中学校1校あたり平均38万5千円を学校図書館図書購入費用として分校を除く小中学校全校に配当した。</li> <li>理科教育等教材整備基準の整備率を充足するため、小学校15校 (平均8万1千円)、中学校11校 (平均22万2千円) が理科教材を購入した。</li> <li>文部科学省の理科教育設備整備事業を活用し、小学校約42万円 (対象校2校)、中学校約64万円分 (対象校2校) の教材を購入した。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	今年度も限られた予算の中で、ほかの事業とのバランスも考慮しつつ予算を確保できるかが課題となっていたが、平成31年度から理科教材等充実事業を学校運営事業に統合し、効率よく執行できるように変更した。古い図書や理科教材の廃棄により蔵書率・整備率が向上しないことについては引き続き課題検討していく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館図書整備率の充足に向け、小学校1校あたり平均31万円、中学校1校あたり平均20万7千円を学校図書館図書購入費用として分校を除く小中学校全校に配当した。</li> <li>理科教育等教材整備基準の整備率を充足するため、小学校1校あたり平均11万4千円、中学校1校あたり平均18万円を理科教材購入費用として小学校5校、中学校は4校に配当した。</li> <li>文部科学省の理科教育設備整備事業を活用し、小学校約42万円 (対象校2校)、中学校約61万円分 (対象校2校) の教材を購入した。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	今年度も限られた予算の中で、ほかの事業とのバランスも考慮しつつ予算を確保できるかが課題となっていた。1つの改善策として、平成31年度から理科教材等充実事業を学校運営事業に統合し、効率よく執行できるように変更を考えている。また、古い図書や理科教材の廃棄により、蔵書率・整備率が向上しないことについては引き続き課題検討していく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館図書整備率の充足に向け、小学校1校あたり平均30万6千円、中学校1校あたり平均38万3千円を学校図書館図書購入費用として分校を除く小中学校全校に配当した。</li> <li>理科教育等教材整備基準の整備率を充足するため、小学校1校あたり平均7万6千円、中学校1校あたり平均11万円を理科教材購入費用として小学校3校、中学校は5校に配当した。</li> <li>文部科学省の理科教育設備整備事業を活用し、小学校約42万円 (対象校2校)、中学校約63万円分 (対象校2校) の教材を購入した。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	該当する予算が縮小されれば、計画通り整備が進まなくなることが懸念されるため、ほかの事業とのバランスも考慮しつつ予算を確保できるかが課題となっている。また、古い図書や理科教材の廃棄が進むと、計画通りに蔵書率・整備率が向上しないことも想定される。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

3 (2) 1	教育相談体制の充実事業	担当課	子ども教育相談センター
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>児童・生徒の様々な問題を解決するために相談スタッフを充実するとともに、訪問相談事業、各種研修会・研究会を実施します。</p>		<p>研修会等の内容や講師の選定に努め、より良い支援ができるように事業の内容を充実させます。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>特別な教育的配慮を必要とする児童・生徒に対する学校巡回相談を実施 依頼延べ人数427人 訪問回数延べ73回          不登校児童・生徒に対する訪問相談を実施 5ケース 訪問回数延べ131回          教育相談所内研修会 9回開催 参加人数延べ153人          学校訪問事例研究会 5回開催 参加人数延べ129人          教育相談コーディネーター担当者会 4回開催 参加人数延べ122人 (3回分の人数。1回は、教育相談・支援教育研修会に参加する (参加日は本人選択)。)          機関誌「そうだん」の発行</p>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	特別な教育的配慮を必要とする児童・生徒に対し適切な対応・支援を行うことができた。今後も、教育相談体制の充実を図るとともに、関係課と連携し切れ目のない支援体制を構築していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続 支援を必要とする児童・生徒に対する相談依頼の増加に対して十分な対応・支援が行えるようにする必要がある。	
平成30年度	<p>特別な教育的配慮を必要とする児童・生徒に対する学校巡回相談を実施 依頼延べ人数404人 訪問回数延べ81回          不登校児童・生徒に対する訪問相談を実施 4ケース 訪問回数延べ188回          教育相談所内研修会 10回開催 参加人数延べ173人          学校訪問事例研究会 5回開催 参加人数延べ114人          教育相談コーディネーター担当者会 4回開催 参加人数延べ118人 (3回分の人数。1回は、教育相談・支援教育研修会に参加する (参加日は本人選択)。)          機関誌「そうだん」の発行</p>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	巡回相談の実施により、特別な教育的配慮を必要とする児童・生徒に対し適切な対応・支援を行った。今後も、教育相談体制の充実を図るとともに、切れ目のない支援体制を構築していく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 支援を必要とする児童・生徒に対する相談依頼の増加に対して十分な対応・支援が行えるようにする必要がある。	
平成29年度	<p>専任の相談員による特別な教育的配慮を必要とする児童・生徒に対する学校巡回相談を実施 支援対象児童生徒213人 訪問回数延べ78回          専任の相談員による不登校児童・生徒に対する訪問相談を実施 5ケース 訪問回数延べ361回          教育相談所内研修会 9回開催 参加人数延べ161人          学校訪問事例研究会 5回開催 参加人数延べ119人          教育相談コーディネーター担当者会 4回開催 参加人数延べ122人 (3回分の人数。1回は、夏季教育相談・支援教育研修会に参加する (参加日は本人選択)。)          機関誌「そうだん」の発行</p>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	専任の相談員による巡回相談の実施により、特別な教育的配慮を必要とする児童・生徒に対し適切な対応・支援を行った。しかし、発達障がい等の児童・生徒の不登校は増加傾向にあり、今後も切れ目のない支援体制を構築していく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 児童・生徒が安心して学校生活を送れるように、巡回相談による就学移行支援、継続支援を行う。支援対象児童は増加しており、相談依頼の増加に対して十分な対応・支援が行えるようにする必要がある。	
<b>備考 (その他)</b>			

3 (2) 2	スクールカウンセラー派遣事業	担当課	子ども教育相談センター
---------	----------------	-----	-------------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
児童・生徒の様々な問題を解決するために本人や保護者のカウンセリングと教職員を支援するスクールカウンセラーを小・中学校に派遣します。	スクールカウンセラーを年間15人派遣し、全小・中学校に配置していきます。その後は勤務日の増加を目指します。

**各年度における主な取組み等**

令和元年度	13人(週3日勤務)による市内小学校28校、中学校13校での相談活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室巡回2223回、教室等でのエクササイズ4回、外部関係者・機関との情報交換168回、教職員向け研修会9回、保護者・地域向け講演会0回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席78回、校内支援会議への参加217回、家庭訪問42回、その他36回 計2777回</li> <li>・来室相談延べ人数：小学生1440人、中学生772人、小学生保護者1313人、中学生保護者459人、小学校教員3131人、中学校教員1457人 計8572人</li> <li>・来室相談内容延べ人数：不登校2256人、いじめ92人、暴力143人、虐待89人、友人・異性関係891人、貧困14人、非行74人、家庭環境803人、教職員との関係168人、心身の健康・保健1008人、学業進路626人、発達1934人、その他474人 計8572人</li> <li>・電話相談延べ人数：小学生12人、中学生60人、小学生保護者248人、中学生保護者93人、小学校教員33人、中学校教員5人 計451人</li> <li>・電話相談内容延べ人数：不登校167人、いじめ3人、暴力0人、虐待0人、友人・異性関係18人、貧困0人、非行0人、家庭環境33人、教職員との関係8人、心身の健康・保健47人、学業進路21人、発達74人、その他80人 計451人</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	スクールカウンセラーを増員し、県のスクールカウンセラーと合わせて全中学校に週2回配置し、児童・生徒、保護者に対し教育相談の充実を図る必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続 スクールカウンセラーを小学校へ週1回、中学校へ県のスクールカウンセラーと合わせて週2回配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。
平成30年度	13人(週3日勤務)による市内小学校28校、中学校15校での相談活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室巡回2388回、教室等でのエクササイズ4回、外部関係者・機関との情報交換202回、教職員向け研修会12回、保護者・地域向け講演会4回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席81回、校内支援会議への参加253回、家庭訪問106回、その他91回 計3141回</li> <li>・来室相談延べ人数：小学生1605人、中学生862人、小学生保護者1368人、中学生保護者360人、小学校教員3062人、中学校教員1484人 計8741人</li> <li>・来室相談内容延べ人数：不登校2547人、いじめ89人、暴力163人、虐待96人、友人・異性関係1043人、貧困5人、非行54人、家庭環境609人、教職員との関係285人、心身の健康・保健677人、学業進路447人、発達2267人、その他459人 計8741人</li> <li>・電話相談延べ人数：小学生18人、中学生73人、小学生保護者233人、中学生保護者142人、小学校教員20人、中学校教員29人 計515人</li> <li>・電話相談内容延べ人数：不登校273人、いじめ1人、暴力0人、虐待0人、友人・異性関係18人、貧困0人、非行14人、家庭環境12人、教職員との関係21人、心身の健康・保健23人、学業進路21人、発達95人、その他37人 計515人</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	スクールカウンセラーを増員し、県のスクールカウンセラーと合わせて全中学校に週2回配置し、児童・生徒、保護者に対し教育相談の充実を図る必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 スクールカウンセラーを小学校へ週1回、中学校へ県のスクールカウンセラーと合わせて週2回配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。
平成29年度	13人(週3日勤務)による市内小学校28校、中学校11校での相談活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室巡回2,432回、外部関係者・機関との情報交換148回、教職員向け研修会6回、保護者・地域向け講演会4回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席107回、校内支援会議への参加217回、家庭訪問134回、その他40回 計3,088回</li> <li>・来室相談延べ人数：小学生1,802人、中学生852人、小学生保護者1,207人、中学生保護者275人、小学校教員3,122人、中学校教員1,265人 計8,523人</li> <li>・来室相談内容延べ人数：長期欠席2,160人、いじめ46人、暴力行為264人、児童虐待47人、友人・異性954人、非行・不良行為100人、親子関係566人、教職員との関係275人、心身の健康・保健661人、自己性格874人、学習進路510人、発達1,570人、その他465人、被災関係31人</li> <li>・電話相談延べ人数：小学生8人、中学生3人、小学生保護者184人、中学生保護者101人、小学校教員3人、中学校教員7人 計306人</li> <li>・電話相談内容延べ人数：長期欠席111人、いじめ0人、暴力行為0人、児童虐待1人、友人・異性8人、非行・不良行為7人、親子関係30人、教職員との関係2人、心身の健康・保健27人、自己性格48人、学習進路10人、発達37人、その他24人、被災関係1人</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができた。残り4校の配置ができる、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができる。その後、保護者や学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 スクールカウンセラーを全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。

<b>備考 (その他)</b>	

3 (2) 3	スクールソーシャルワーカー派遣事業	担当課	子ども教育相談センター
事業の概要 (中間年見直し掲載内容)		今後の取組み (中間年見直し掲載内容)	
社会福祉に関する専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーを小・中学校へ派遣します。		スクールソーシャルワーカーを小・中学校に派遣し、問題行動等の未然防止や早期解決に向けた対応を図ります。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	3人 (週5日勤務1人、週3日勤務2人) による相談活動内容 小学校：相談件数 84件、延べ訪問回数 91回、ケース会議への参加 45回、関係機関との連携 (含電話) 719回 中学校：相談件数 122件、延べ訪問回数 83回、ケース会議への参加 35回、関係機関との連携 (含電話) 604回		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	スクールソーシャルワーカーを各学校からの要請に応じて派遣し、問題行動等の未然防止や早期解決に向けた対応を図ることができた。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	3人 (週5日勤務1人、週3日勤務2人) による相談活動内容 小学校：相談件数 91件、延べ訪問回数80回、ケース会議への参加 51回、関係機関との連携 (含電話)725回 中学校：相談件数 124件、延べ訪問回数108回、ケース会議への参加 69回、関係機関との連携 (含電話)898回		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	スクールソーシャルワーカーを各学校からの要請に応じて派遣し、問題行動等の未然防止や早期解決に向けた対応を図る必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	平成29年度に実施した中間年の見直しに併せて、本計画に追加した事業のため、掲載は省略します。		
	検証結果		
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由		
備考 (その他)			



4 (1) 1	交通安全啓発推進事業	担当課	交通政策課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
幼稚園、保育所、学校等において交通安全教室を開催し、交通事故防止と交通安全の啓発を行います。		交通ルールやマナーの周知を継続的に実施し、交通事故防止と交通安全意識の向上を図ります。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	交通安全教室実施回数224回		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	交通安全教室の実施依頼がない幼稚園、保育所（園）、小学校等にも周知を行い、少しでも多くの学校等で交通安全教室を実施できるように努める。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	交通安全教室実施回数 224回		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	交通安全教室の実施依頼がない幼稚園、保育所（園）、小学校等にも周知を行い、少しでも多くの学校等で交通安全教室を実施できるように努める。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	交通安全教室実施回数 222回		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	交通安全教室の実施依頼がない幼稚園、保育所（園）、小学校等にも周知を行い、少しでも多くの学校等で交通安全教室を実施できるように努める。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

4 (1) 2	歩道設置事業	担当課	道路整備課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
歩行者の安全を確保するために主要幹線道路に歩道を新設します。		幹道10号(城所線)や入野5号線等に、歩道等を設置し歩行者の安全を確保します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	整備延長 38m 八幡愛甲線 38m 幹線道路の歩道整備については、既存道路用地の利用等、事業費の低減が可能な方法を検討するなど、計画的に事業を進めた。		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	幹線道路の歩道整備には、用地買収、物件補償費、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	整備延長 388m 吉沢土屋線 156m 城所線 157m 真土金目線 29m 東海大学前駅真田線 46m 幹線道路の歩道整備については、既存道路用地の利用等、事業費の低減が可能な方法を検討するなど、計画的に事業を進めた。		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	幹線道路の歩道整備には、用地買収、物件補償費、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	整備延長 337m 後谷八幡裏線 52m 城所線 124m 平塚駅桃浜町線 102m 河内公所線 59m		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	幹線道路の歩道整備には、用地買収、物件補償費、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

4 (1) 3	通学路合同点検事業	担当課	学務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
通学路の安全を確保するため、各学校からあげられた通学路の危険箇所を学校、保護者、自治会等地域住民、警察、道路管理者等で通学路の合同点検を実施し、安全対策案の検討・対策の実施を進めます。		合同点検を実施し、安全対策案の検討・対策の実施を進めます。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>通学路合同点検を8日開催した。 通学路交通安全推進会議を1回開催した。</p> <p>合同点検実施学校数：19校 合同点検実施箇所数：50箇所</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	PDCAサイクルとして繰り返し実施し、事業の改善・充実を図る必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>通学路合同点検を4日開催した。 通学路交通安全推進会議を1回開催した。</p> <p>合同点検実施学校数：16校 合同点検実施箇所数：29箇所</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	PDCAサイクルとして繰り返し実施し、事業の改善・充実を図る必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>通学路合同点検を4日開催した。 通学路交通安全推進会議を2回開催した。</p> <p>合同点検実施学校数：22校 合同点検実施箇所数：36箇所</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	PDCAサイクルとして繰り返し実施し、事業の改善・充実を図る必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

4 (2) 1	地域安全運動の推進	担当課	危機管理課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが犯罪に巻き込まれないように市民の防犯意識の高揚を図るため、関係団体が連携した地域安全運動や地域安全運動推進大会、研修会等を実施します。</li> <li>地域の防犯活動を支援します。</li> </ul>		警察機関や防犯協会と連携し、事業を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域安全運動推進大会の実施 (154人参加)</li> <li>安全・安心まちづくり旬間、年末年始特別警戒期間、毎月10日 (防犯の日) 等に地域安全運動等を実施</li> <li>防犯啓発のぼり旗や、自転車ワイヤーロックやかごネット等の防犯啓発グッズを配布</li> <li>地域見守り花植え活動の実施 (チューリップの球根を23支部に配布)</li> <li>防犯講話や防犯教室の実施 (警察や防犯協会等の関係機関と連携し、4回実施)</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	無施錠による自転車盗への対策など	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域安全運動推進大会の実施 (245人参加)</li> <li>安全・安心まちづくり旬間、年末年始特別警戒期間、毎月10日 (防犯の日) 等に地域安全運動等を実施</li> <li>防犯啓発のぼり旗や、自転車ワイヤーロックやかごネット等の防犯啓発グッズを配布</li> <li>地域見守り花植え活動の実施 (チューリップの球根を23支部に配布)</li> <li>防犯講話や防犯教室の実施 (警察や防犯協会等の関係機関と連携し、6回実施)</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	地域見守り花植え活動の拡大	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域安全運動推進大会の実施 (152人参加)</li> <li>安全・安心まちづくり旬間、年末年始特別警戒期間、毎月10日 (防犯の日) 等に地域安全運動等を実施</li> <li>防犯啓発のぼり旗、防犯啓発看板、防犯啓発グッズの配布を随時実施</li> <li>地域見守り花植え活動の実施 (チューリップ等の球根を24支部に配布)</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	地域見守り花植え活動の拡大	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

4 (2) 2	地域安全施設整備事業	担当課	危機管理課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが犯罪に巻き込まれないように防犯街路灯を設置します。</li> <li>自治会等の団体が管理する防犯街路灯の設置や維持管理を支援します。</li> </ul>		自治会等の要望や意見を取入れながら、事業を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯街路灯の新設61灯</li> <li>防犯街路灯維持管理補助金 (14団体計125灯に補助)</li> <li>平成28年度に市に移管した防犯街路灯の維持管理</li> <li>防犯カメラ設置補助金 (10団体14台に補助)</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会が設置した防犯街路灯用自立柱の維持管理に関する調整</li> <li>LED化後に耐用年数を迎える防犯街路灯の更新</li> </ul>	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯街路灯の新設65灯</li> <li>防犯街路灯維持管理補助金 (15団体計146灯に補助)</li> <li>平成28年度に市に移管した防犯街路灯の維持管理</li> <li>防犯カメラ設置補助金 (11団体15台に補助)</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会が設置した防犯街路灯用自立柱の維持管理方法の検討</li> <li>未整備箇所への防犯街路灯の整備</li> </ul>	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯街路灯の新設149灯</li> <li>防犯街路灯維持管理補助金 (15団体計154灯に補助)</li> <li>防犯カメラ設置補助金 (5団体10台に補助)</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会が設置した防犯街路灯用自立柱の維持管理方法の検討</li> <li>未整備箇所への防犯街路灯の整備</li> </ul>	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度に防犯街路灯設置補助金を廃止</li> <li>平成29年度から防犯カメラ設置補助金の運用を開始</li> </ul>			

4 (2) 3	学校（園）の安全対策事業	担当課	学務課
事業の概要（計画掲載内容）		今後の取組み（計画掲載内容）	
子どもの登下校時の安心・安全を確保するために自転車や公用車による巡回パトロールを行います。		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新1年生下校時に実施（4月）</li> <li>・秋季休業開始時に実施（10月）</li> <li>・その他事件事故発生時等に、随時学区内の巡回を実施</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新1年生下校時に実施（4月）</li> <li>・秋季休業開始時に実施（10月）</li> <li>・その他事件事故発生時等に、随時学区内の巡回を実施</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新1年生下校時に実施（4月）</li> <li>・秋季休業開始時に実施（10月）</li> <li>・その他事件事故発生時等に、随時学区内の巡回を実施</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考（その他）			

4 (2) 4	通学路安全対策事業	担当課	学務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
児童・生徒の安心・安全な通学を確保するために、地域との連携により、あいさつ運動の推進や通学路の環境を整備します。		学校との連携により、児童・生徒が安全で安心して通学できる環境づくりを進める地域団体に対し、通学路安全対策事業の経費を補助します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	地域、学校等と連携して通学路の安全対策を進める8団体に対して、横断旗、パトロールベストなどの補助として総額319,964円を交付した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	地域、学校等と連携して通学路の安全対策を進める8団体に対して、横断旗、パトロールベストなどの補助として総額298,480円を交付した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	地域、学校等と連携して通学路の安全対策を進める8団体に対して、横断旗、パトロールベストなどの補助として総額317,582円を交付した。		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

4 (2) 5	子どもの安全対策の推進	担当課	社会教育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
市内の各中学校区の地域教育力ネットワーク協議会が行う「こどもサポート看板」の設置・管理を支援し、子どもの安全確保に努めます。		市内の公共施設、住宅、店舗等への「こどもサポート看板」の設置に協力いただける件数を増やします。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	看板設置枚数 2,096枚 新規設置希望者への配布に加え、経年劣化した看板の刷新も各地区で適宜行われた。		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	小学1年生へのチラシ配布、小・中学校へのポスター掲示や広報ひらつかへの掲載等を行っているが、今後も保護者や地域諸団体への継続した周知が必要。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	看板設置枚数 2,101枚 新規設置希望者への配布に加え、経年劣化した看板の刷新も各地区で適宜行われた。		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	小学1年生へのチラシ配布、小・中学校へのポスター掲示や広報ひらつかへの掲載等を行っているが、今後も保護者や地域諸団体への継続した周知が必要。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	看板設置枚数 2,094枚		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	小学1年生へのチラシ配布、小・中学校へのポスター掲示や広報ひらつかへの掲載等を行っているが、今後も保護者や地域諸団体への更なる周知が必要。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			



4 (3) 1	安全対策の推進	担当課	みどり公園・水辺課 総合公園課 青少年課
<b>事業の概要（計画掲載内容）</b> 公園等の点検・整備を行い、子どものあそび場の安全確保に努めます。		<b>今後の取組み（計画掲載内容）</b> ・直営による公園施設の点検において、ベンチや一般的な遊具等の共通項目だけでなく、公園特性に応じた附帯的な施設についても、細やかな部分まで点検を行い、安全管理を徹底します。 ・安全にあそぶことができる広場にするために定期的な巡回点検を行い、修繕等を実施します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	みどり公園・水辺課 ・市内の公園施設の点検を10回（うち6回は遊具のみ点検）実施。 ・各公園愛護会による公園内異常の早期通報活動を実施。 ・公園内の草刈、樹木剪定を実施。 総合公園課 ・総合公園において、日常点検および専門業者による遊具の保守点検を実施。 ・日常点検・専門業者からの指摘等により発見された遊具の修繕の実施。 ・安全対策として、国庫補助金を利用した、わんぱく広場複合遊具更新の検討を行った。 青少年課 ・市内14か所（※11月1日以降は13か所）の青少年広場、ちびっ子広場の管理、広場3か所のブランコ修繕、江南児童遊園の樹木伐採、松が丘青少年広場土留め修繕、横内児童遊園の地権者への返還（10月31日付）		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	安全第一が求められるため、経年劣化してしまった遊具の更新や修繕、撤去等の判断基準の必要性及び遊具の安全確保対策が課題となっています。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	みどり公園・水辺課 ・市内の公園施設の点検を10回（うち6回は遊具のみ点検）実施。 ・各公園愛護会による公園内異常の早期通報活動を実施。 ・公園内の草刈、樹木剪定を実施。 総合公園課 ・総合公園において、毎日の日常点検および専門業者による遊具の保守点検の実施 ・点検・指摘等により発見された遊具の修繕の実施、及び基準を満たさなくなった遊具の撤去 青少年課 ・市内14か所の青少年広場、ちびっ子広場の管理。横内児童遊園の草刈、上山下なかよし広場のすべり台撤去、今里西ちびっ子広場ネットフェンス修繕、中宿子ども広場の地権者への返還		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	安全性の確保が求められるため、経年劣化してしまった遊具の修繕か撤去等の判断基準の必要性及び遊具の安全確保対策が課題となっています。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	みどり公園・水辺課 ・市内の公園施設の点検を10回（うち6回は遊具のみ点検）実施。 ・各公園愛護会による公園内異常の早期通報活動を実施。 ・公園内の草刈、樹木剪定を実施。 総合公園課 ・総合公園において、毎日の日常点検および専門業者による遊具の保守点検を実施。 ・点検・指摘等により発見された遊具の修繕の実施。 ・公園外周の樹木を剪定し、外部からの見通しと明るさ及び落枝の安全性の改善を図った。 青少年課 ・市内15か所の青少年広場、ちびっ子広場の管理。横内児童遊園の草刈、江南児童遊園の樹木伐採、古真土ちびっ子広場のフェンス修繕、寺分ちびっ子広場のフェンス修繕		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	安全第一が求められるため、経年劣化してしまった遊具の修繕か撤去等の判断基準の必要性及び遊具の安全確保対策が課題となっています。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

4 (3) 2	公園整備事業	担当課	みどり公園・水辺課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
公園等を計画的に整備するとともに、整備の際は子どもの発育段階に応じた遊具の設置、配置等を考慮し、あそび場の確保を図ります。		公園長寿命化計画を策定し、子どもの発育段階に対応した遊具を計画的に整備・補修します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>馬入公園、柳町公園、山下北公園、青柳公園、八間通り公園 計5公園の揺動遊具設置工事。</li> <li>公園の長寿命化に向けて検討を進めている。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	「公園管理指針」などを基に優先順位をつけ、効率的かつ経済的に施設の長寿命化を図っていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>山下東公園のコンクリート遊具改修工事 (平成29年～ 継続事業)</li> <li>湘南海岸公園、桃浜公園、八幡山公園、高村公園、めぐみが丘公園、金目親水公園 計6公園の揺動遊具設置工事</li> <li>公園の長寿命化に向けて、市内の公園を対象に「公園管理指針」の検討を進めている。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	市内にある公園施設を効率的かつ経済的に維持管理を進めるため、優先順位をつけ、施設の長寿命化を図っていく必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>松風公園の複合遊具設置工事</li> <li>山下東公園のコンクリート遊具改修工事 (平成29年～平成31年継続事業)</li> <li>めぐみが丘中央公園、公所公園の揺動遊具設置工事</li> <li>公園の長寿命化に向け、市内の公園を対象に「公園管理指針」及び「公園管理基準」の作成を進めている。「公園管理指針」を基に「公園管理基準」を作成し、その基準に従い、施設の長寿命化を図っていく。優先順位をつけ、効率的かつ経済的に施設の維持管理を進める。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	来園者が安心・安全に施設の利用ができるよう、長寿命化を図る公園や施設の選定を行い、計画的な整備、維持管理の手法について検討を進める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
備考 (その他)			

4 (4) 1	歩道のバリアフリー化事業	担当課	道路整備課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
歩行者の安全性向上と障がい者や高齢者等に優しいまちづくりを進めるために歩道の段差解消等の改良をします。		平塚市バリアフリー基本構想に位置づけられた生活関連経路である幹道34号(南町通東浅間線)等の歩道の段差解消等の改良をします。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	段差解消 14か所		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 現行の平塚市バリアフリー基本構想の目標年次は令和2年度であるが、今後も歩道の新設や改良を行う場合には、移動等円滑化基準に適合した整備を推進していく。	
平成30年度	段差解消 47か所		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	段差解消 41か所		
	検証結果	A:成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

4 (4) 2	ノンステップバス推進事業	担当課	交通政策課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
高齢者や障がい者を始めとした全ての市民のバスによる移動の利便性や安全性の向上を図るために、市内を運行するバス事業者に対してノンステップバスの導入を支援します。		ノンステップバス導入率の向上に向け、バス事業者と連携を図りながら、導入を支援します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	バス事業者に対しノンステップバスの導入を補助し、バス事業者がノンステップバス6台を導入しました。(累計114台)		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	市域を跨ぐ路線では、管轄の営業所によってノンステップバスの車両数に差がある。ノンステップバスの導入を広域的に進めていくには、営業所の所在の有無に関係なく補助を行うことができる制度が必要であり、引き続き神奈川県に対して車両購入に対する補助制度の創設を要望していく。さらに、近隣市に対しても同様に導入促進の働きかけを行っていく。	
	今後の事業展開とその判断理由	⑧ その他 令和2年度末に、ノンステップバスの導入率70%の目標値を達成する見込みである。なお、ノンステップバスの目標値は、国の基本方針に基づくことから、国の動向に注視しながら、必要に応じて目標値の再設定をする必要がある。	
平成30年度	バス事業者に対しノンステップバスの導入を補助し、バス事業者がノンステップバス12台を導入しました。(累計108台)		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	市域を跨ぐ路線では、管轄の営業所によってノンステップバスの車両数に差がある。ノンステップバスの導入を広域的に進めていくには、営業所の所在の有無に関係なく補助を行うことができる制度が必要であり、引き続き神奈川県に対して車両購入に対する補助制度の創設を要望していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	バス事業者に対しノンステップバスの導入を補助し、バス事業者がノンステップバス24台を導入しました。(累計96台)		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	市域を跨ぐ路線では、管轄の営業所によってノンステップバスの車両数に差がある。ノンステップバスの導入を広域的に進めていくには、営業所の所在の有無に関係なく補助を行うことができる制度が必要であり、引き続き神奈川県に対して車両購入に対する補助制度の創設を要望していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

4 (5) 1	環境実態調査	担当課	青少年課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
県が主催する青少年を取巻く環境実態調査に協力し現地調査をします。		現状通りの調査を継続して行う予定となっています。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>県と市町村が連携して次のとおり社会環境実態調査を実施した。          令和元年度は、インターネットカフェ・まんが喫茶、複合店等を対象に主に7月から9月までの間に青少年指導員が店舗を訪問して調査を行った。(崇善、豊田、勝原の3地区で実施)          ≪主な調査項目≫          インターネットカフェ・まんが喫茶：条例に基づく措置、客席の状況          複合店等：有害図書類等(本・雑誌等)、有害図書類等(映像ソフト)、Z区分ゲームソフト</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<p>県と市町村が連携して次のとおり社会環境実態調査を実施した。          平成30年度は、カラオケボックス、インターネットカフェ・まんが喫茶、書店を対象に主に7月から9月までの間に青少年指導員が店舗を訪問して調査を行った。(崇善、松原、富士見、花水、旭、神田の6地区で実施)          ≪主な調査項目≫          カラオケボックス：営業時間、条例に基づく措置、客席の状況          インターネットカフェ・まんが喫茶：条例に基づく措置、客席の状況          書店：有害図書類(本、雑誌等)、同(映像ソフト)</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>県と市町村が連携して次のとおり社会環境実態調査を実施した。          平成29年度は、コンビニエンスストア、インターネットカフェ・まんが喫茶、複合店等を対象に主に7月から9月までの間に青少年指導員が店舗を訪問して調査を行った。(崇善、港、豊田、勝原、山下の5地区で実施)          ≪主な調査項目≫          コンビニエンスストア：酒類・たばこ販売時の年齢確認、有害図書類(本・雑誌等)、同(映像ソフト)          インターネットカフェ・まんが喫茶：条例に基づく措置、客席の状況          複合店等：有害図書類(本、雑誌等)、同(映像ソフト)、Z区分ゲームソフト</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

4 (5) 2	違反屋外広告物除去事業	担当課	まちづくり政策課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
道路における違反屋外広告物 (風俗看板等) の掲示により、青少年の育成上に悪影響を与えることになるため、この問題を未然に防止することを目的とします。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回の除却キャンペーンの開催を継続して行います。</li> <li>・職員による巡回、地域のボランティアの協力等により除却活動を継続していきます。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外広告物適正化旬間において、平塚駅前周辺及び景観重点区域にて違反屋外広告物の除却活動を実施。(実施回数：4回、参加者：職員延べ8人)</li> <li>・違反屋外広告物の除却キャンペーンを開催。(実施回数：1回 参加者：ボランティア31人、事業者4人、警察署員2人、職員12人 除却枚数：82枚)</li> <li>・景観重点区域を中心に違反屋外広告物の除却活動を開催。(実施回数：2回 参加者：職員延べ4人 除却枚数：88枚)</li> <li>・その他、神奈川県警察と協力し、道路上に不法に占用された風俗店等の看板を指導した。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	青少年の育成上に悪影響を与える違反屋外広告物が、市内全域で減少している。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外広告物適正化旬間において、平塚駅前周辺及び景観重点区域にて違反屋外広告物の除却活動を実施。(実施回数：5回、参加者：職員延べ9人)</li> <li>・違反屋外広告物の除却キャンペーンを開催。(実施回数：1回 参加者：ボランティア28人、事業者5人、警察署員4人、職員9人 除却枚数：96枚)</li> <li>・景観重点区域で違反屋外広告物の除却活動を開催。(実施回数：2回 参加者：職員延べ4人 除却枚数：116枚)</li> <li>・その他、神奈川県警察と協力し、道路上に不法に占用された風俗店等の看板を指導した。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	青少年の育成上に悪影響を与える違反屋外広告物が市内全域で減少している。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・違反屋外広告物の除却キャンペーンを開催。(実施回数：1回 参加者：ボランティア26人、事業者4人、警察署員3人、職員13人 除却枚数：115枚)</li> <li>・景観重点区域内で職員による除却活動を実施(実施回数：1回 参加者：職員3人 除却枚数：45枚 ※ボランティアと職員により2回実施する予定であったが、荒天により中止となったため、後日職員のみで実施した。)</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	青少年の育成上に悪影響を与える違反屋外広告物が市内全域で減少している。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (1) ①1	妊婦健康診査	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>順調な妊娠経過を経て、母子ともに健全な出産を迎えることができるように妊婦健康診査の受診を促します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的を受診し、医師や助産師等のアドバイスを受けて、自分自身で健康管理に取り組むことができるよう受診勧奨を行います。</li> <li>受診状況〔母体の疾患、健康状態（血圧、血糖値、尿たんぱく等）、胎児の発育状況等〕の確認を行い、実態把握に努めます。</li> </ul>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子健康手帳交付時の面接で妊婦健診の必要性について伝えている。母子健康手帳の発行が極端に遅い、経済的な基盤が不安定など未受診となりそうな妊婦に対しては、出産まで継続的に連絡をとり受診勧奨をおこなったり、医療機関と連携して支援を続けている。</li> <li>妊婦健康診査第1回目受診率は、96.7%。</li> <li>健診受診後の経過の把握については、ハイリスク者（未受診、健診の回数が極端に少ない等）は医療機関及び関係機関と連携し対応している。出産後、乳児家庭全戸訪問時、妊娠中の経過及び受診状況について確認している。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子健康手帳交付時の面接で妊婦健診の必要性について伝えている。母子健康手帳の発行が極端に遅い、経済的な基盤が不安定など未受診となりそうな妊婦に対しては、出産まで継続的に連絡をとり受診勧奨をおこなったり、医療機関と連携して支援を続けている。</li> <li>妊婦健康診査第1回目受診率は96.5%。</li> <li>健診受診後の経過の把握については、ハイリスク者（未受診、健診の回数が極端に少ない等）は医療機関及び関係機関と連携し対応しているが、それ以外の妊婦については、医療機関との連携が取れていないため十分にできていない。出産後、乳児家庭全戸訪問時、妊娠中の経過及び受診状況について確認している。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子健康手帳交付時の面接で妊婦健診の必要性について伝えている。母子健康手帳の発行が極端に遅い、経済的な基盤が不安定など未受診となりそうな妊婦に対しては、出産まで継続的に連絡をとり受診勧奨をおこなったり、医療機関と連携して支援を続けている。</li> <li>妊婦健康診査第1回目受診率96.8%。</li> <li>健診受診後の経過の把握については、ハイリスク者（未受診、健診の回数が極端に少ない等）は医療機関及び関係機関と連携し対応しているが、それ以外の妊婦については、医療機関との連携が取れていないため十分にできていない。出産後、乳児家庭全戸訪問（こんにちは赤ちゃん訪問）時、妊娠中の経過及び受診状況について確認している。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (1) ①2	妊産婦の相談の充実	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>妊娠早期から産後までの心身の変化や不安等の相談に対応できるよう体制を整備します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子健康手帳交付状況の確認を行います。</li> <li>・母子健康手帳交付時の保健指導体制を整備します。</li> <li>・妊娠時期に合わせた健康管理に必要な情報提供と相談体制を整備します。</li> <li>・ハイリスク者に対する関係機関との連携強化を行います。</li> </ul>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実現するため、保健センター3階に「子育て世代包括支援センター ひらつかネウボラールーム はぐくみ」にて母子健康手帳交付。全妊婦に対して面接を行い、早期にリスクを把握、妊娠・出産・子育てに関する悩みの相談や情報提供、支援プランの作成、関係機関との連携により、必要な支援に繋げている。</li> <li>・妊娠11週以下での届出率 94.2%</li> <li>・妊娠中のフォロー件数192件 (妊娠届数の11.0%)</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実現するため、保健センター3階に設置している「子育て世代包括支援センター ひらつかネウボラールーム はぐくみ」にて母子健康手帳を交付している。全妊婦に対して面接を行い、早期にリスクを把握、妊娠・出産・子育てに関する悩みの相談や情報提供、支援プランの作成、関係機関との連携により、必要な支援に繋げている。</li> <li>・妊娠11週以下での届出率 92.2%</li> <li>・ハイリスク者を早期に把握し、支援する目的で妊娠届出書にアンケートを追加した。妊娠中のフォロー件数132件 (妊娠届数の8.0%)</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	産後ケアの支援の充実	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度より、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実現するため、保健センター3階に「子育て世代包括支援センター ひらつかネウボラールーム はぐくみ」を開設した。母子健康手帳交付窓口を1本化し、全妊婦に対して面接を行い、早期にリスクを把握、妊娠・出産・子育てに関する悩みの相談や情報提供、支援プランの作成、関係機関との連携により、必要な支援に繋げている。</li> <li>・妊娠11週以下での届出率 93.2%</li> <li>・ハイリスク者を早期に把握し、支援する目的で妊娠届出書にアンケートを追加した。妊娠中のフォロー件数 147件 (妊娠届数の8.7%)</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	産後ケアの支援の充実	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			



5 (1) ①3	妊産婦への教育の充実	担当課	健康課
<b>事業の概要 (計画掲載内容)</b> 順調な妊娠経過を経て、母子ともに健全な出産を迎えることができるように母自身の将来の生活習慣病予防に向けて、妊産婦への教育を行います。		<b>今後の取組み (計画掲載内容)</b> ・妊娠中からの健康管理の必要性及び生活習慣病につながるリスク対策 (合併症予防、適正体重管理、喫煙・飲酒の有無等) の教育を行います。 ・将来の生活習慣病の発症予防のための教育を行います。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子健康手帳交付 全員面接を実施し、妊娠の進み方の説明と合わせて、食事や生活面での指導を実施。特に喫煙やアルコール摂取など嗜好品については、胎児への影響を丁寧に説明している。</li> <li>・乳児家庭全戸訪問 健康課で作成した喫煙に関するチラシを配布し、母や家族の喫煙状況について聞き取り調査をしている。また、飲酒状況についても聞き取り調査をしている。 喫煙状況 母の喫煙率 4.67% 同居者の喫煙率：34.4%</li> <li>・母親父親教室 妊婦及び夫に対して妊娠経過を良好に保つための健康管理、生活習慣病予防をすることの必要性について情報提供を行っている。</li> <li>・祖父祖母教室 祖父祖母に対して、妊婦が妊娠中から生活習慣病予防を視野に入れた健康管理をしていく必要について、教室で講義を実施。</li> <li>・父親の育児参加の支援 母子健康手帳の交付時に、父子手帳の交付をしている。</li> </ul>	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子健康手帳交付 全員面接を実施し、妊娠の進み方の説明と合わせて、食事や生活面での指導を実施。特に喫煙やアルコール摂取など嗜好品については、胎児への影響を丁寧に説明している。</li> <li>・乳児家庭全戸訪問 健康課で作成した喫煙に関するチラシを配布し、母や家族の喫煙状況について聞き取り調査をしている。また、飲酒状況についても聞き取り調査をしている。 喫煙状況 母の喫煙率 2.8% 同居者の喫煙率：29.9%</li> <li>・母親父親教室 妊婦及び夫に対して妊娠経過を良好に保つための健康管理、生活習慣病予防をすることの必要性について情報提供をしている。</li> <li>・祖父祖母教室 祖父祖母に対して、妊婦が妊娠中から生活習慣病予防を視野に入れた健康管理をしていく必要について、教室で講義を実施。</li> <li>・父親の育児参加の支援 母子健康手帳の交付時に、父子手帳の交付をしている。父子手帳の中に父親の健康管理についても記載している。</li> </ul>	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子健康手帳交付 全員面接を実施し、妊娠の進み方の説明と合わせて、食事や生活面での指導を実施。特に喫煙やアルコール摂取など嗜好品については、胎児への影響を丁寧に説明している。</li> <li>・乳児家庭全戸訪問 健康課で作成した喫煙に関するチラシを配布し、母や家族の喫煙状況について聞き取り調査をしている。また、飲酒状況についても聞き取り調査をしている。 喫煙状況 母の喫煙率 3.4% 同居者の喫煙率：31.6%</li> <li>・母親父親教室 妊婦及び夫に対して妊娠経過を良好に保つための健康管理、生活習慣病予防をすることの必要性について情報提供をしている。</li> <li>・祖父祖母教室 祖父祖母に対して、妊婦が妊娠中から生活習慣病予防を視野に入れた健康管理をしていく必要について、教室で講義を実施。</li> <li>・父親の育児参加の支援 母子健康手帳の交付時に、父子手帳の交付をしている。父子手帳の中に父親の健康管理についても記載している。</li> </ul>	検証結果	B：おおむね成果があがった
	今後の課題	科学的根拠を入れ込み、将来の生活習慣病につながるリスクについて、丁寧に指導していきたいが、面接時間にも限りがあり、今以上に指導時間を増やすことができない。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 限られた時間内で内容を充実させるため、指導方法を工夫していきたい。	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (1) ②1	乳幼児健康診査	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
乳幼児の健康状態の確認及び心身の問題の早期発見・早期治療や支援を目的に健康診査を実施します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査受診率の向上に努めます。</li> <li>未受診者への受診勧奨を行います。</li> <li>関係機関と連携し、未受診者等の状況把握の体制を強化します。</li> </ul>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査 対象者 受診者数 受診率</li> <li>4か月児健診 1601人 1494人 93.3%</li> <li>8-10か月児健診 1636人 1435人 87.7%</li> <li>1歳6か月児健診 1646人 1562人 94.9%</li> <li>2歳児歯科健診 1820人 891人 49.0%</li> <li>3歳児健診 1842人 1725人 93.6%</li> <li>乳幼児ケア 12回 58人</li> <li>健診事後フォロー教室 回数 参加者数</li> <li>親子教室 (1歳6か月児健診後) 51回 1082人 (たまご教室21回・455人、びよびよ教室22回・503人、ころころ教室8回・124人)</li> <li>幼児教室 (3歳児健診後) 13回 260人 (なかよし教室13回・260人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外遊び2時間以上の児の割合 (休日)</li> <li>1歳6か月児健診 34.3%、3歳児健診 42.3%</li> <li>22時までに就寝している児の割合</li> <li>1歳6か月児健診 95.5%、3歳児健診 90.1%</li> <li>むし歯のない3歳児の割合 3歳児健診 88.7%</li> </ul>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査 対象者 受診者数 受診率</li> <li>4か月児健診 1656人 1579人 95.4%</li> <li>8-10か月児健診 1732人 1636人 94.5%</li> <li>1歳6か月児健診 1808人 1726人 95.5%</li> <li>2歳児歯科健診 1848人 952人 51.5%</li> <li>3歳児健診 1938人 1838人 94.8%</li> <li>乳幼児ケア 12回 74人</li> <li>健診事後フォロー教室 回数 参加者数</li> <li>親子教室 (1歳6か月児健診後) 48回 1043人 (たまご 24回 551人、びよびよ 24回 492人)</li> <li>幼児教室 (3歳児健診後) 24回 402人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外遊び2時間以上の児の割合 (休日)</li> <li>1歳6か月児健診 34.5%、3歳児健診 43.0%</li> <li>22時までに就寝している児の割合</li> <li>1歳6か月児健診 90.2%、3歳児健診 89.7%</li> <li>3歳児健診 85.5%</li> <li>むし歯のない3歳児の割合</li> </ul>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査 対象者 受診者数 受診率</li> <li>4か月児健診 1749人 1663人 95.1%</li> <li>8-10か月児健診 1749人 1675人 95.8%</li> <li>1歳6か月児健診 1859人 1774人 95.4%</li> <li>2歳児歯科健診 1899人 957人 50.4%</li> <li>3歳児健診 1908人 1798人 94.2%</li> <li>乳幼児ケア 12回 63人</li> <li>健診事後フォロー教室 回数 参加者数</li> <li>親子教室 (1歳6か月児健診後) 36回 1241人</li> <li>幼児教室 (3歳児健診後) 22回 426人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外遊び2時間以上の児の割合 (休日)</li> <li>1歳6か月児健診 33.7%、3歳児健診 41.8%</li> <li>22時までに就寝している児の割合</li> <li>1歳6か月児健診 91.7%、3歳児健診 92.1%</li> <li>3歳児健診 86.7%</li> <li>むし歯のない3歳児の割合</li> </ul>	
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (1) ②2	乳幼児期の相談の充実	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
未就学児を対象として、保護者の育児不安等の対応と、子どもにとって望ましい生活習慣の確立ができるように育児相談を充実させます。		乳児期において望ましい生活習慣の確立ができるように乳児期の相談を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7か月児相談を毎月2回実施、年23回実施、来所者数850人</li> <li>・育児相談を毎月3回実施 35回実施 来所者数1382人</li> <li>・離乳食教室を実施した</li> <li>・むし歯予防に関する情報提供を歯みがき教室や萌出期歯科保健事業巡回教室で実施。 歯みがき教室は17回、永久歯萌出期歯科保健事業巡回教室は19園で実施</li> <li>・低出生体重児の集い(おひさまくらぶ) 5回 参加人数60人(児30人、保護者等30人) 小さく生まれたお子さんとその保護者を対象に親子遊び、保護者への情報提供、親同士の交流を主に実施している。参加者の満足度は高く、毎回情報交換や仲間づくりをする場を設けている。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続 育児相談については、来所者数に合わせて、実施回数を月3回から月2回へ見直す。	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7か月児相談を毎月2回実施、年24回実施、来所者数858人</li> <li>・育児相談を毎月3回実施 36回実施 来所者数1604人</li> <li>・離乳食教室を実施した</li> <li>・むし歯予防に関する情報提供を歯みがき教室や萌出期歯科保健事業巡回教室で実施。 歯みがき教室は20回、永久歯萌出期歯科保健事業巡回教室は43園で実施</li> <li>・低出生体重児の集い(おひさまくらぶ) 6回 参加人数73人(児36人、保護者等37人) 小さく生まれたお子さんとその保護者を対象に親子遊び、保護者への情報提供、親同士の交流を主に実施している。参加者の満足度は高く、毎回情報交換や仲間づくりをする場を設けている。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7か月児相談を毎月3回実施 計36回実施 来所者数903人</li> <li>・育児相談を毎月3回実施 計36回実施 来所者数1,750人</li> <li>・離乳食教室、はみがき教室を開催した。</li> <li>・低出生体重児の集い(おひさまくらぶ) 6回 参加人数117人(児59人、保護者等58人)</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 7か月児相談については、来所者数に合わせて、実施回数を月3回から月2回へ見直す。	
備考 (その他)			

5 (1) ②3	訪問事業	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
乳幼児を持つ家庭に対する訪問を通し、育児不安への対応や、精神的な不安定さを抱える母親への支援を実施します。		こんにちは赤ちゃん訪問の実施率の向上を目指していきます。 (参考値：平成25年度実績93.7%)	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>乳児家庭全戸訪問 訪問率95.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児家庭全戸訪問にて児の発育状況や母の育児不安等へ対応し、必要な方にはその後の健診や継続訪問等でも継続支援をしている。</li> </ul> <p>未熟児訪問 訪問率 91.8%、(平成30年12月～令和2年11月生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2500g以上で生まれた児に比べて、低出生体重児の育児は、育てにくく、また親の育児不安も大きいため今後も丁寧な関わりを継続し育児を支援していく。</li> <li>・小さく生まれた児の育児のしおりを育児の特徴を伝えるツールとして配布している。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>乳児家庭全戸訪問 訪問率96.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児家庭全戸訪問にて児の発育状況や母の育児不安等へ対応し、必要な方にはその後の健診や継続訪問等でも継続支援をしている。</li> </ul> <p>未熟児訪問 訪問率 95.8%、(平成29年12月～平成30年11月生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2500g以上で生まれた児に比べて、低出生体重児の育児は、育てにくく、また親の育児不安も大きいため今後も丁寧な関わりを継続し育児を支援していく。</li> <li>・小さく生まれた児の育児のしおりを作成し、育児の特徴を伝えるツールとする。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>乳児家庭全戸訪問 訪問率95.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児家庭全戸訪問にて児の発育状況や母の育児不安等へ対応し、必要な方にはその後の健診や継続訪問等でも継続支援をしている。</li> </ul> <p>未熟児訪問 訪問率78.6%、随時訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2500g以上で生まれた児に比べて、低出生体重児の育児は、育てにくく、また親の育児不安も大きいため今後も丁寧な関わりを継続し育児を支援していく。</li> <li>・小さく生まれた児の育児のしおりを作成し、育児の特徴を伝えるツールとする。</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (1) ②4	学習の場の提供	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>幼児健診等で年齢に合わせた生活習慣に関する学習機会を提供し、親の育児に関する知識を豊かにすることで子どもの健やかな成長を支えます。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児健診や幼稚園・保育所における巡回教室等で生活習慣(生活リズム、外あそび、食事、睡眠、歯の健康等)に関する情報について、学習の機会を提供します。</li> <li>・小さく生まれたお子さんのための育児教室を開催します。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣に関するの情報提供を保健センターで実施している集団健診、子どもの生活習慣病予防対策事業巡回教室において実施。</li> <li>巡回教室 40回 39園、参加人数 1853人 幼児集団健診 生活習慣に関する情報提供として健診におけるポスター掲示及びパンフレットの自由配布</li> <li>・むし歯予防に関する情報提供を歯みがき教室や萌出期歯科保健事業巡回教室で実施。 歯みがき教室は年17回、永久歯萌出期歯科保健事業巡回教室19園で実施</li> <li>・低出生体重児の集い(おひさまくらぶ) 5回 参加人数 60人(児 30人、保護者等 30人)</li> </ul> <p>低出生体重児の育児について保健師、管理栄養士、保育士、理学療法士、心理相談員が参加し母親の不安解消、知識の普及を行った。</p>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣に関するの情報提供を保健センターで実施している幼児集団健診と子どもの生活習慣病予防対策事業巡回教室において実施。</li> <li>巡回教室 42回 40園、参加人数 1748人 幼児集団健診 生活習慣に関する情報提供として健診におけるポスター掲示及びパンフレットの自由配布</li> <li>・むし歯予防に関する情報提供を歯みがき教室や萌出期歯科保健事業巡回教室で実施。 歯みがき教室は年20回、永久歯萌出期歯科保健事業巡回教室43園で実施</li> <li>・低出生体重児の集い(おひさまくらぶ) 6回 参加人数 73人(児 36人、保護者等 37人)</li> </ul> <p>低出生体重児の育児について保健師、保育士、理学療法士、心理相談員が参加し母親の不安解消、知識の普及を行った。</p>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣に関するの情報提供を保健センターで実施している幼児集団健診と子どもの生活習慣病予防対策事業巡回教室において実施。</li> <li>巡回教室 42回 40園、参加人数 2,002人 幼児集団健診 生活習慣に関する情報提供として健診におけるポスター掲示及びパンフレットの自由配布</li> <li>・むし歯予防に関する情報提供を歯みがき教室や萌出期歯科保健事業巡回教室で実施。 歯みがき教室は20回、永久歯萌出期歯科保健事業巡回教室は41園で実施</li> <li>・低出生体重児の集い(おひさまくらぶ) 6回 参加人数117人(児59人、保護者等58人)</li> </ul> <p>低出生体重児の育児について保健師、保育士、理学療法士、心理相談員が参加し母親の不安解消、知識の普及を行った。</p>		
	検証結果	B: おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (1) ②5	感染症対策の推進	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>伝染の恐れがある疾病の発生及びまん延を予防するために予防接種を実施します。</p>		<p>定期予防接種の重要性について、ホームページ、広報紙、個別通知等、各種事業で周知します。</p>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児医療証の手続き時に予防接種の受け方や重要性が記載された「予防接種インフォメーション」と「予防接種とこどもの健康」を配布。</li> <li>・乳児家庭全戸訪問等で、再度保護者に定期予防接種の重要性・進め方について説明している。</li> <li>・幼児健診 (1歳6か月児健診・3歳児健診) で予防接種歴を確認し、必要時には保護者に予防接種の重要性について説明している。</li> <li>・個別通知・広報・ホームページ、幼稚園、保育園、学校を經由して接種勧奨するチラシを配布している。</li> <li>・新型コロナウイルスに関連した肺炎患者の発生について、ホームページ・ホットメールで注意喚起を行った。</li> </ul>		
		A : 成果があがった	
	今後の課題	<p>新型コロナウイルスが世界で拡大し、WHOは公衆衛生上の緊急事態を令和2年1月30日に宣言。日本国内でも令和2年1月16日に初めて患者が報告され、令和2年2月1日指定感染症に指定された。新型コロナウイルス感染拡大防止のための市の体制を整備していく必要がある。</p>	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>②拡大して継続 今後の課題のとおり</p>	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児医療証の手続き時に予防接種の受け方や重要性が記載された「予防接種インフォメーション」と「予防接種とこどもの健康」を配布。</li> <li>・乳児家庭全戸訪問等で、再度保護者に定期予防接種の重要性・進め方について説明している。</li> <li>・幼児健診 (1歳6か月児健診・3歳児健診) で予防接種歴を確認し、必要時には保護者に予防接種の重要性について説明している。</li> <li>・個別通知・広報・ホームページ、幼稚園、保育園、学校を經由して接種勧奨するチラシを配布している。</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	<p>① 現状の規模で継続</p>	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児医療証の手続き時に予防接種の受け方や重要性が記載された「予防接種インフォメーション」と「予防接種とこどもの健康」を配布。</li> <li>・乳児家庭全戸訪問等で、再度保護者に定期予防接種の重要性・進め方について説明している。</li> <li>・幼児健診 (1歳6か月児健診・3歳児健診) で予防接種歴を確認し、必要時には保護者に予防接種の重要性について説明している。</li> <li>・個別通知・広報・ホームページ、幼稚園、保育園、学校を經由して接種勧奨するチラシを配布している。</li> </ul>		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	<p>① 現状の規模で継続</p>	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (1) ②6	5 歳児健康診査	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>発達に課題を持つ子どもたちが支援を受けずに就学・就職して、困難な状況に陥りがちなことから、市内の5歳児を対象に、スクリーニング調査により健康診査を実施し、要支援という結果が出た子どもに対し、必要な支援を行っていきます。</p>		<p>対象を全市に拡大し、必要な支援を継続します。</p>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>調査票配布協力園：74園(市外15園)          調査票配布数：1,818人          調査票回答者：1,675人(92.1%)          要支援者：289人、要支援率：17.3%          要支援者在籍園への訪問療育相談と巡回相談          令和元年度対象：56園(実施54園)          平成30年度対象へのフォロー：48園          市外在住で市内の幼稚園、保育所等に在園している児も対象として実施した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	健診後に就学移行支援へつなげていく。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>調査票配布協力園：75園(市外14園)          調査票配布数：1,826人          調査票回答者：1,621人(88.8%)          要支援者：268人、要支援率：16.5%          要支援者在籍園への訪問療育相談と巡回相談          平成30年度対象：58園(実施56園)          平成29年度対象へのフォロー：32園          子ども・子育て支援新制度が施行されたことなどから、市外在住で市内の幼稚園、保育所等に在園している児も対象として拡大して実施した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	健診後に就学移行支援へつなげていく。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成29年度	<p>調査票配布協力園：73園(市外12園)          調査票配布数：1,734人          調査票回答者：1,553人(89.6%)          要支援者：230人、要支援率：14.8%          要支援者在籍園への訪問療育相談と巡回相談          平成29年度対象：51園          平成28年度対象へのフォロー：31園          子ども・子育て支援新制度が施行されたことなどから、市外在住で市内の幼稚園、保育所等に在園している児も対象として拡大して実施した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	健診後に就学移行支援へつなげていく。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (1) ②7	保育所における食育の推進	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
乳幼児期から、正しい食事のとり方や望ましい食習慣の定着、食を通じた豊かな人間性の形成、家族関係づくりによる心身の健全育成を図ります。		クッキング保育やバイキング給食、ボードを使用しての食品構成あそび等を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキング保育、バイキング給食の実施</li> <li>・エプロンシアターやボードを使用しての食品構成あそびの実施</li> <li>・給食試食会の実施</li> <li>・献立表、給食だよりの配布</li> <li>・野菜などの栽培・収穫</li> <li>・食育年間計画の運用</li> </ul> 実施園：42園		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキング保育、バイキング給食の実施</li> <li>・エプロンシアターやボードを使用しての食品構成あそびの実施</li> <li>・給食試食会の実施</li> <li>・献立表、給食だよりの配布</li> <li>・野菜などの栽培・収穫</li> <li>・食育年間計画の運用</li> </ul> 実施園：42園		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキング保育、バイキング給食の実施</li> <li>・エプロンシアターやボードを使用しての食品構成あそびの実施</li> <li>・給食試食会の実施</li> <li>・献立表、給食だよりの配布</li> <li>・野菜などの栽培・収穫</li> <li>・食育年間計画の運用</li> </ul> 実施園：42園		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			



5 (2) ①1	教育の充実 1	担当課	学務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体格の実態を把握します。</li> <li>・ 生活習慣病予防や歯の健康に関する知識の普及に努めます。</li> <li>① 小学校 4～6 年生の体格調査と健康教育の実施</li> <li>② 学校歯科巡回指導の実施</li> </ul>		引続き事業を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>肥満度30%以上の小学校4～6年生230人に医療機関の受診をすすめた。また、小学校4年生を対象に児童健康教室を開催し、児童13人とその保護者へ運動教室、栄養相談、医師面談を実施した。</p> <p>小学校全28校で歯科巡回指導を実施した。</p> <p>2計測結果 (身長・体重) ・視力検査結果・歯科検診結果をとりまとめ、保健統計を作成した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<p>肥満度30%以上の小学校4～6年生236人に医療機関の受診をすすめた。また、小学校4年生を対象に児童健康教室を開催し、児童20人とその保護者へ運動教室、栄養相談、医師面談を実施した。</p> <p>小学校全28校で歯科巡回指導を実施した。</p> <p>2計測結果 (身長・体重) ・視力検査結果・歯科検診結果をとりまとめ、保健統計を作成した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	児童健康教室への参加率を高める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>肥満度30%以上の小学校4～6年生229人に医療機関の受診をすすめた。また、小学校4年生を対象に児童健康教室を開催し、児童15人とその保護者へ運動教室、栄養相談、医師面談を実施した。</p> <p>小学校全28校で歯科巡回指導を実施した。</p> <p>2計測結果 (身長・体重) ・視力検査結果・歯科検診結果をとりまとめ、保健統計を作成した。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	児童健康教室への参加率を高める必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (2) ①2	教育の充実2	担当課	教育指導課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病予防に関する実態の把握をします。</li> <li>生活習慣病予防に関する健康教育を実施します。</li> <li>①朝食を欠食する子どもの割合の減少</li> <li>②睡眠が6時間未満の子どもの割合の減少</li> <li>③運動・スポーツを週3回以上する子どもの割合の増加</li> </ul>		生涯を通して健康・安全で活力ある生活を送るために、また、運動に親しむ資質や能力を育てるために、学校教育全体を通して健康に関する教育を推進していきます。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「平成31年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」にて、神奈川県及び平塚市の児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握した。</li> <li>各小中学校の体育及び保健体育の授業を通じて、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を図り、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上をめざした教育実践を行った。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「平成30年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」にて、神奈川県及び平塚市の児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握した。</li> <li>各小中学校の体育及び保健体育の授業を通じて、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を図り、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上をめざした教育実践を行った。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「平成29年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」にて、神奈川県及び平塚市の児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握した。</li> <li>各小中学校の体育及び保健体育の授業を通じて、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を図り、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上をめざした教育実践を行った。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (2) ①3	学校保健の充実	担当課	学務課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>心電図検査、心臓疾患第2次検査、腎臓疾患(尿)検査、同2次検査、同3次精密検査、寄生虫卵(ぎょう虫卵)検査、結核健康診断、胸部レントゲン直接撮影、結核健康診断精密検査、小学校歯科巡回指導を実施します。</li> <li>各学校(園)健康診断(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を実施します。</li> </ul>		引続き事業を継続します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	心電図検査(5月実施、小学校1年生及び中学校1年生対象) 心臓疾患2次検査(6月実施、心電図検査及び各学校の内科健診の結果、必要性が認められた児童生徒のみ) 腎臓疾患(尿)検査(9月実施)、同2次検査(9月実施)、同3次精密検査(10月実施) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影(7月実施、問診票調査の結果、必要性が認められた児童生徒のみ) 結核健康診断・・・精密検査(8~9月実施、胸部レントゲン直接撮影の結果、必要性が認められた児童生徒のみ) 小学校歯科巡回指導(5~7月、9月~12月) 上記検査のほか、各学校(園)で健康診断(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を実施した。 ※寄生虫卵(ぎょう虫卵)検査については、平成28年度から廃止		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	心電図検査(5月実施、小学校1年生及び中学校1年生対象) 心臓疾患2次検査(6月実施、心電図検査及び各学校の内科健診の結果、必要性が認められた児童生徒のみ) 腎臓疾患(尿)検査(9月実施)、同2次検査(9月実施)、同3次精密検査(10月実施) 結核健康診断・・・精密検査(8月実施、胸部レントゲン直接撮影の結果、必要性が認められた児童生徒のみ) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影(7月実施、問診票調査の結果、必要性が認められた児童生徒のみ) 小学校歯科巡回指導(5~7月、9月~12月) 上記検査のほか、各学校(園)で健康診断(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を実施した。 ※寄生虫卵(ぎょう虫卵)検査については、平成28年度から廃止		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	学校保健安全法施行規則の改正により平成28年4月から運動器健診が導入されたが、学校ごとに検診内容に差異が生じることのないよう検診方法の周知・徹底を図る必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	心電図検査(5月実施、小学校1年生及び中学校1年生対象) 心臓疾患2次検査(6月実施、心電図検査及び各学校の内科健診の結果、必要性が認められた児童生徒のみ) 腎臓疾患(尿)検査(9月実施)、同2次検査(9月実施)、同3次精密検査(10月実施) 結核健康診断・・・胸部レントゲン直接撮影(7月実施、問診票調査の結果、必要性が認められた児童生徒のみ) 小学校歯科巡回指導(5~7月、9月~12月) 上記検査のほか、各学校(園)で健康診断(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を実施した。 ※寄生虫卵(ぎょう虫卵)検査については、平成28年度から廃止 ※結核健康診断精密検査については、対象者なし		
	検証結果	A: 成果があがった	
	今後の課題	学校保健安全法施行規則の改正により平成28年4月から運動器健診が導入されたが、学校ごとに検診内容に差異が生じることのないよう検診方法の周知・徹底を図る必要がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考(その他)			

5 (2) ①4	スクールカウンセラー派遣事業 (3 (2) 2再掲)	担当課	子ども教育相談センター
----------	-------------------------------	-----	-------------

事業の概要 (計画掲載内容)	今後の取組み (計画掲載内容)
児童・生徒の様々な問題を解決するために本人や保護者のカウンセリングと教職員を支援するスクールカウンセラーを小・中学校に派遣します。	スクールカウンセラーを年間15人派遣し、全小・中学校に配置していきます。その後は勤務日の増加を目指します。

**各年度における主な取組み等**

令和元年度	13人 (週3日勤務) による市内小学校28校、中学校13校での相談活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室巡回2223回、教室等でのエクササイズ4回、外部関係者・機関との情報交換168回、教職員向け研修会9回、保護者・地域向け講演会0回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席78回、校内支援会議への参加217回、家庭訪問42回、その他36回 計2777回</li> <li>・来室相談延べ人数：小学生1440人、中学生772人、小学生保護者1313人、中学生保護者459人、小学校教員3131人、中学校教員1457人 計8572人</li> <li>・来室相談内容延べ人数：不登校2256人、いじめ92人、暴力143人、虐待89人、友人・異性関係891人、貧困14人、非行74人、家庭環境803人、教職員との関係168人、心身の健康・保健1008人、学業進路626人、発達1934人、その他474人 計8572人</li> <li>・電話相談延べ人数：小学生12人、中学生60人、小学生保護者248人、中学生保護者93人、小学校教員33人、中学校教員5人 計451人</li> <li>・電話相談内容延べ人数：不登校167人、いじめ3人、暴力0人、虐待0人、友人・異性関係18人、貧困0人、非行0人、家庭環境33人、教職員との関係8人、心身の健康・保健47人、学業進路21人、発達74人、その他80人 計451人</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	スクールカウンセラーを増員し、県のスクールカウンセラーと合わせて全中学校に週2回配置し、児童・生徒、保護者に対し教育相談の充実を図る必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続 スクールカウンセラーを小学校へ週1回、中学校へ県のスクールカウンセラーと合わせて週2回配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。
平成30年度	13人 (週3日勤務) による市内小学校28校、中学校15校での相談活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室巡回2388回、教室等でのエクササイズ4回、外部関係者・機関との情報交換202回、教職員向け研修会12回、保護者・地域向け講演会4回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席81回、校内支援会議への参加253回、家庭訪問106回、その他91回 計3141回</li> <li>・来室相談延べ人数：小学生1605人、中学生862人、小学生保護者1368人、中学生保護者360人、小学校教員3062人、中学校教員1484人 計8741人</li> <li>・来室相談内容延べ人数：不登校2547人、いじめ89人、暴力163人、虐待96人、友人・異性関係1043人、貧困5人、非行54人、家庭環境609人、教職員との関係285人、心身の健康・保健677人、学業進路447人、発達2267人、その他459人 計8741人</li> <li>・電話相談延べ人数：小学生18人、中学生73人、小学生保護者233人、中学生保護者142人、小学校教員20人、中学校教員29人 計515人</li> <li>・電話相談内容延べ人数：不登校273人、いじめ1人、暴力0人、虐待0人、友人・異性関係18人、貧困0人、非行14人、家庭環境12人、教職員との関係21人、心身の健康・保健23人、学業進路21人、発達95人、その他37人 計515人</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	スクールカウンセラーを増員し、県のスクールカウンセラーと合わせて全中学校に週2回配置し、児童・生徒、保護者に対し教育相談の充実を図る必要がある。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 スクールカウンセラーを小学校へ週1回、中学校へ県のスクールカウンセラーと合わせて週2回配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。
平成29年度	13人 (週3日勤務) による市内小学校28校、中学校11校での相談活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室巡回2,432回、外部関係者・機関との情報交換148回、教職員向け研修会6回、保護者・地域向け講演会4回、児童・生徒担当者会・スクールカウンセラー連絡会等出席107回、校内支援会議への参加217回、家庭訪問134回、その他40回 計3,088回</li> <li>・来室相談延べ人数：小学生1,802人、中学生852人、小学生保護者1,207人、中学生保護者275人、小学校教員3,122人、中学校教員1,265人 計8,523人</li> <li>・来室相談内容延べ人数：長期欠席2,160人、いじめ46人、暴力行為264人、児童虐待47人、友人・異性954人、非行・不良行為100人、親子関係566人、教職員との関係275人、心身の健康・保健661人、自己性格874人、学習進路510人、発達1,570人、その他465人、被災関係31人</li> <li>・電話相談延べ人数：小学生8人、中学生3人、小学生保護者184人、中学生保護者101人、小学校教員3人、中学校教員7人 計306人</li> <li>・電話相談内容延べ人数：長期欠席111人、いじめ0人、暴力行為0人、児童虐待1人、友人・異性8人、非行・不良行為7人、親子関係30人、教職員との関係2人、心身の健康・保健27人、自己性格48人、学習進路10人、発達37人、その他24人、被災関係1人</li> </ul>	
	検証結果	A：成果があがった
	今後の課題	市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができた。残り4校の配置ができる、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができる。その後、保護者や学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となる。
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 スクールカウンセラーを全小中学校に配置し、その後は勤務日の増加を目指すため。

<b>備考 (その他)</b>	

5 (2) ②1	思春期の教育の充実	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
母性・父性を養い、将来に向けた健全な身体づくりに関する教育を実施します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来に向けた身体づくりや性に関する知識の普及に努めます。</li> <li>・思春期対策連絡会の実施等で関係機関との連携を図ります。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>◆学校での思春期教育 令和元年度は、高校1校、養護学校1校、中学校4校で実施。 ①県立平塚江南高校 3年生 (324人) 内容：思春期の身体の特徴、妊娠の仕組み、性感染症や命の大切さに関する講義を、助産師がパワーポイントを用いて実施。 ②平塚養護学校 高等部2年生 (34人) 内容：講義や実習を通し、生命の尊さ、かけがえのなさを理解する。 ③大洋中学校 1年生 (109人) ④春日野中学校 3年生 (116人) ⑤金目中学校 3年生 (115人) ⑥大野中学校 3年生 (191人) 内容：妊娠の仕組み、命のつながり、望まない妊娠について講義と妊婦シュミレーターの装着や赤ちゃん人形の抱っこ、性感染症ゲームの実施。 ◆思春期連絡会 新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	市内中学・高校からの依頼数は前年と変わらず。毎年2～3月に依頼が集中している。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>◆学校での思春期教育 平成30年度は、高校1校、養護学校1校、中学校6校で実施。 ①県立平塚江南高校 3年生 (320人) 内容：思春期の身体の特徴、妊娠の仕組み、性感染症や命の大切さに関する講義を、助産師がパワーポイントを用いて実施。 ②平塚養護学校 高等部2年生 (37人) 内容：講義や実習を通し、生命の尊さ、かけがえのなさを理解する。 ③大洋中学校 1年生 (126人)、④春日野中学校 3年生 (129人)、⑤大野中学校 3年生 (196人) ⑥土沢中学校 3年生 (76人)、⑦中原中学校 3年生 (191人)、⑧江陽中学校 3年生 (204人) 内容：妊娠の仕組み、命のつながり、望まない妊娠について講義と妊婦シュミレーターの装着や赤ちゃん人形の抱っこ、性感染症ゲームの実施。 ◆思春期連絡会 1回 (平成31年3月実施)</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	市内中学校からの思春期教育の依頼増加に対応しているが、2～3月の時期に集中している所以对応が難しい時がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>◆学校での思春期教育 平成29年度は、高校2校、養護学校1校、中学校6校で実施。 ①県立平塚農業高校 1年生 (196人) ②県立平塚江南高校 3年生 (320人) 内容：思春期の身体の特徴、妊娠の仕組み、性感染症や命の大切さに関する講義を、助産師がパワーポイントを用いて実施。 ③平塚養護学校 高等部3年生 (32人) 内容：講義や実習を通し、生命の尊さ、かけがえのなさを理解する。 ④大洋中学校 1年生 (113人)、⑤神明中学校 3年生 (153人)、⑥金旭中学校 3年生 (225人)、 ⑦土沢中学校 3年生 (40人)、⑧中原中学校 3年生 (180人)、⑨大野中学校 3年生 (230人) 内容：妊娠の仕組み、命のつながり、望まない妊娠について講義と、妊婦シュミレーターの装着や赤ちゃん人形の抱っこ、性感染症ゲームの実施。 ◆思春期連絡会 1回</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	市内中学校からの思春期教育の依頼増加に対応しているが、2～3月の時期に集中している所以对応が難しい時がある。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (2) ②2	こころと命のサポート事業 (1 (4) 8再掲)	担当課	福祉総務課																																																						
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)																																																							
地域において実施しているおはなし会や読み聞かせ、読み語り等の中で、「命の大切さ、尊さ」をテーマに取り上げてもらうことで、命の大切さ、尊さを普及・啓発し、自殺対策を推進します。		地域で活動している団体等に、本事業についての理解を深めてもらい、おはなし会、読み聞かせ、読み語りの中で「いのちの尊さをつたえる本」等のリストを活用してもらうように働きかけを行い、命の大切さ、尊さの普及啓発を推進します。																																																							
<b>各年度における主な取組み等</b>																																																									
令和元年度	<p>「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>①花水小学校</td><td>255回延べ8,766人</td> <td>②平塚工科高等学校</td><td>2回延べ43人</td> <td>③花水公民館</td><td>17回延べ179人</td> </tr> <tr> <td>④花水さくら保育園</td><td>54回延べ1,466人</td> <td>⑤黒部丘幼稚園</td><td>43回延べ940人</td> <td>⑥なでしこ小学校</td><td>126回延べ3,890人</td> </tr> <tr> <td>⑦しらさぎ保育園</td><td>3回延べ15人</td> <td>⑧相模小学校</td><td>1回364人</td> <td>⑨江陽中学校</td><td>2回延べ784人</td> </tr> <tr> <td>⑩南原小学校</td><td>1回242人</td> <td>⑪大原小学校</td><td>1回40人</td> <td>⑫南原保育園</td><td>3回延べ59人</td> </tr> <tr> <td>⑬富士見公民館</td><td>2回延べ52人</td> <td>⑭吉沢保育園</td><td>4回延べ70人</td> <td>⑮大住中学校</td><td>1回50人</td> </tr> <tr> <td>⑯港こども園</td><td>4回延べ80人</td> <td>⑰夕陽ヶ丘保育園</td><td>3回延べ27人</td> <td>⑱港小学校</td><td>1回20人</td> </tr> </table> <p>合計 8地区 実施回数523回 延べ17,087人</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td>現在、すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく必要がある。</td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			①花水小学校	255回延べ8,766人	②平塚工科高等学校	2回延べ43人	③花水公民館	17回延べ179人	④花水さくら保育園	54回延べ1,466人	⑤黒部丘幼稚園	43回延べ940人	⑥なでしこ小学校	126回延べ3,890人	⑦しらさぎ保育園	3回延べ15人	⑧相模小学校	1回364人	⑨江陽中学校	2回延べ784人	⑩南原小学校	1回242人	⑪大原小学校	1回40人	⑫南原保育園	3回延べ59人	⑬富士見公民館	2回延べ52人	⑭吉沢保育園	4回延べ70人	⑮大住中学校	1回50人	⑯港こども園	4回延べ80人	⑰夕陽ヶ丘保育園	3回延べ27人	⑱港小学校	1回20人	検証結果	A：成果があがった	今後の課題	現在、すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく必要がある。	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続												
①花水小学校	255回延べ8,766人	②平塚工科高等学校	2回延べ43人	③花水公民館	17回延べ179人																																																				
④花水さくら保育園	54回延べ1,466人	⑤黒部丘幼稚園	43回延べ940人	⑥なでしこ小学校	126回延べ3,890人																																																				
⑦しらさぎ保育園	3回延べ15人	⑧相模小学校	1回364人	⑨江陽中学校	2回延べ784人																																																				
⑩南原小学校	1回242人	⑪大原小学校	1回40人	⑫南原保育園	3回延べ59人																																																				
⑬富士見公民館	2回延べ52人	⑭吉沢保育園	4回延べ70人	⑮大住中学校	1回50人																																																				
⑯港こども園	4回延べ80人	⑰夕陽ヶ丘保育園	3回延べ27人	⑱港小学校	1回20人																																																				
検証結果	A：成果があがった																																																								
今後の課題	現在、すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく必要がある。																																																								
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続																																																								
平成30年度	<p>「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>①花水小学校</td><td>284回延べ9,167人</td> <td>②平塚工科高等学校</td><td>2回43人</td> </tr> <tr> <td>③花水公民館</td><td>20回延べ348人</td> <td>④花水台保育園</td><td>184回延べ3,724人</td> </tr> <tr> <td>⑤黒部丘幼稚園</td><td>64回延べ1,012人</td> <td>⑥なでしこ小学校</td><td>124回延べ4,000人</td> </tr> <tr> <td>⑦港小学校</td><td>1回20人</td> <td>⑧八幡山洋館</td><td>2回15人</td> </tr> <tr> <td>⑨江陽中学校</td><td>2回延べ578人</td> <td>⑩中原中学校</td><td>6回延べ200人</td> </tr> <tr> <td>⑪大原小学校</td><td>3回延べ101人</td> <td>⑫横内中学校</td><td>1回61人</td> </tr> </table> <p>合計 7地区 実施回数693回 延べ19,269人</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td>現在、すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく必要がある。</td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			①花水小学校	284回延べ9,167人	②平塚工科高等学校	2回43人	③花水公民館	20回延べ348人	④花水台保育園	184回延べ3,724人	⑤黒部丘幼稚園	64回延べ1,012人	⑥なでしこ小学校	124回延べ4,000人	⑦港小学校	1回20人	⑧八幡山洋館	2回15人	⑨江陽中学校	2回延べ578人	⑩中原中学校	6回延べ200人	⑪大原小学校	3回延べ101人	⑫横内中学校	1回61人	検証結果	A：成果があがった	今後の課題	現在、すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく必要がある。	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続																								
①花水小学校	284回延べ9,167人	②平塚工科高等学校	2回43人																																																						
③花水公民館	20回延べ348人	④花水台保育園	184回延べ3,724人																																																						
⑤黒部丘幼稚園	64回延べ1,012人	⑥なでしこ小学校	124回延べ4,000人																																																						
⑦港小学校	1回20人	⑧八幡山洋館	2回15人																																																						
⑨江陽中学校	2回延べ578人	⑩中原中学校	6回延べ200人																																																						
⑪大原小学校	3回延べ101人	⑫横内中学校	1回61人																																																						
検証結果	A：成果があがった																																																								
今後の課題	現在、すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく必要がある。																																																								
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続																																																								
平成29年度	<p>「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>①花水小学校</td><td>282回延べ9,176人</td> <td>②平塚工科高等学校</td><td>2回延べ55人</td> <td>③花水公民館</td><td>22回延べ628人</td> </tr> <tr> <td>④花水台保育園</td><td>197回延べ3,901人</td> <td>⑤黒部丘幼稚園</td><td>66回延べ1,120人</td> <td>⑥なでしこ小学校</td><td>125回延べ4,290人</td> </tr> <tr> <td>⑦浜岳中学校</td><td>6回延べ1,585人</td> <td>⑧松原小学校</td><td>1回延べ557人</td> <td>⑨夕陽ヶ丘保育園</td><td>10回延べ205人</td> </tr> <tr> <td>⑩港小学校</td><td>1回延べ120人</td> <td>⑪松が丘小学校</td><td>4回延べ422人</td> <td>⑫大原小学校</td><td>9回延べ458人</td> </tr> <tr> <td>⑬神田中学校</td><td>3回延べ417人</td> <td>⑭松延小学校</td><td>4回延べ114人</td> <td>⑮南原保育園</td><td>3回延べ57人</td> </tr> <tr> <td>⑯南原小学校</td><td>2回延べ261人</td> <td>⑰中原中学校</td><td>2回延べ535人</td> <td>⑱山城中学校</td><td>3回延べ1,054人</td> </tr> <tr> <td>⑲八幡小学校</td><td>3回延べ86人</td> <td>⑳横内小学校</td><td>10回550人</td> <td>㉑横内中学校</td><td>1回延べ59人</td> </tr> <tr> <td>㉒旭陵中学校</td><td>2回延べ424人</td> <td>合計 11地区</td><td>実施回数758回</td> <td>延べ26,074人</td><td></td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">検証結果</td> <td>A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td>今後も取組が他地区へも広がっていくことが望まれるため、協議会をはじめ保育園等とも協力・連携し、命の大切さや尊さを伝える普及啓発を推進する。すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく。</td> </tr> <tr> <td>今後の事業展開とその判断理由</td> <td>① 現状の規模で継続</td> </tr> </table>			①花水小学校	282回延べ9,176人	②平塚工科高等学校	2回延べ55人	③花水公民館	22回延べ628人	④花水台保育園	197回延べ3,901人	⑤黒部丘幼稚園	66回延べ1,120人	⑥なでしこ小学校	125回延べ4,290人	⑦浜岳中学校	6回延べ1,585人	⑧松原小学校	1回延べ557人	⑨夕陽ヶ丘保育園	10回延べ205人	⑩港小学校	1回延べ120人	⑪松が丘小学校	4回延べ422人	⑫大原小学校	9回延べ458人	⑬神田中学校	3回延べ417人	⑭松延小学校	4回延べ114人	⑮南原保育園	3回延べ57人	⑯南原小学校	2回延べ261人	⑰中原中学校	2回延べ535人	⑱山城中学校	3回延べ1,054人	⑲八幡小学校	3回延べ86人	⑳横内小学校	10回550人	㉑横内中学校	1回延べ59人	㉒旭陵中学校	2回延べ424人	合計 11地区	実施回数758回	延べ26,074人		検証結果	A：成果があがった	今後の課題	今後も取組が他地区へも広がっていくことが望まれるため、協議会をはじめ保育園等とも協力・連携し、命の大切さや尊さを伝える普及啓発を推進する。すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく。	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続
①花水小学校	282回延べ9,176人	②平塚工科高等学校	2回延べ55人	③花水公民館	22回延べ628人																																																				
④花水台保育園	197回延べ3,901人	⑤黒部丘幼稚園	66回延べ1,120人	⑥なでしこ小学校	125回延べ4,290人																																																				
⑦浜岳中学校	6回延べ1,585人	⑧松原小学校	1回延べ557人	⑨夕陽ヶ丘保育園	10回延べ205人																																																				
⑩港小学校	1回延べ120人	⑪松が丘小学校	4回延べ422人	⑫大原小学校	9回延べ458人																																																				
⑬神田中学校	3回延べ417人	⑭松延小学校	4回延べ114人	⑮南原保育園	3回延べ57人																																																				
⑯南原小学校	2回延べ261人	⑰中原中学校	2回延べ535人	⑱山城中学校	3回延べ1,054人																																																				
⑲八幡小学校	3回延べ86人	⑳横内小学校	10回550人	㉑横内中学校	1回延べ59人																																																				
㉒旭陵中学校	2回延べ424人	合計 11地区	実施回数758回	延べ26,074人																																																					
検証結果	A：成果があがった																																																								
今後の課題	今後も取組が他地区へも広がっていくことが望まれるため、協議会をはじめ保育園等とも協力・連携し、命の大切さや尊さを伝える普及啓発を推進する。すでに読み聞かせ等を実施している団体や学校にも「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用と実績報告をしてもらえるよう周知していく。																																																								
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続																																																								
<b>備考 (その他)</b>																																																									

5 (3) 1	一時預かり事業 (2 (1) 1再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保護者の断続的な就労、病気や育児疲れの解消等の理由で、子どもの保育ができないときの緊急・一時的な保育を行います。 [対象：就学前児童]		施設型給付の幼稚園や民間保育所でも一時預かりを実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	・民間保育所20園で実施 (延べ利用児童数13,296人)		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	・民間保育所19園で実施 (延べ利用児童数15,412人)		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	・民間保育所19園で実施 (延べ利用児童数17,036人)		
	検証結果	A : 成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (3) 2	ファミリー・サポート事業 (2 (1) 2再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育ての援助を受けたい方 (依頼会員) と子育ての援助を行いたい方 (支援会員) を組織化し、幼稚園・保育所等への送迎及びその前後の預かり等の育児の援助活動の橋渡しを行います。 [依頼会員：0歳からおおむね9歳までの児童の保護者]		支援会員に対する講習時間を段階的に増やし、支援サービスの向上を図ります。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会員入会説明会を2回開催。</li> <li>・支援会員の講習会を2回開催。</li> <li>・支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。</li> <li>・支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。</li> <li>・支援会員サポートを5回開催。</li> </ul> 会員数：支援会員291人、依頼会員1,455人、内両方会員30人 活動件数：2,834件 前年度の課題への取組状況：平成30年度の取組を継続して実施することで周知を図り、支援会員の増加に向けた取組を行った。		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	引き続き支援会員の増加を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続 令和2年4月1日から支援会員の処遇向上を目的に、依頼会員が支援会員に支払う報酬(基準)のうち、1時間あたり900円の時間帯を「午前6時～午後10時」から「午前7時～午後7時」に変更。	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会員入会説明会を2回開催。</li> <li>・支援会員の講習会を2回開催。</li> <li>・支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。</li> <li>・支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。</li> <li>・支援会員サポートを4回開催。</li> </ul> 会員数：支援会員283人、依頼会員1,371人、内両方会員30人 活動件数：2,252件 前年度の課題への取組状況：広報ひらつかやホームページ等での周知に加え、元気応援ポイント説明会や福祉村会議で本事業の周知や、以前依頼会員として登録していた方へ支援会員への移行をご案内するなど、支援会員の増加に向けた取組を行った。		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	引き続き支援会員の増加を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	②拡大して継続 対象年齢について、平成31年4月から依頼会員のお子さんの対象年齢を小学校6年生まで拡大。(従来はおおむね9歳まで)	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会員入会説明会を2回開催。</li> <li>・支援会員の講習会を2回開催。</li> <li>・支援会員のフォローアップ研修会を1回開催。</li> <li>・支援会員と依頼会員間の交流会を1回開催。</li> </ul> 会員数：支援会員326人、依頼会員1,331人、内両方会員42人 活動件数：2,798件		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	支援会員の増加を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			



5 (3) 3	子育て支援センター事業 (2 (2) 1再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>子育て家庭に対する育児不安等についての相談支援、各種子育てに係る情報提供、親子の気軽な交流の場としての子育てサロンの運営、子育てサークルや子育て支援活動への支援を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕</p>		<p>安心して子育てができるように引き続き子育て支援センター事業を推進します。</p>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>・1か所を実施。 利用者数：大人 8,788人、子ども 10,821人、合計 19,609人 相談件数：面接 2,919件、電話 23件、その他 367件</p> <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（ミニコンサート、人形劇、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年3月2日から臨時休所。ただし、電話での相談は受け付けた。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>・1か所を実施。 利用者数：大人10,729人、子ども 12,805人、合計23,534人 相談件数：面接3,568件、電話28件、その他389件</p> <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（ミニコンサート、人形劇、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>・1か所を実施。 利用者数：大人11,093人、子ども13,953人、合計25,046人 相談件数：面接3,760件、電話32件、その他423件</p> <p>1日2回の自由に参加できるジョイフルタイムでは、手遊び・紙芝居・リトミック・歌などを行い、親子で楽しい時間を共有している。また、月に1回のスペシャルジョイフルタイムでは、利用者の中のボランティアなどにより、色々な催し（ミニコンサート、人形劇、読み聞かせなど）を、育児講座「わくわくタイム」、「わくわくデイ」では赤ちゃんマッサージ、乳幼児の健康と食事などの講座を概ね月1～2回開催している。その他、アドバイザーの派遣による地域育児サークル支援、子育て関連情報の提供等を実施している。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (3) 4	つどいの広場事業 (2 (2) 2再掲)	担当課	保育課															
<b>事業の概要 (計画掲載内容)</b> 主に乳幼児を持つ親と子どもが気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で語り合うことで、精神的な安心感をもたらし、問題解決への糸口となる機会(場)を提供します。〔対象：おおむね0～3歳児及び保護者〕		<b>今後の取組み (計画掲載内容)</b> ・平成29年4月から新たなつどいの広場1か所を開設できるように準備を進めます。 ・安心して子育てができるように引続きつどいの広場事業を推進します。																
<b>各年度における主な取組み等</b>																		
令和元年度	・5か所で実施。 月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、ひな人形等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。 <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">「つどいの広場 もこもこ」</td> <td style="width: 30%;">利用者数：大人 3,623人、子ども 3,806人、合計 7,429人、</td> <td style="width: 40%;">相談件数：411件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 きりんのおうち」</td> <td>利用者数：大人 5,819人、子ども 6,298人、合計 12,117人、</td> <td>相談件数：800件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 どれみ」</td> <td>利用者数：大人 2,989人、子ども 3,733人、合計 6,722人、</td> <td>相談件数：178件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 ぼけっと」</td> <td>利用者数：大人 2,011人、子ども 2,158人、合計 4,169人、</td> <td>相談件数：38件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 ここにくらす」</td> <td>利用者数：大人 1,171人、子ども 1,305人、合計 2,476人、</td> <td>相談件数：20件</td> </tr> </table> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年2月29日から臨時休所。			「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人 3,623人、子ども 3,806人、合計 7,429人、	相談件数：411件	「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人 5,819人、子ども 6,298人、合計 12,117人、	相談件数：800件	「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人 2,989人、子ども 3,733人、合計 6,722人、	相談件数：178件	「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人 2,011人、子ども 2,158人、合計 4,169人、	相談件数：38件	「つどいの広場 ここにくらす」	利用者数：大人 1,171人、子ども 1,305人、合計 2,476人、	相談件数：20件
「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人 3,623人、子ども 3,806人、合計 7,429人、	相談件数：411件																
「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人 5,819人、子ども 6,298人、合計 12,117人、	相談件数：800件																
「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人 2,989人、子ども 3,733人、合計 6,722人、	相談件数：178件																
「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人 2,011人、子ども 2,158人、合計 4,169人、	相談件数：38件																
「つどいの広場 ここにくらす」	利用者数：大人 1,171人、子ども 1,305人、合計 2,476人、	相談件数：20件																
平成30年度	・5か所で実施。 月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、ひな人形等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。 <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">「つどいの広場 もこもこ」</td> <td style="width: 30%;">利用者数：大人4,262人、子ども4,585人、合計 8,847人、</td> <td style="width: 40%;">相談件数：532件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 きりんのおうち」</td> <td>利用者数：大人7,237人、子ども7,724人、合計14,961人、</td> <td>相談件数：920件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 どれみ」</td> <td>利用者数：大人3,731人、子ども4,382人、合計 8,113人</td> <td>相談件数：211件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 ぼけっと」</td> <td>利用者数：大人2,498人、子ども2,618人、合計 5,116人、</td> <td>相談件数：42件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 ここにくらす」※</td> <td>利用者数：大人 303人、子ども 349人、合計 652人、</td> <td>相談件数：15件</td> </tr> </table> ※平成30年11月開所			「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人4,262人、子ども4,585人、合計 8,847人、	相談件数：532件	「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人7,237人、子ども7,724人、合計14,961人、	相談件数：920件	「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人3,731人、子ども4,382人、合計 8,113人	相談件数：211件	「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人2,498人、子ども2,618人、合計 5,116人、	相談件数：42件	「つどいの広場 ここにくらす」※	利用者数：大人 303人、子ども 349人、合計 652人、	相談件数：15件
「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人4,262人、子ども4,585人、合計 8,847人、	相談件数：532件																
「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人7,237人、子ども7,724人、合計14,961人、	相談件数：920件																
「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人3,731人、子ども4,382人、合計 8,113人	相談件数：211件																
「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人2,498人、子ども2,618人、合計 5,116人、	相談件数：42件																
「つどいの広場 ここにくらす」※	利用者数：大人 303人、子ども 349人、合計 652人、	相談件数：15件																
平成29年度	・4か所で実施。 月1～2回、親子等を対象として講師を招いての子育て講演会、各種手作り講座(七夕飾り、ひな人形等)、コンサート、読み聞かせ、クリスマス会等のイベントを開催。 <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">「つどいの広場 もこもこ」</td> <td style="width: 30%;">利用者数：大人3,798人、子ども3,996人、合計 7,794人、</td> <td style="width: 40%;">相談件数：702件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 きりんのおうち」</td> <td>利用者数：大人7,666人、子ども8,279人、合計15,945人、</td> <td>相談件数：907件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 どれみ」</td> <td>利用者数：大人3,980人、子ども4,488人、合計 8,468人、</td> <td>相談件数：244件</td> </tr> <tr> <td>「つどいの広場 ぼけっと」</td> <td>利用者数：大人2,650人、子ども2,777人、合計 5,427人、</td> <td>相談件数：41件</td> </tr> </table>			「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人3,798人、子ども3,996人、合計 7,794人、	相談件数：702件	「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人7,666人、子ども8,279人、合計15,945人、	相談件数：907件	「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人3,980人、子ども4,488人、合計 8,468人、	相談件数：244件	「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人2,650人、子ども2,777人、合計 5,427人、	相談件数：41件			
「つどいの広場 もこもこ」	利用者数：大人3,798人、子ども3,996人、合計 7,794人、	相談件数：702件																
「つどいの広場 きりんのおうち」	利用者数：大人7,666人、子ども8,279人、合計15,945人、	相談件数：907件																
「つどいの広場 どれみ」	利用者数：大人3,980人、子ども4,488人、合計 8,468人、	相談件数：244件																
「つどいの広場 ぼけっと」	利用者数：大人2,650人、子ども2,777人、合計 5,427人、	相談件数：41件																
<b>備考 (その他)</b>																		

5 (3) 5	開放保育事業 (2 (2) 3再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>地域の未就園児とその保護者に保育所の園庭や施設を開放し、園児との交流や保護者同士の交流を図り、保育士による育児相談や情報提供を行います。〔対象：就学前児童及び保護者〕</p>		<p>保育所29園で概ね週1回程度、保育所を開放し、育児情報の提供や育児相談等を実施します。</p>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所33園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所33園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所33園で実施</li> <li>・概ね週1回程度、保育園を開放し育児情報の提供や育児相談等を積極的に実施した。</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (3) 6	赤ちゃん広場事業 (2 (2) 4再掲)	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保育所が、1歳未満の乳児を育てる親を対象に、育児不安等についての相談、子育てに係る情報の提供、親子の気軽な交流の場の提供を行います。〔対象：1歳未満の乳児及び保護者〕		公立保育所5園で、育児不安等についての相談を受けたり、子育てに係る情報の提供を実施します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育所7園及び認定こども園1園で実施</li> <li>神田保育園・・・参加 5組      南原保育園・・・参加79組</li> <li>吉沢保育園・・・参加 1組      しらさぎ保育園・参加23組</li> <li>夕陽ヶ丘保育園・参加11組      若草保育園・・・参加 8組</li> <li>大神保育園・・・参加 2組      港こども園・・・参加 7組</li> </ul> <p>合 計・・・実施70回、参加136組</p>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 今年度から公立園全園で実施	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育所3園で実施 (月2回)</li> <li>花水台保育園・・・実施23回、参加 8組</li> <li>夕陽ヶ丘保育園・実施24回、参加 6組</li> <li>若草保育園・・・実施24回、参加 8組</li> <li>合 計・・・実施71回、参加22組</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 花水台保育園の民営化に伴い規模を縮小して実施する。	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育所3園で実施 (月2回)</li> <li>花水台保育園・・・実施23回、参加20組</li> <li>夕陽ヶ丘保育園・実施23回、参加14組</li> <li>若草保育園・・・実施24回、参加 8組</li> <li>合 計・・・実施70回、参加42組</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 花水台保育園の民営化に伴い規模を縮小して実施する。	
備考 (その他)			

5 (4) ①1	育てにくさを感じる親に寄り添う支援	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育て中の親が育児に対して少しでも余裕と自信を持つことができるように、育てにくさを感じている親の実態を把握しながら支援していきます。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診票から実態を把握します。</li> <li>・子育ての仕方や発育発達の知識を普及します。</li> <li>・幼児健診事後フォロー教室を実施します。</li> </ul>	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診票から育てにくさを感じている親の割合を集計し把握した。 1歳6か月児健診 (育てにくさ) 感じる人0.5% 時々感じる人20.4% 3歳児健診 (育てにくさ) 感じる人1.6% 時々感じる人26.9%</li> <li>・幼児健診事後フォロー教室については1歳6か月児健診事後フォロー教室を3教室、3歳児健診事後フォロー教室を1教室開催した。 びよびよ教室22回/年 参加者数503人 たまご教室 21回/年 参加者数455人 ころころ教室 8回/年 参加者数124人 (開催期間は4月～7月) なかよし教室13回/年 参加者数260人 (開催期間は8月～3月)</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診票から育てにくさを感じている親の割合を集計し把握した。 1歳6か月児健診 (育てにくさ) 感じる人0.4% 時々感じる人20.5% 3歳児健診 (育てにくさ) 感じる人1.4% 時々感じる人24.4%</li> <li>・幼児健診事後フォロー教室については1歳6か月児健診事後フォロー教室を2教室、3歳児健診事後フォロー教室を1教室開催した。 びよびよ教室24回/年 参加者数492人 たまご教室 24回/年 参加者数551人 なかよし教室24回/年 参加者数402人</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	年齢が上がるごとに育てにくさを感じる人が増えているため、今後も健診・相談等を通じて支援をしていく。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診票から育てにくさを感じている親の割合を集計し把握した。 1歳6か月児健診 (育てにくさ) 感じる人0.8% 時々感じる人21.5% 3歳児健診 (育てにくさ) 感じる人1.1% 時々感じる人27.9%</li> <li>・幼児健診事後フォロー教室については1歳6か月児健診事後フォロー教室を2教室、3歳児健診事後フォロー教室を1教室開催した。 びよびよ教室24回/年 参加者数613人 たまご教室 24回/年 参加者数628人 なかよし教室22回/年 参加者数426人</li> </ul>		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	年齢が上がるごとに育てにくさを感じる人が増えているため、今後も健診・相談等を通じて支援をしていく	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (4) ①2	子育て講座	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
子育ての悩みがある親に対して、子どもとの関わり方や親子関係を改善していきます。		子育ての悩みがある親に対して、子どもとの関わり方や親子関係を改善していく講座を開催します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	子育て講座を2月～3月にダイジェスト版2回、通常版2回を実施。ただし、通常版は、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、2回とも2日目を中止。		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	開催回数、時期について検討	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	子育て講座 1回実施。		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	開催時期、講座内容について検討	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	子育て講座 1回実施。		
	検証結果	B：おおむね成果があがった	
	今後の課題	開催時期、講座内容について検討	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (4) ①3	ペアレントトレーニング	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>発達に障がいを持つ子どもの養育は難しく、親が子育てに自信を失いがちであることから、ペアレントトレーニングの効果が見込まれる希望者に対して、10回コースの講座を実施します。また、より多くの保護者へのダイジェスト講座、幼稚園・保育所、小・中学校等の指導者向け講座であるティーチャーズトレーニングも実施していきます。</p>		<p>より多くの保護者が受講できるように講座の実施方法を工夫します。また、講座修了者に対して、同じ立場から共感的に悩み等を聞くことができる「ペアレントメンター」として活動してもらえるようにその育成に取組みます。</p>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>3グループ実施 (3グループ目は現在実施中) 参加者数：25人</p> <p>ティーチャーズトレーニング 9回 ペアレントメンター養成講座 4回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	引き続き、講座修了者からペアレントメンターを養成する。	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>① 現状の規模で継続</p> <p>ペアレントメンターの活躍の場を確保する。</p>	
平成30年度	<p>3グループ実施 (計画策定時は10回コースだったが、内容を見直し、8回コースに変更) 参加者数：27人</p> <p>ティーチャーズトレーニング 9回 ペアレントメンター養成講座 4回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	引き続き、講座修了者からペアレントメンターを養成する。	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>① 現状の規模で継続</p> <p>ペアレントメンターの活躍の場を確保する</p>	
平成29年度	<p>2グループ実施 (計画策定時は10回コースだったが、内容を見直し、8回コースに変更) 参加者数：18人</p> <p>ティーチャーズトレーニング 4回 ペアレントメンター養成講座 5回</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	引き続き、講座修了者からペアレントメンターを養成する。	
	今後の事業展開とその判断理由	<p>① 現状の規模で継続</p> <p>ペアレントメンターの活躍の場を確保する</p>	
備考 (その他)			

5 (4) ②1	こども発達支援室の療育相談	担当課	こども家庭課
<b>事業の概要 (計画掲載内容)</b> 子どもの発達の不安に対応するために電話や面接により相談を行います。また、心理相談、言語聴覚士による相談、作業療法士による相談、小児精神科医による相談、一般相談等、子育てについての不安や悩みの相談を受け付けます。		<b>今後の取組み (計画掲載内容)</b> 相談事業を継続します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	健診や幼稚園・保育園などでは保護者の困り感を見つけると、こども発達支援室を紹介する。相談を通じ個々の子どもに適した支援方法を保護者とともに検討した。 (個別の来所相談) ・心理相談 週5回実施 延べ1,280件 ・言語聴覚士による相談 月6回実施 延べ152件 ・作業療法士による相談 週4回実施 延べ452件 ・児童精神科医による相談 月1回実施 延べ33件 ・ことばの相談員による相談 週5回実施 延べ974件 ・一般相談 随時 延べ211件、電話による相談493件 (グループや事業における相談) ・経過観察グループ 全グループ 182回、実施実人数 124人、子育て交流ひろば 実施回数 39回、参加人数 延べ248人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	園生活で支援を必要とする児への援助方法について職員への機関支援を継続していくことで、相談数の減少を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 園訪問や巡回相談等の事業の展開と発達支援コーディネーターの育成。	
平成30年度	健診や幼稚園・保育園などでは保護者の困り感を見つけると、こども発達支援室を紹介する。相談を通じ個々の子どもに適した支援方法を保護者とともに検討した。 (個別の来所相談) ・心理相談 週5回実施 延べ1,330件 ・言語聴覚士による相談 月6回実施 延べ197件 ・作業療法士による相談 週4回実施 延べ771件 ・児童精神科医による相談 月1回実施 延べ33件 ・ことばの相談員による相談 週5回実施 延べ1,502件 ・一般相談 随時 延べ281件、電話による相談781件 (グループや事業における相談) ・経過観察グループ 全グループ 149回、実施実人数 116人、子育て交流ひろば 実施回数 24回、参加人数 延べ449人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	園生活で支援を必要とする児への援助方法について職員への機関支援を継続していくことで、相談数の減少を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 園訪問や巡回相談等の事業の展開と発達支援コーディネーターの育成。	
平成29年度	健診や幼稚園・保育園などでは保護者の困り感を見つけると、こども発達支援室を紹介する。相談を通じ個々の子どもに適した支援方法を保護者とともに検討した。 (個別の来所相談) ・心理相談 週5回実施 延べ1707件 ・言語聴覚士による相談 月6回実施 延べ211件 ・作業療法士による相談 週4回実施 延べ806件 ・児童精神科医による相談 月1回実施 延べ29件 ・ことばの相談員による相談 週5回実施 延べ1705件 ・一般相談 随時 延べ291件、電話による相談877件 (グループや事業における相談) ・経過観察グループ 全グループ 137回、実施実人数 96人 ・子育て交流ひろば 実施回数 24回、参加人数 延べ499人		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	園生活で支援を必要とする児への援助方法について職員への機関支援を継続していくことで、相談数の減少を図る。	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続 園訪問や巡回相談等の事業の展開と発達支援コーディネーターの育成。	
<b>備考 (その他)</b>			



5 (4) ③1	地域療育システム事業	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
障がい児、発達に偏りのある子どもの発達を支援し、身近な地域で安心して生活できるように医療・保健・教育・地域・福祉等の連携を図ります。		関係機関との連携を継続・強化します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	一人一人の子どもに対する支援方法について、医療・保健・教育・地域・福祉など様々な機関と意見交換を重ね、地域での療育支援の連携(システム化)を図った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども発達支援室による各機関との主に電話による連携 338回 (567件)</li> <li>・保育園・幼稚園等巡回訪問による連携 79回 (104件)</li> <li>・相談ケースの就学移行支援として、小学校への巡回訪問による連携 学校数延べ73回(校)、児童数488人(実人数)</li> <li>・幼稚園・保育所職員等の実習受け入れ 13人</li> <li>・障がい児の機能訓練に関する関係機関連絡会 0回</li> <li>・障がい児保育推進会議 8回</li> <li>・子ども教育相談センター主催の平塚市相談支援チームの情報交換会 2回</li> <li>・公立幼稚園障がい児受け入れ会議 1回</li> <li>・支援報告書提供数 230件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	就学後の相談者数の増加に対応するための事業の展開。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 5歳児健康診査後についても、子どもの発達を継続的に支援する。	
平成30年度	一人一人の子どもに対する支援方法について、医療・保健・教育・地域・福祉など様々な機関と意見交換を重ね、地域での療育支援の連携(システム化)を図った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども発達支援室による各機関との主に電話による連携 382回 (475件)</li> <li>・保育園・幼稚園等巡回訪問による連携 90回 (140件)</li> <li>・相談ケースの就学移行支援として、小学校への巡回訪問による連携 学校数延べ84回(校)、児童数587人(実人数)</li> <li>・幼稚園・保育所職員等の実習受け入れ 39人</li> <li>・障がい児の機能訓練に関する関係機関連絡会 1回</li> <li>・障がい児推進会議 10回</li> <li>・子ども教育相談センター主催の平塚市相談支援チームの情報交換会 2回</li> <li>・公立幼稚園障がい児受け入れ会議 2回</li> <li>・支援報告書提供数 275件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	就学後の相談者数の増加に対応するための事業の展開。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 5歳児健康診査後についても、子どもの発達を継続的に支援する。	
平成29年度	一人一人の子どもに対する支援方法について、医療・保健・教育・地域・福祉など様々な機関と意見交換を重ね、地域での療育支援の連携(システム化)を図った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども発達支援室による各機関との主に電話による連携 470回 (589件)</li> <li>・保育園・幼稚園等巡回訪問による連携 83回 (106件)</li> <li>・相談ケースの就学移行支援として、小学校への巡回訪問による連携 学校数延べ78回(校)、児童数464人(実人数)</li> <li>・幼稚園・保育所職員等の実習受け入れ 46人</li> <li>・障がい児の機能訓練に関する関係機関連絡会 2回</li> <li>・障がい児推進会議 9回</li> <li>・子ども教育相談センター主催の平塚市相談支援チームの情報交換会 1回</li> <li>・公立幼稚園障がい児受け入れ会議 2回</li> <li>・支援報告書提供数 307件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	就学後の相談者数の増加に対応するための事業の展開。	
	今後の事業展開とその判断理由	② 拡大して継続 5歳児健康診査後についても、子どもの発達を継続的に支援する。	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (4) ③2	福祉サービス費の支給	担当課	こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
障がい児等に対する各種福祉サービス費を支給し、障がい児等の発達支援、及び保護者の介護負担軽減を図ります。		サービスについての情報提供をし、適切に支給します。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい児に対する児童福祉法及び障害者総合支援法による各種サービス費の支給：受給者数694人</li> <li>児童福祉法による障害児通所支援等の市内事業所数 児童発達支援センター…1、児童発達支援…8、放課後等デイサービス…25、保育所等訪問支援…3 障害児相談支援…17</li> <li>障害者総合支援法による障がい児を対象とした障害福祉サービスに係る市内事業所数 居宅介護…25、短期入所…7、移動支援事業…15、日中一時支援…13、障がい児タイムケア事業…1</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	増加する支給量へ対応するための支援内容の適正化	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい児に対する児童福祉法及び障害者総合支援法による各種サービス費の支給：受給者数677人</li> <li>児童福祉法による障害児通所支援等の事業所数 児童発達支援センター…1、児童発達支援…7、放課後等デイサービス…22、保育所等訪問支援…2 障害児相談支援…16</li> <li>障害者総合支援法による障がい児を対象とした障害福祉サービスに係る事業所数 居宅介護…37、短期入所…11、移動支援事業…32、日中一時支援…18、障がい児タイムケア事業…1</li> </ul> <p>※事業所のうち、移動支援事業・日中一時支援は平塚市域を事業エリアとしているものであり、その他は平塚市に所在するものである。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	増加する支給量へ対応するための支援内容の適正化	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい児に対する児童福祉法及び障害者総合支援法による各種サービス費の支給：受給者数686人</li> <li>児童福祉法による障害児通所支援等の事業所数 児童発達支援センター…1、児童発達支援…8、放課後等デイサービス…23、保育所等訪問支援…2 障害児相談支援…17</li> <li>障害者総合支援法による障がい児を対象とした障害福祉サービスに係る事業所数 居宅介護…32、短期入所…6、移動支援事業…28、日中一時支援…9、障がい児タイムケア事業…1</li> </ul> <p>※事業所は、平塚市域を事業エリアとしているものであり、短期入所のみ平塚市に所在するものである。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	増加する支給量へ対応するための支援内容の適正化	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (4) ③3	障がい児保育	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
保育所において、保育を必要とし、集団保育が可能な障がい児を受入れて保育を行います。〔対象：就学前児童〕		・障がいを持つ乳幼児を受入れ、保育を実施します。 ・保育士が障がい児保育講習会や研修会へ積極的に参加していきます。	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	・障がい児の保育を実施 公立 17人 (延べ170人) 私立 37人 (延べ375人) ・保育士の障害児保育講習会・研修会への積極的な参加		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	・障がい児の保育を実施 公立 21人 (延べ239人) 私立 37人 (延べ382人) ・保育士の障害児保育講習会・研修会への積極的な参加		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	・障がい児の保育を実施 公立 21人 (延べ241人) 私立 41人 (延べ416人) ・保育士の障害児保育講習会・研修会への積極的な参加		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (4) ③4	統合保育	担当課	保育課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
<p>保育を必要としないが、集団保育による療育を必要とする児童を対象に、健常児との関わりの中で、児童の発達促進を図るため、保育所における統合保育を行います。          なお、保育所の待機児童の解消との関連を視野に入れながら、実施について検討するものとします。          [対象：就学前児童]</p>		<p>統合保育の実施に向けた検討を継続します。</p>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<p>市内保育所では、定員を大幅に超えて児童の受入れを行っているため、さらなる入所枠を必要とする「統合保育」の実施は非常に厳しい状況となっている。今後の入所児童数の推移を見ながら事業実施方法の検討をしていきたい。          なお、令和元年度は、保育を必要とする集団保育が可能な障がい児54人（延べ545人）を受け入れ、健常児との保育を行っている。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<p>市内保育所では、定員を大幅に超えて児童の受入れを行っているため、さらなる入所枠を必要とする「統合保育」の実施は非常に厳しい状況となっている。今後の入所児童数の推移を見ながら事業実施方法の検討をしていきたい。          なお、平成30年度は、保育を必要とする集団保育が可能な障がい児58人（延べ621人）を受け入れ、健常児との保育を行っている。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<p>市内保育所では、定員を大幅に超えて児童の受入れを行っているため、さらなる入所枠を必要とする「統合保育」の実施は非常に厳しい状況となっている。今後の入所児童数の推移を見ながら事業実施方法の検討をしていきたい。          なお、平成29年度は、保育を必要とする集団保育が可能な障がい児62人（延べ657人）を受け入れ、健常児との保育を行っている。</p>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題		
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (4) ③5	体験・交流保育事業	担当課	保育課 学務課 教育指導課 こども家庭課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
乳幼児健診、育児相談及び療育相談等でフォローが必要とされる児童を対象に、幼稚園や保育所において、健常児と集団生活をともに経験することにより、児童の健やかな成長を図り、また、保護者への育児支援を行います。〔対象：就学前児童〕		・乳幼児健診や育児相談等においてフォローが必要とされる児童を受け入れ、体験保育を実施します。 ・障がいのあるなしにかかわらず、全ての園児が幼稚園において集団で生活し、ともに活動できるように支援します。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<p>保育課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診や育児相談等においてフォローが必要とされる児童を受け入れ、体験保育を実施した。</li> <li>・アグネス園や県立ろう学校などの児童を受け入れ、交流保育を実施した。</li> </ul> <p>学務課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある幼児の受入枠として公立幼稚園4園で6人を受け入れた。</li> </ul> <p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園で日常的に集団で生活し、活動を共にする中で、園児がそれぞれの「良さ」や「自分らしさ」を大切にし、お互いを受け止め合えるよう支援した。</li> </ul> <p>こども家庭課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養育の難しいケースについて保育園より相談を受け情報共有をし連携、関係機関に繋ぐ。</li> <li>・個人交流保育0件、体験保育3件、集団交流保育3件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	障がいのある幼児の受け入れ及び保育を行うための適切な介助員等の配置と施設の確保。	
	今後の事業展開とその判断理由	③縮小して継続 令和元年度末にさくら、金目幼稚園が廃園となるため、公立園の支援枠の受け入れ人数が縮小される。	
平成30年度	<p>保育課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診や育児相談等においてフォローが必要とされる児童を受け入れ、体験保育を実施した。</li> <li>・アグネス園や県立ろう学校などの児童を受け入れ、交流保育を実施した。</li> </ul> <p>学務課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある幼児の受入枠として公立幼稚園全体で15人受け入れを行った。</li> </ul> <p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある幼児と障がいのない幼児が、幼稚園で日常的に集団で生活し、活動を共にした。</li> </ul> <p>こども家庭課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養育の難しいケースについて保育園より相談を受け情報共有をし連携、関係機関に繋ぐ。</li> <li>・個人交流保育3件、体験保育1件、集団交流保育2件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	障がいのある幼児の受け入れ及び保育を行うための適切な介助員等の配置と施設の確保。	
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 平成31年度末にさくら、金目幼稚園が廃園となるため、公立園の支援枠の受け入れ人数が縮小される。	
平成29年度	<p>保育課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診や育児相談等においてフォローが必要とされる児童を受け入れ、体験保育を実施した。</li> <li>・アグネス園や県立ろう学校などの児童を受け入れ、交流保育を実施した。</li> </ul> <p>教育総務課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある幼児の受入枠として公立幼稚園全体で14人受け入れを行った。</li> </ul> <p>教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある幼児と障がいのない幼児が、幼稚園で日常的に集団で生活し、活動を共にした。</li> </ul> <p>こども家庭課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養育の難しいケースについて保育園より相談を受け情報共有をし連携、関係機関に繋ぐ。</li> <li>・個人交流保育6件、体験保育2件、集団交流保育1件</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	障がいのある幼児の受け入れ及び保育を行うための適切な介助員等の配置。 障がいのある幼児の受け入れ施設の確保。	
	今後の事業展開とその判断理由	③ 縮小して継続 平成31年度末にさくら、金目幼稚園が廃園となるため、支援枠の受け入れ人数が縮小される。	
<b>備考 (その他)</b>			

5 (4) ③6	支援教育等の推進・充実事業	担当課	子ども教育相談センター
<b>事業の概要（計画掲載内容）</b> 特別な配慮を要する児童・生徒へよりよい支援を行うために、必要に応じて小・中学校に相談支援チームを派遣して校内支援体制の整備を推進するとともに、各種研究会・研修会を実施します。〔対象：小・中学校〕		<b>今後の取組み（計画掲載内容）</b> 支援教育の理解や校内支援体制の充実を図るために、相談支援チームの派遣や、内容を精査した研究会・研修会等の開催に努めます。	
<b>各年度における主な取組み等</b>			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級訪問研究会・・・3回実施、参加者延べ229人</li> <li>・通級指導教室訪問研究会・・・4回実施、参加者延べ161人</li> <li>・特別支援教育研修会・・・6回実施、参加者延べ312人</li> <li>・教育相談・支援教育研修会・・・7回実施、参加者延べ514人（教育相談コーディネーター担当者会及び特別支援教育研修会からの参加者を含む。）</li> <li>・相談支援チームの派遣・・・40回実施、対象児童生徒数延べ40人</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	研修会や研究会の内容を精査し、実施の仕方を工夫して開催した。今後も、校種間、関係機関等と連携して校内支援体制を構築していく。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級訪問研究会・・・3回実施、参加者延べ219人</li> <li>・通級指導教室訪問研究会・・・4回実施、参加者延べ117人</li> <li>・特別支援教育研修会・・・6回実施、参加者延べ211人</li> <li>・教育相談・支援教育研修会・・・7回実施、参加者延べ514人（教育相談コーディネーター担当者会からの参加者を含む。）</li> <li>・相談支援チームの派遣・・・25回実施、対象児童生徒数延べ41人</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	研修会や研究会の内容を精査し、実施の仕方を工夫して開催している。今後も、校種間、関係機関等と連携して校内支援体制を構築していくことが必要である。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級訪問研究会・・・3回実施、参加者延べ250人</li> <li>・通級指導教室訪問研究会・・・4回実施、参加者延べ129人</li> <li>・特別支援教育研修会・・・7回実施、参加者延べ339人</li> <li>・夏季教育相談・支援教育研修会・・・6回実施、参加者延べ492人（教育相談コーディネーター担当者会からの参加者を含む。）</li> <li>・相談支援チームの派遣・・・36回実施、対象児童生徒数延べ57人</li> </ul>		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	研修会や研究会の内容を精査し、実施の仕方を工夫して開催している。今後も、校種間、関係機関等と連携して校内支援体制を構築していくことが必要である。	
	今後の事業展開とその判断理由	①現状の規模で継続	
<b>備考（その他）</b>			

5 (5) ①1	ハイリスク者への支援の充実	担当課	健康課
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)	
児童虐待防止のため、早期から必要な支援を提供できるように関係機関と連携していきます。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期におけるハイリスク者への対応を行います。</li> <li>・家庭訪問・健診等において機会を捉えた対応を行います。</li> </ul>	
各年度における主な取組み等			
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育て世代包括支援センター ひらつかネウボラールーム はぐくみ」では、母子健康手帳交付時に全妊婦と保健師、助産師、保育士が面接を実施し、生活状況などを聞き取り妊娠、出産への不安や悩みの相談に応じ、産後に向けて切れ目のない支援ができるよう取り組んでいる。</li> <li>・生活状況、育児状況、金銭状況で気になる方については、関係機関とも連携し早期から支援につなぐ取り組みを始めている。</li> <li>・妊娠期リスクアセスメントシートを活用し、関係機関（医療機関、行政機関等）と連携を取り早期からの支援を実施できた。</li> </ul> 支援実数 88件 支援会議3回		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	妊娠中から産後まで切れ目のない支援を実施するため、今後も継続していく	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育て世代包括支援センター ひらつかネウボラールーム はぐくみ」では、母子健康手帳交付時に全妊婦と保健師、助産師、保育士が面接を実施し、生活状況などを聞き取り妊娠、出産への不安や悩みの相談に応じ、産後に向けて切れ目のない支援ができるよう取り組んでいる。</li> <li>・生活状況、育児状況、金銭状況で気になる方については、関係機関とも連携し早期から支援につなぐ取り組みを始めている。</li> <li>・妊娠期リスクアセスメントシートを活用し、関係機関（医療機関、行政機関等）と連携を取り早期からの支援を実施できた。</li> </ul> 支援実数 83件 支援会議3回		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	妊娠中から産後まで切れ目のない支援を実施するため、今後も継続していく	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度より「子育て世代包括支援センター ひらつかネウボラールーム はぐくみ」を開設し、母子健康手帳の交付の窓口を保健センターへ1本化した。母子健康手帳交付時には、全妊婦と保健師、助産師、保育士が面接を実施し、生活状況などを聞き取り妊娠、出産への不安や悩みの相談に応じ、産後に向けて切れ目のない支援ができるよう取り組んでいる。</li> <li>・生活状況、育児状況、金銭状況で気になる方については、関係機関とも連携し早期から支援につなぐ取り組みを始めている。</li> <li>・周産期リスクアセスメントシートを活用し、関係機関（医療機関、行政機関等）と連携を取り早期からの支援を実施できた。</li> </ul> 支援実数90件 支援会議3回		
	検証結果	A：成果があがった	
	今後の課題	妊娠中から産後まで切れ目のない支援を実施するため、今後も継続していく	
	今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続	
備考 (その他)			

5 (5) ②1	児童虐待防止ネットワークの充実 (1 (2) 1再掲)	担当課	こども家庭課											
事業の概要 (計画掲載内容)		今後の取組み (計画掲載内容)												
<p>児童虐待は、こども総合相談担当を中心に相談を受け、児童の処遇対応をしていますが、必要に応じて援助活動チームを編成し、関係機関と連携を取り対応します。</p>		<p>平塚市児童虐待防止等ネットワークの構成機関と連携し、子育ての支援、虐待等の早期発見や未然防止及び対策を進めます。また、定期的の実務者会議を開催するとともに、個別ケース検討会議を随時開催します。</p>												
<b>各年度における主な取組み等</b>														
令和元年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議 98回</p> <table border="1" data-bbox="169 719 1367 938"> <tr> <td data-bbox="169 719 360 752">検証結果</td> <td colspan="2" data-bbox="360 719 1367 752">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 752 360 846">今後の課題</td> <td colspan="2" data-bbox="360 752 1367 846"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 846 360 938" rowspan="2">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="2" data-bbox="360 846 1367 880">① 現状の規模で継続</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="360 880 1367 938"></td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった		今後の課題			今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続			
検証結果	A：成果があがった													
今後の課題														
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続													
平成30年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議110回</p> <table border="1" data-bbox="169 1189 1367 1411"> <tr> <td data-bbox="169 1189 360 1223">検証結果</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1189 1367 1223">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 1223 360 1317">今後の課題</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1223 1367 1317"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 1317 360 1411" rowspan="2">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1317 1367 1350">① 現状の規模で継続</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="360 1350 1367 1411"></td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった		今後の課題			今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続			
検証結果	A：成果があがった													
今後の課題														
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続													
平成29年度	<p>・平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会活動により、児童虐待防止・解決のためのネットワークの充実を図った。 平塚市児童虐待防止等ネットワーク協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、援助方針会議4回、特定妊婦等支援会議3回、個別ケース検討会議78回</p> <table border="1" data-bbox="169 1662 1367 1883"> <tr> <td data-bbox="169 1662 360 1695">検証結果</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1662 1367 1695">A：成果があがった</td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 1695 360 1792">今後の課題</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1695 1367 1792"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="169 1792 360 1883" rowspan="2">今後の事業展開とその判断理由</td> <td colspan="2" data-bbox="360 1792 1367 1825">① 現状の規模で継続</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="360 1825 1367 1883"></td> </tr> </table>			検証結果	A：成果があがった		今後の課題			今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続			
検証結果	A：成果があがった													
今後の課題														
今後の事業展開とその判断理由	① 現状の規模で継続													
<b>備考 (その他)</b>														